

江戸川区
性の平等と多様性を尊重する社会づくり
に関する意識調査
報告書

令和8年5月

江戸川区

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査方法と回収状況	3
3. 調査結果を見る上での注意事項	5
第2章 大人向け調査結果の詳細	7
基本属性	9
(1) 性別	9
(2) 年代	9
(3) 家族構成	10
(4) 結婚の経験	10
(5) (既婚者) 夫婦の働き方	11
(6) 子どもの有無	11
(7) (子ども有の人) 末子の成長段階	12
(8) 居住年数	12
1. 男女平等意識について	13
(1) 男女の地位の平等感	13
(2) 家庭・結婚・離婚についての考え方	18
(3) 夫婦の役割分担	23
2. 女性の就労・活躍推進について	30
(1) 女性の働き方の現状と理想	30
(2) 女性の活躍が進まない要因	32
(3) 女性の活躍を推進するために必要な支援	33
3. 子育てについて	34
(1) 男性の育児参加についての考え方	34
(2) 男性の育児参加を促進するために重要なこと	35
(3) 男性の育児参加は必要ないと思う理由	36
4. 教育について	37
(1) 男女平等教育において重要なこと	37
5. 介護について	38
(1) 介護の役割分担についての考え方	38
(2) 男性の介護参加を促進するために重要なこと	39
6. 職業、ワーク・ライフ・バランスについて	40
(1) 職業	40
(2) 働き方	41
(3) 職場における男女格差	42

(4) 働いていない理由	43
(5) 今後の就労意向	45
(6) 生活の中での優先度	46
(7) 家庭生活と職業生活を両立するために重要なこと	48
7. 人権・女性に対する暴力について	49
(1) セクシュアル・ハラスメントを受けた経験	49
(2) パートナー（夫・妻・恋人）から暴力を受けた経験	51
(3) 暴力を受けたときの相談の有無	59
(4) 暴力を受けたときの相談相手	60
(5) 暴力をなくすために必要なこと	61
8. 職場におけるハラスメントについて	62
(1) 職場でハラスメントを受けた経験	62
9. 社会参画	63
(1) 地域活動への参加状況と参加意向	63
(2) 現在の女性の方針決定過程への参画についての考え方	65
(3) 今後の女性の方針決定過程への参画についての考え方	66
(4) 女性の社会進出に必要なこと	67
10. 性の多様性の尊重と人権について	68
(1) L G B T ・ S O G I の認知度	68
(2) 身近な L G B T 等の当事者の有無	69
(3) L G B T 等であることを打ち明けられた場合の対応	70
11. 防災について	72
(1) 防災対策や避難所の運営で重要なこと	72
12. 生涯を通じた健康支援について	73
(1) 生涯を通じた健康維持のために必要な支援	73
13. 困難な問題を抱える女性への支援策について	74
(1) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の認知度	74
(2) 困難な問題を抱える女性を支援するために必要な取組	75
第3章 子ども向け調査結果の詳細	77
基本属性	79
(1) 性別	79
(2) 年代	79
1. 固定的性別役割分担意識について	80
(1) 固定的性別役割分担意識についての考え方	80
2. 性別による違いへの考え方について（中学生以上）	83
(1) 性別による得意科目の違いについての考え方	83
(2) 性別を理由とした進路への批判	89
(3) 批判した人	90

(4) 性別を理由とした職業選択への批判	91
(5) 批判した人	92
(6) 性別による家事・育児の適正についての考え方	93
(7) 「男（女）らしさ」を感じた情報発信	99
3. 無意識の思い込みについて（中学生以上）	102
(1) 無意識の思い込みに関する認知度	102
(2) 無意識の思い込みに関する教育の有無	104
第4章 資料	107
(1) 調査票／おとな向け	109
(2) 調査票／子ども向け	119

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

本調査は、江戸川区民の性の平等の意識や男女共同参画の実態について調査を行い、性の平等と多様性を尊重する社会に向けた問題点および課題を把握し、江戸川区性の平等と多様性を尊重する社会づくり条例に基づく推進計画の策定の基礎資料とすることを目的としました。

2. 調査方法と回収状況

調査対象者：(1) 江戸川区在住の18歳以上の男女（大人） 2,000人

(2) 江戸川区在住の小学5年生以上18歳未満の男女（子ども） 1,000人

抽出方法：住民基本台帳（令和7年10月1日時点）より無作為抽出

調査方法：郵送による配布・回収及びWEB回答の併用によるアンケート調査

調査期間：令和7年11月1日（土）～11月28日（金）

(1) - 1. 性別回答率（大人）

	発送数	回収	
		有効回収数	有効回収率
全 体	2,000	534	26.7%
女性	1,015	284	28.0%
男性	985	225	22.8%
その他	—	0	—
回答しない・無回答	—	25	—

(1) - 2. 年代別回答率（大人）

	発送数	回収	
		有効回収数	有効回収率
全 体	2,000	534	26.7%
18～19歳	49	4	8.2%
20～24歳	121	25	20.7%
25～29歳	171	27	15.8%
30～34歳	163	43	26.4%
35～39歳	149	35	23.5%
40～44歳	120	34	28.3%
45～49歳	147	45	30.6%
50～54歳	228	72	31.6%
55～59歳	194	56	28.9%
60～64歳	141	43	30.5%
65～69歳	108	28	25.9%
70歳以上	409	111	27.1%
無回答	—	11	—

第1章 調査の概要

(2) - 1. 性別回答率（子ども）

	発送数	回収	
		有効回収数	有効回収率
全 体	1,000	262	26.2%
女性	503	152	30.2%
男性	497	101	20.3%
その他	—	1	—
回答しない・無回答	—	8	—

(2) - 2. 学年等別回答率（子ども）

	発送数	回収	
		有効回収数	有効回収率
全 体	1,000	262	26.2%
小学5年生	131	40	30.5%
小学6年生	147	47	32.0%
中学1年生	122	31	25.4%
中学2年生	116	32	27.6%
中学3年生	124	32	25.8%
高校1年生相当	141	27	19.1%
高校2年生相当	160	41	25.6%
高校3年生相当	59	12	20.3%
無回答	—	0	—

※「高校3年生相当」について、18歳以上の区民については、18歳以上の区民を対象とした調査票を送付したため、実際の高校3年生相当の区民より少ない標本数となっています。

3. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- ・百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。従って、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100%にならない場合があります。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100%を超える場合があります。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。

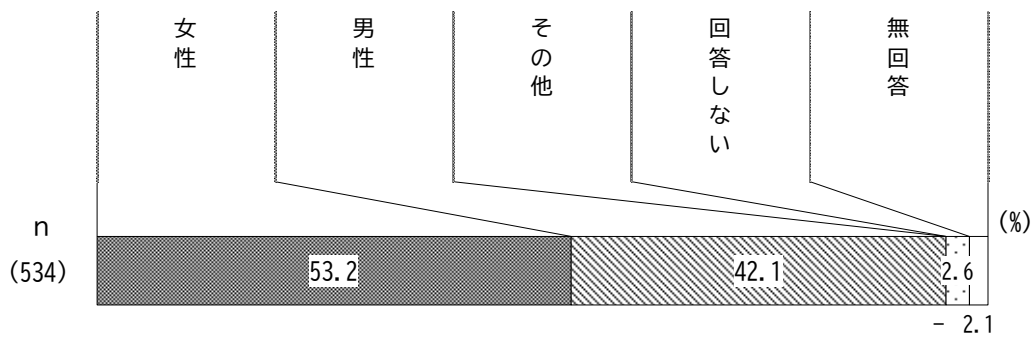
第2章 大人向け調査結果の詳細

基本属性

(1) 性別

F 1. あなたの性別について、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

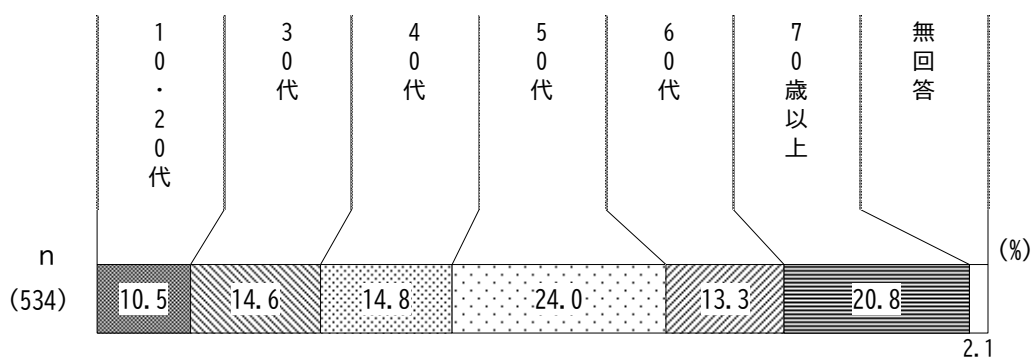
性別については、「女性」が53.2%、「男性」が42.1%となっている。



(2) 年代

F 2. あなたの年齢はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

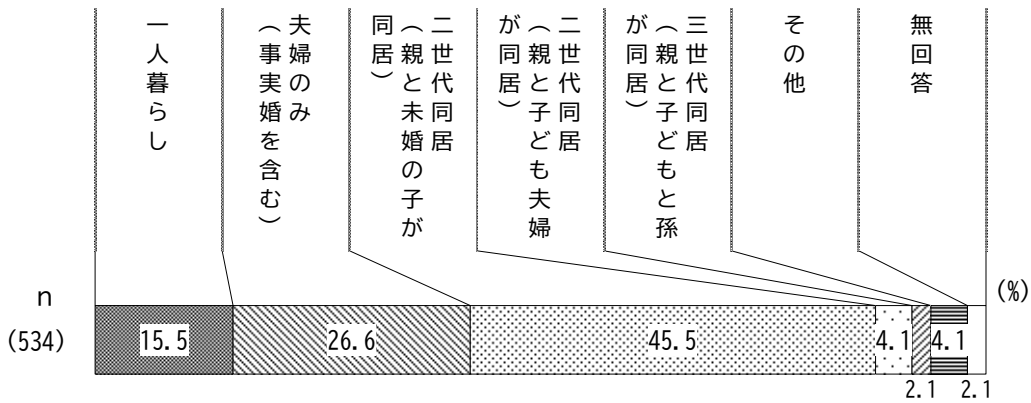
年代については、「50代」が24.0%で最も高く、次いで、「70歳以上」(20.8%)、「40代」(14.8%)、「30代」(14.6%)、「60代」(13.3%)が続いている。



(3) 家族構成

F3. あなたの家族構成はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

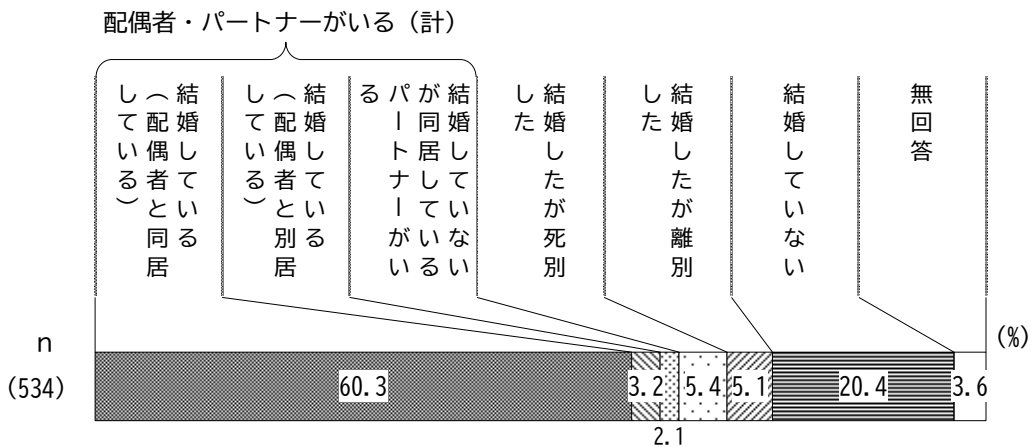
家族構成については、「二世世代同居（親と未婚の子が同居）」が45.5%で最も高く、次いで、「夫婦のみ（事実婚を含む）」(26.6%)、「一人暮らし」(15.5%)が続いている。



(4) 結婚の経験

F4. あなたは結婚の経験がありますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

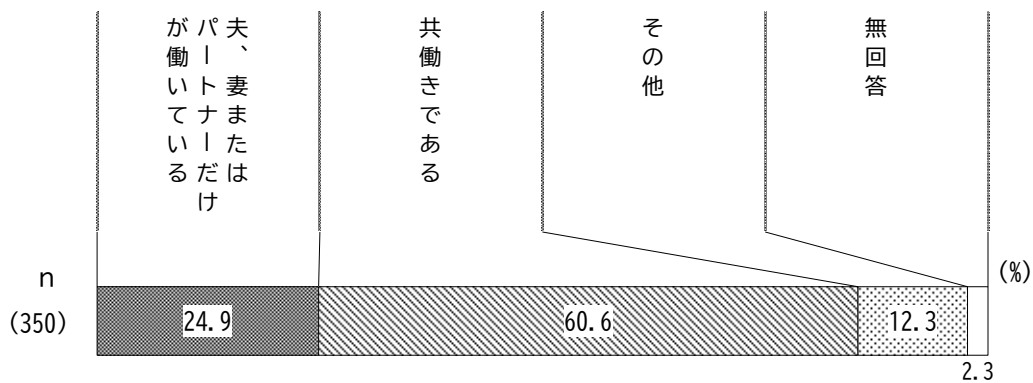
結婚の経験については、「結婚している（配偶者と同居している）」が60.3%で最も高く、「結婚している（配偶者と別居している）」(3.2%)と「結婚していないが同居しているパートナーがいる」(2.1%)を合わせた《配偶者・パートナーがいる（計）》は65.6%となっている。一方、「結婚していない」は20.4%となっている。



(5) (既婚者) 夫婦の働き方

F4-2. 【F4で「結婚している（配偶者と同居している）」「結婚している（配偶者と別居している）」「結婚していないが同居しているパートナーがいる」と回答した方におたずねします。】
 あなた方ご夫婦またはパートナーの働き方はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

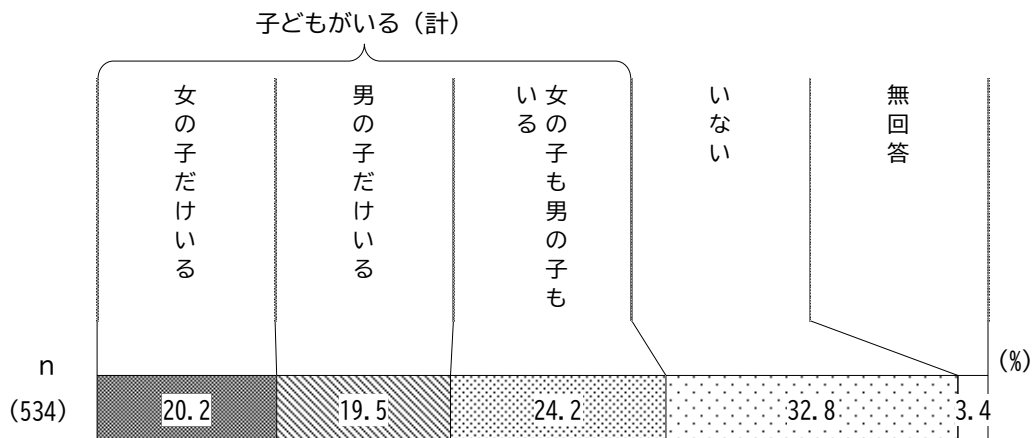
配偶者・パートナーがいる方の夫婦の働き方については、「共働きである」が60.6%で最も高く、「夫、妻またはパートナーだけが働いている」が24.9%となっている。



(6) 子どもの有無

F5. あなたにお子さんはいますか。別居の方も含めてお答えください。
 つぎのうち、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

子どもの有無については、「いない」が32.8%で最も高くなっている。一方、「女の子も男の子もいる」(24.2%)、「女の子だけいる」(20.2%)、「男の子だけいる」(19.5%)を合わせた《子どもがいる(計)》は63.9%となっている。



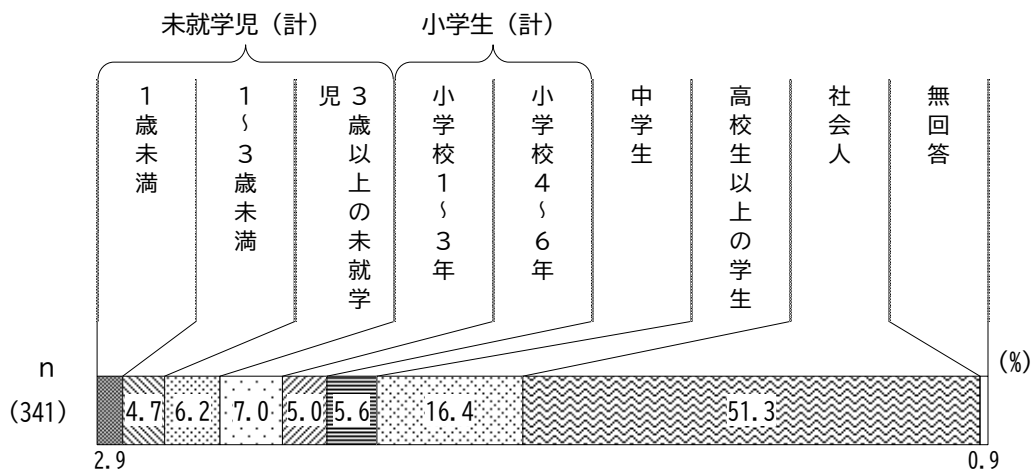
(7) (子ども有の人) 末子の成長段階

F5-2. 【F5で「女の子だけいる」「男の子だけいる」「女の子も男の子もいる」と回答した方におたずねします。】

一番下のお子さんはつぎのうちどれにあたりますか。

あてはまる番号に1つ○をつけてください。

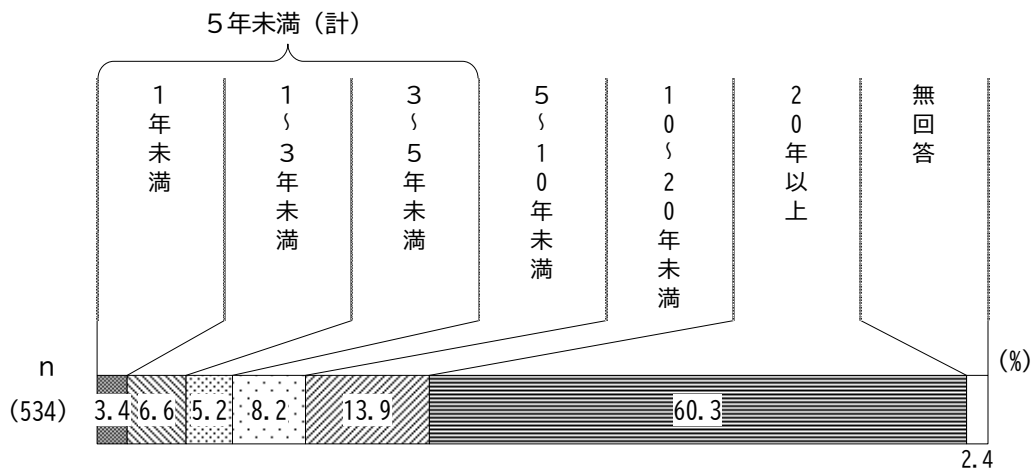
子どもがいる方の末子の成長段階については、「社会人」が51.3%で最も高い。また、「1歳未満」(2.9%)、「1～3歳未満」(4.7%)、「3歳以上の未就学児」(6.2%)を合わせた《未就学児(計)》が13.8%、「小学校1～3年」(7.0%)、「小学校4～6年」(5.0%)を合わせた《小学生(計)》が12.0%、「中学生」が5.6%、「高校生以上の学生」が16.4%となっている。



(8) 居住年数

F6. あなたは江戸川区に何年お住まいですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

居住年数については、「20年以上」が60.3%で最も高く、次いで、「10～20年未満」(13.9%)、「5～10年未満」(8.2%)、「1～3年未満」(6.6%)が続いている。「1年未満」(3.4%)、「1～3年未満」(6.6%)、「3～5年未満」(5.2%)を合わせた《5年未満(計)》は15.2%となっている。



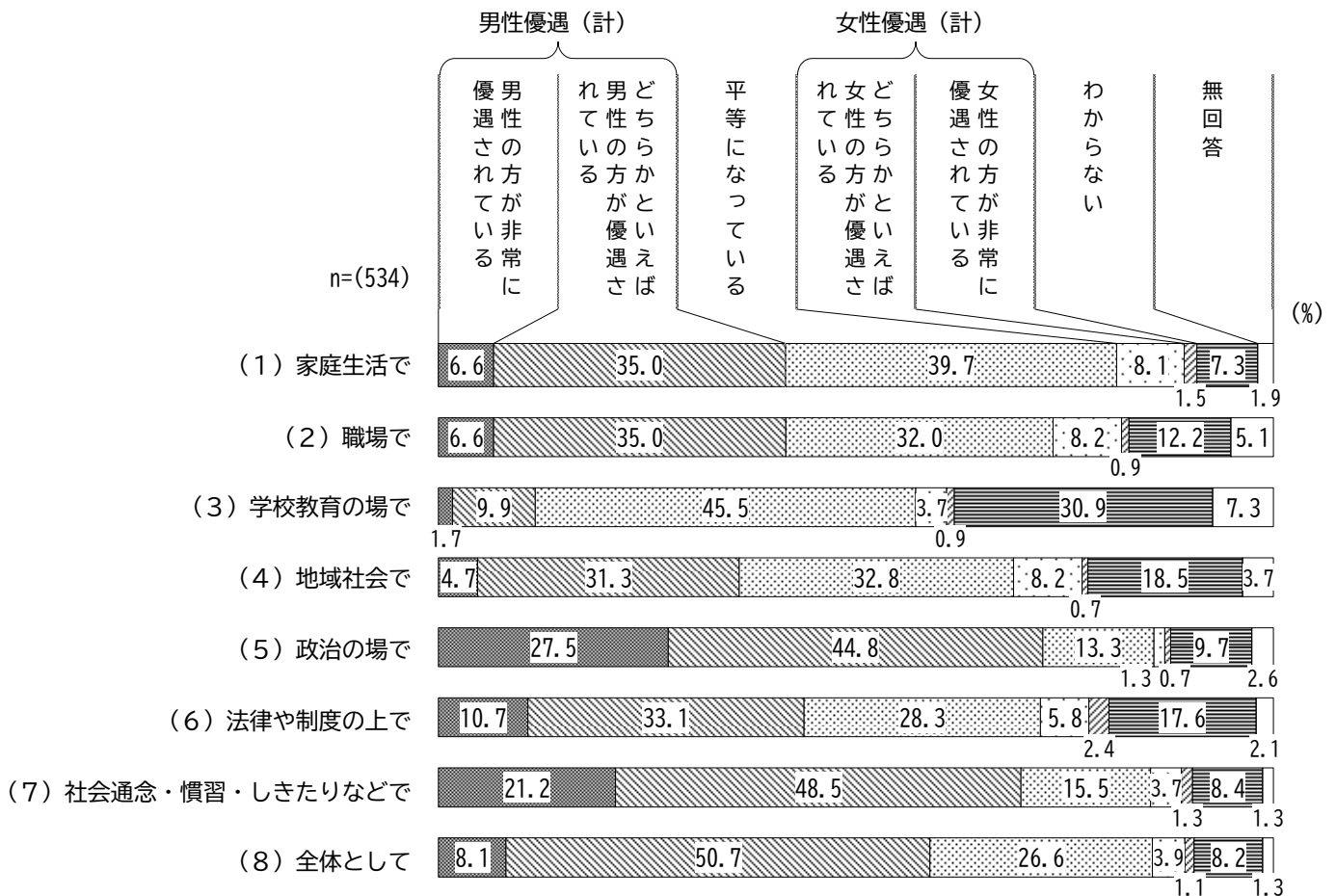
1. 男女平等意識について

(1) 男女の地位の平等感

問1. 現在、つぎのような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (1) から (8) のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

日ごろの生活で感じている男女の地位の平等感について、『家庭生活』、『職場』など7つの分野と『全体として』の合わせて8項目においてたずねた。

全体では、『(3) 学校教育の場』で、「平等になっている」の割合が45.5%と8項目中最も高い。また、それ以外の分野では《男性優遇(計)》の割合が高く、『(5) 政治の場』で72.3%、『(7) 社会通念・慣習・しきたりなど』で69.7%、『(8) 全体として』で58.8%と半数を超えている。



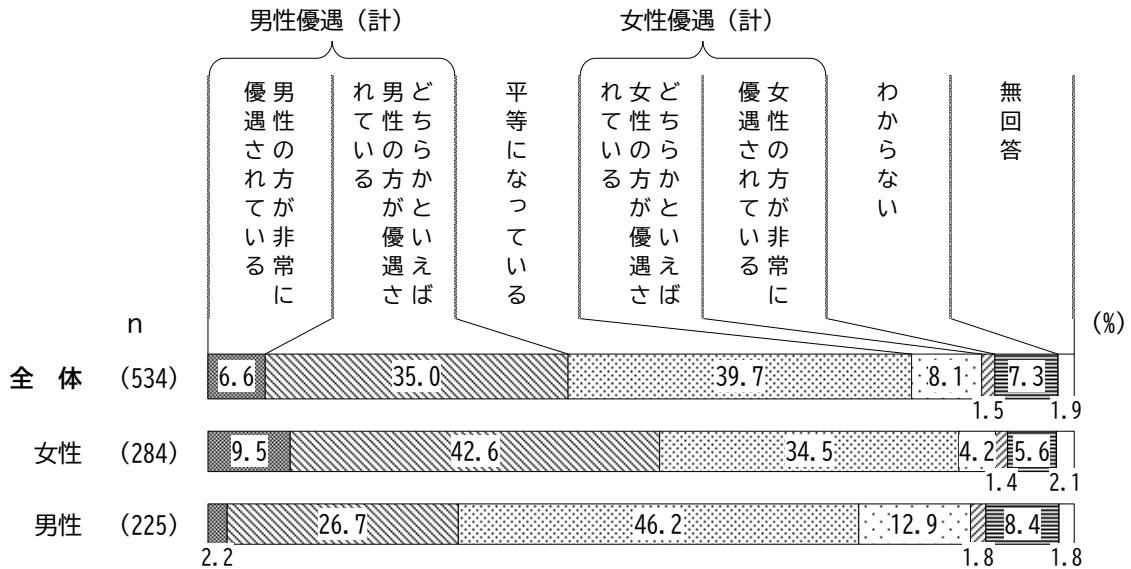
※《男性優遇(計)》とは、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計。

※《女性優遇(計)》とは、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計。

第2章 大人向け調査結果の詳細

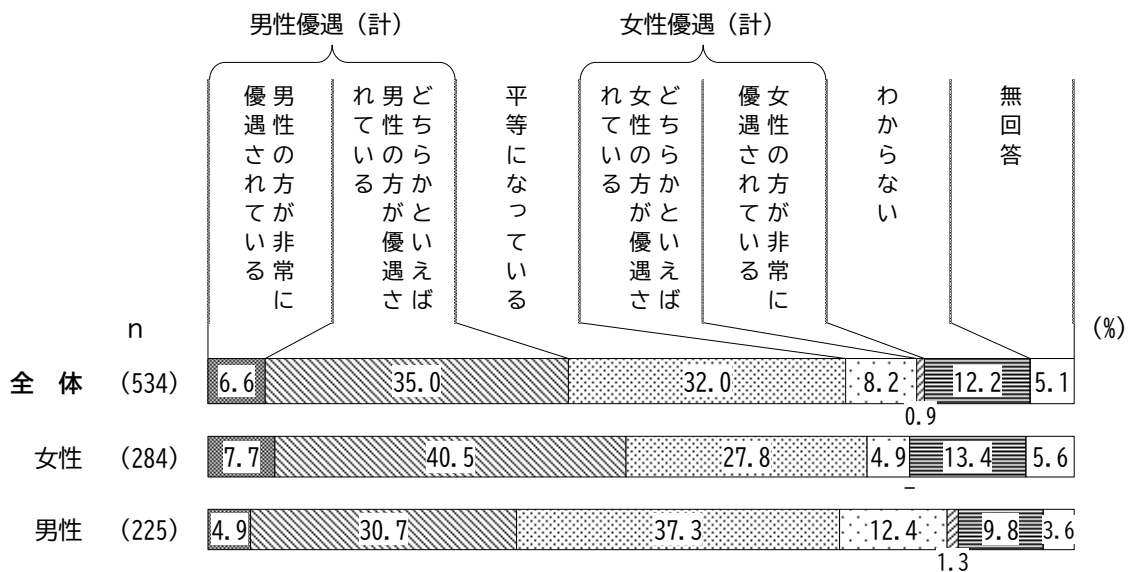
< (1) 家庭生活上で/性別 >

性別で見ると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(42.6%)、男性では「平等になっている」(46.2%)が最も高くなっている。《男性優遇(計)》は女性(52.1%)が男性(28.9%)より23.2ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は男性(46.2%)が女性(34.5%)より11.7ポイント、《女性優遇(計)》は男性(14.7%)が女性(5.6%)より9.1ポイント高くなっている。



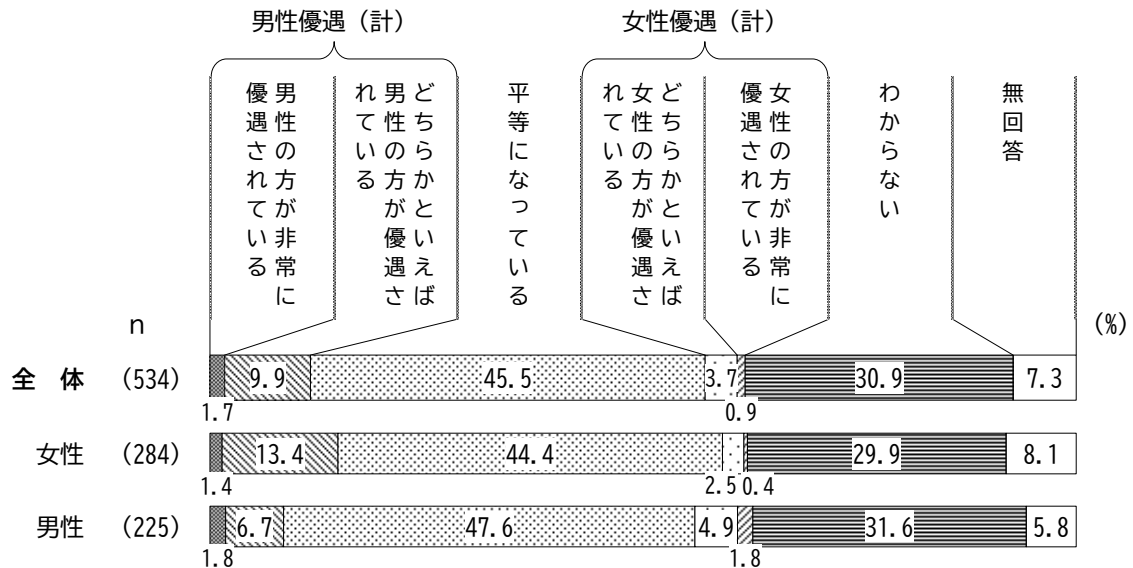
< (2) 職場で/性別 >

性別で見ると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(40.5%)、男性では「平等になっている」(37.3%)が最も高くなっている。《男性優遇(計)》は女性(48.2%)が男性(35.6%)より12.6ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は男性(37.3%)が女性(27.8%)より9.5ポイント、《女性優遇(計)》は男性(13.7%)が女性(4.9%)より8.8ポイント高くなっている。



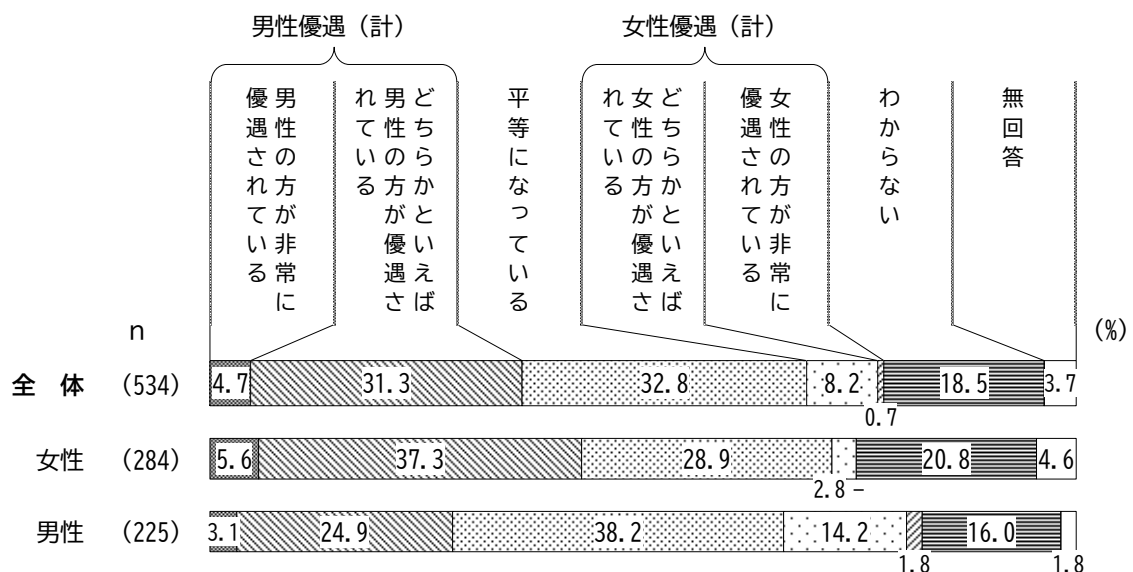
< (3) 学校教育の場で／性別 >

性別で見ると、男女ともに「平等になっている」が4割台で最も高くなっている。《男性優遇 (計)》は女性 (14.8%) が男性 (8.5%) より6.3ポイント高くなっている。



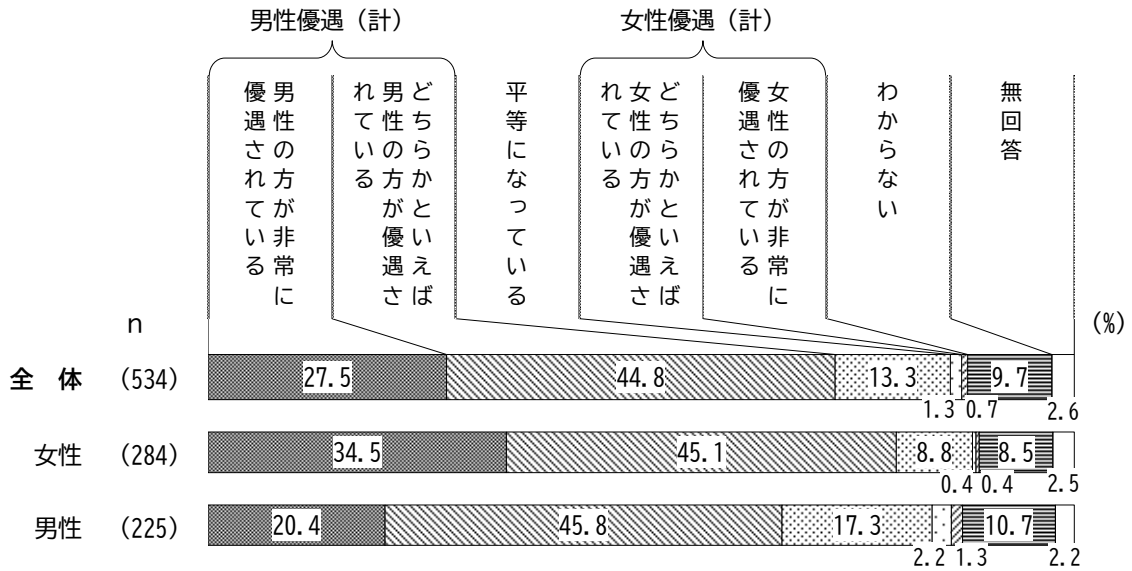
< (4) 地域社会で／性別 >

性別で見ると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(37.3%)、男性では「平等になっている」(38.2%) が最も高くなっている。《男性優遇 (計)》は女性 (42.9%) が男性 (28.0%) より14.9ポイント高くなっている。一方、《女性優遇 (計)》は男性 (16.0%) が女性 (2.8%) より13.2ポイント、「平等になっている」は男性 (38.2%) が女性 (28.9%) より9.3ポイント高くなっている。



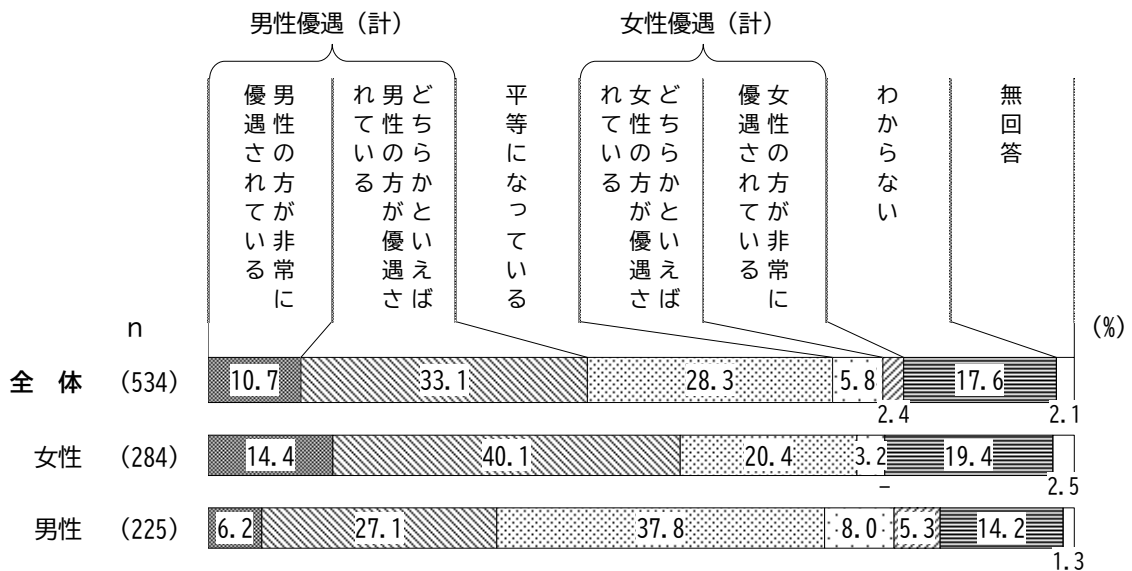
< (5) 政治の場で／性別 >

性別で見ると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が4割台で最も高くなっている。《男性優遇 (計)》は女性 (79.6%) が男性 (66.2%) より13.4ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は男性 (17.3%) が女性 (8.8%) より8.5ポイント高くなっている。



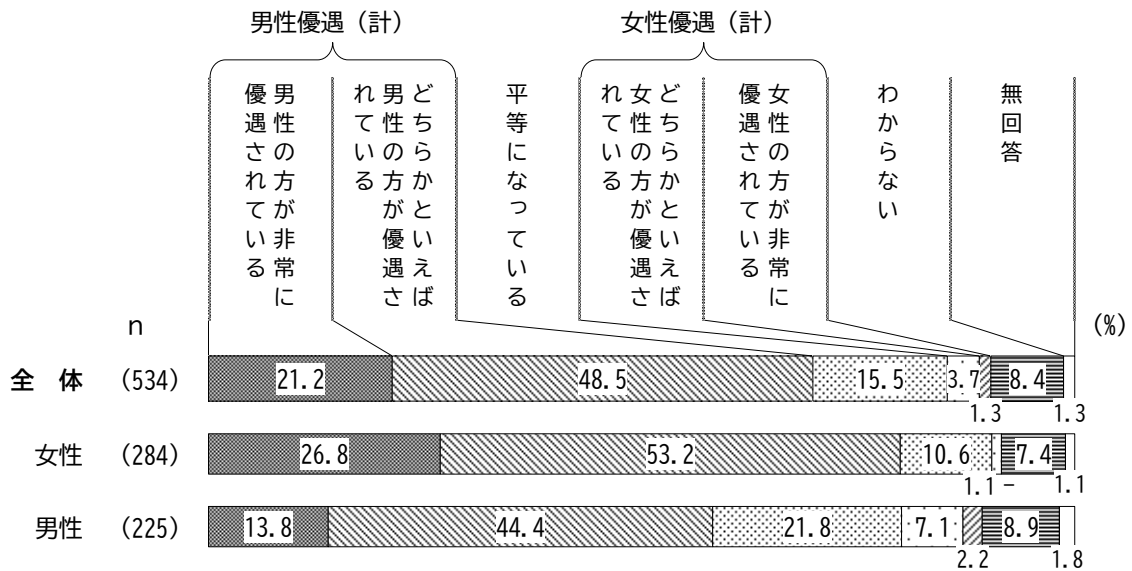
< (6) 法律や制度の上で／性別 >

性別で見ると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(40.1%)、男性では「平等になっている」(37.8%) が最も高くなっている。《男性優遇 (計)》は女性 (54.5%) が男性 (33.3%) より21.2ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は男性 (37.8%) が女性 (20.4%) より17.4ポイント、《女性優遇 (計)》は男性 (13.3%) が女性 (3.2%) より10.1ポイント高くなっている。



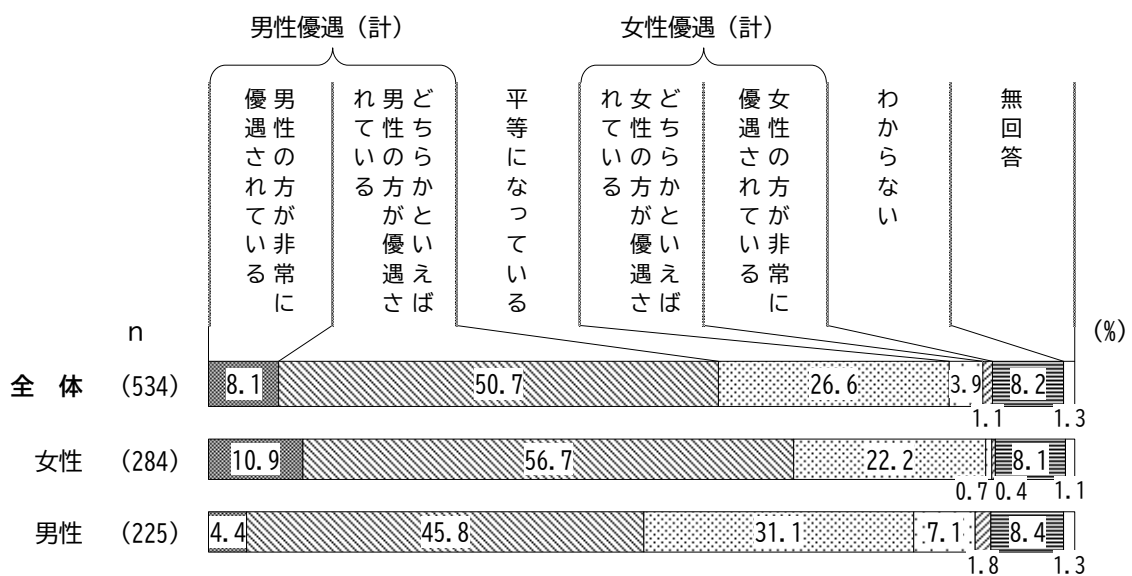
< (7) 社会通念・慣習・しきたりなどで／性別 >

性別で見ると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が53.2%、男性では44.4%で最も高くなっている。《男性優遇（計）》は女性（80.0%）が男性（58.2%）より21.8ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は男性（21.8%）が女性（10.6%）より11.2ポイント、《女性優遇（計）》は男性（9.3%）が女性（1.1%）より8.2ポイント高くなっている。



< (8) 全体として／性別 >

性別で見ると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が56.7%、男性では45.8%で最も高くなっている。《男性優遇（計）》は女性（67.6%）が男性（50.2%）より17.4ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は男性（31.1%）が女性（22.2%）より8.9ポイント、《女性優遇（計）》は男性（8.9%）が女性（1.1%）より7.8ポイント高くなっている。

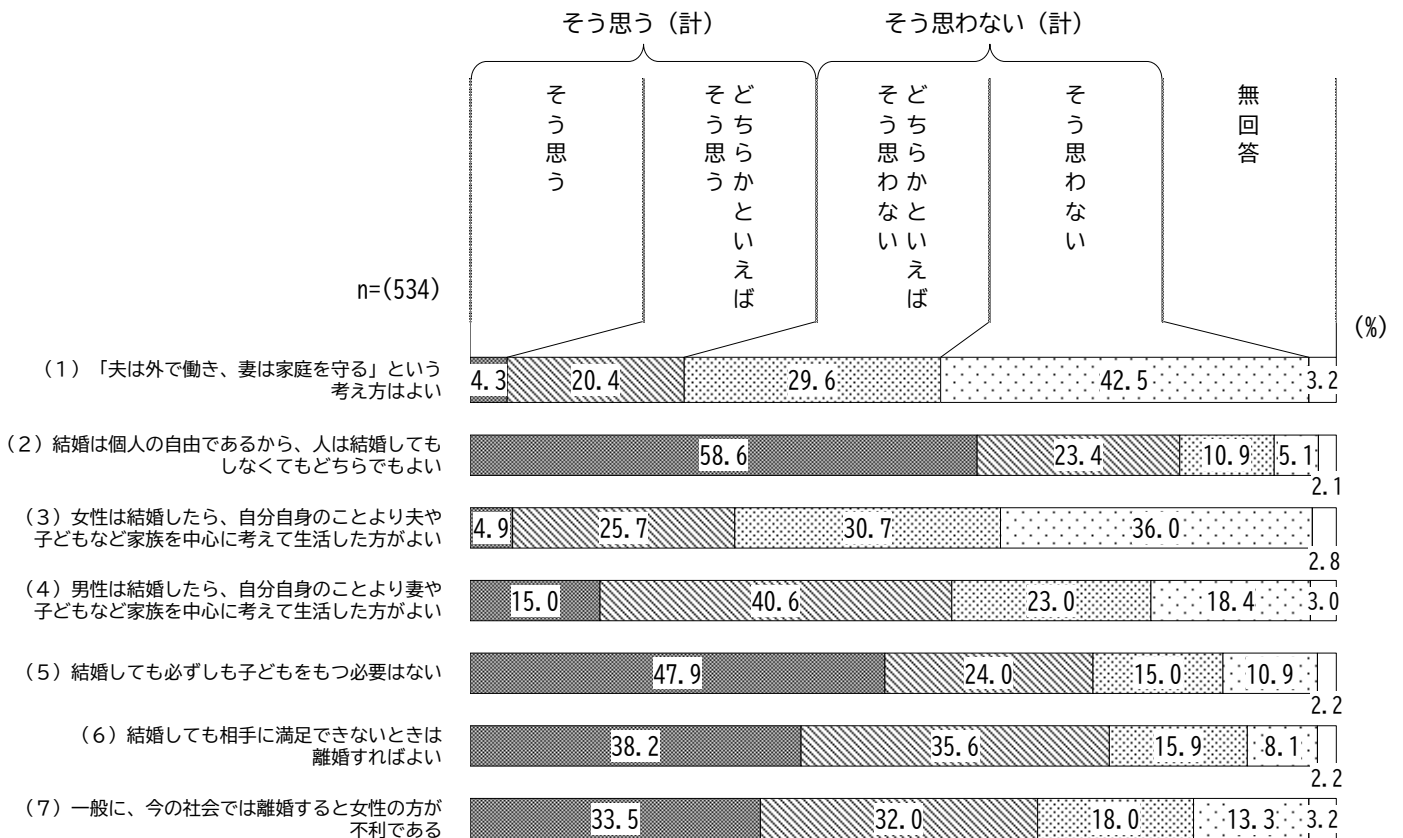


(2) 家庭・結婚・離婚についての考え方

問2. つぎのような家庭・結婚・離婚に対する考え方について、あなたのご意見に最も近いものはどれですか。(1) から (7) のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

「家庭」、「結婚」、「子どもをもつこと」、「離婚」に対する考え方の賛否を7項目においてたずねた。

全体では、『(2) 結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』は、『(2) 結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』の割合が82.0%と7項目中最も高く、次いで、『(6) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』(73.8%)、『(5) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』(71.9%)、『(7) 一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である』(65.5%)が続いている。一方、『(1) 夫は外で働き、妻は家庭を守る』という考え方はよい』で72.1%、『(3) 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』で66.7%と半数を超えている。

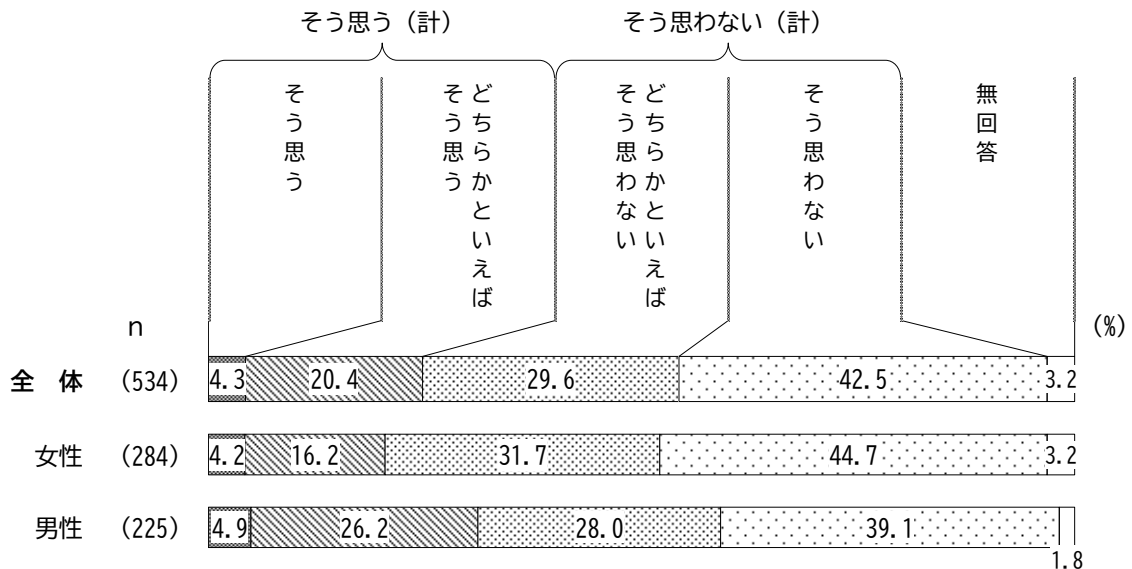


※ 《「そう思う (計)」》とは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。

※ 《「そう思わない (計)」》とは、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計。

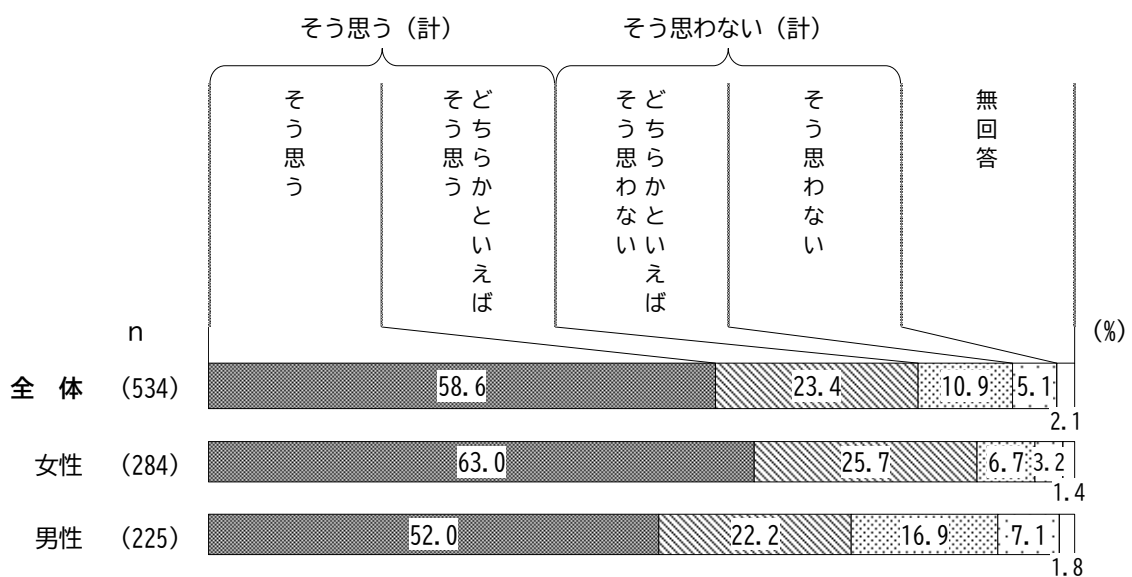
< (1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方はよい／性別 >

性別で見ると、《そう思わない (計)》は女性 (76.4%) が男性 (67.1%) より9.3ポイント高くなっている。一方、《そう思う (計)》は男性 (31.1%) が女性 (20.4%) より10.7ポイント高くなっている。



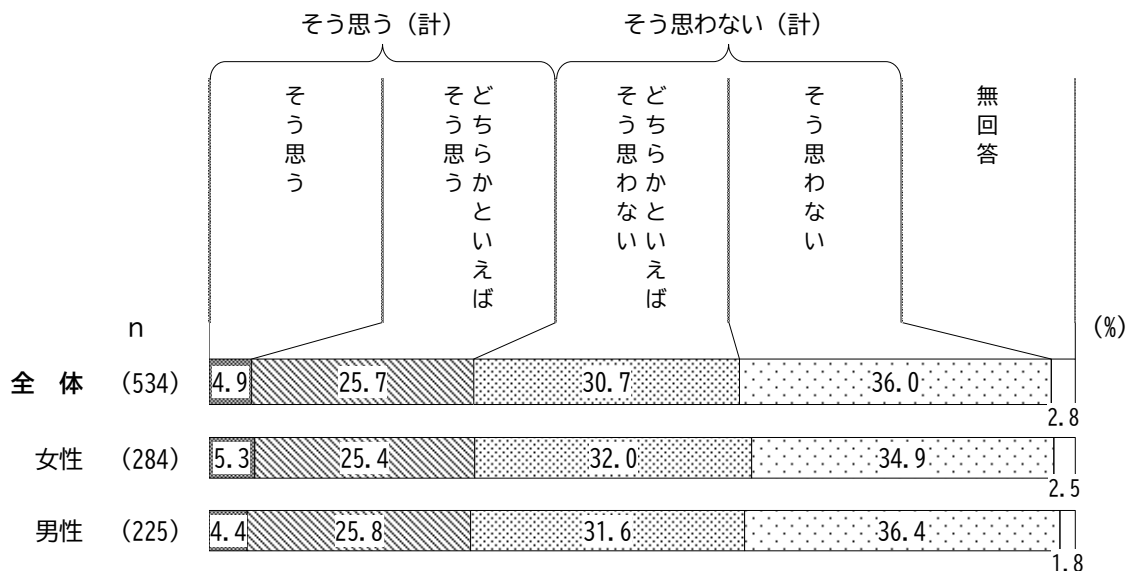
< (2) 結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい／性別 >

性別で見ると、《そう思う (計)》は女性 (88.7%) が男性 (74.2%) より14.5ポイント高くなっている。一方、《そう思わない (計)》は男性 (24.0%) が女性 (9.9%) より14.1ポイント高くなっている。



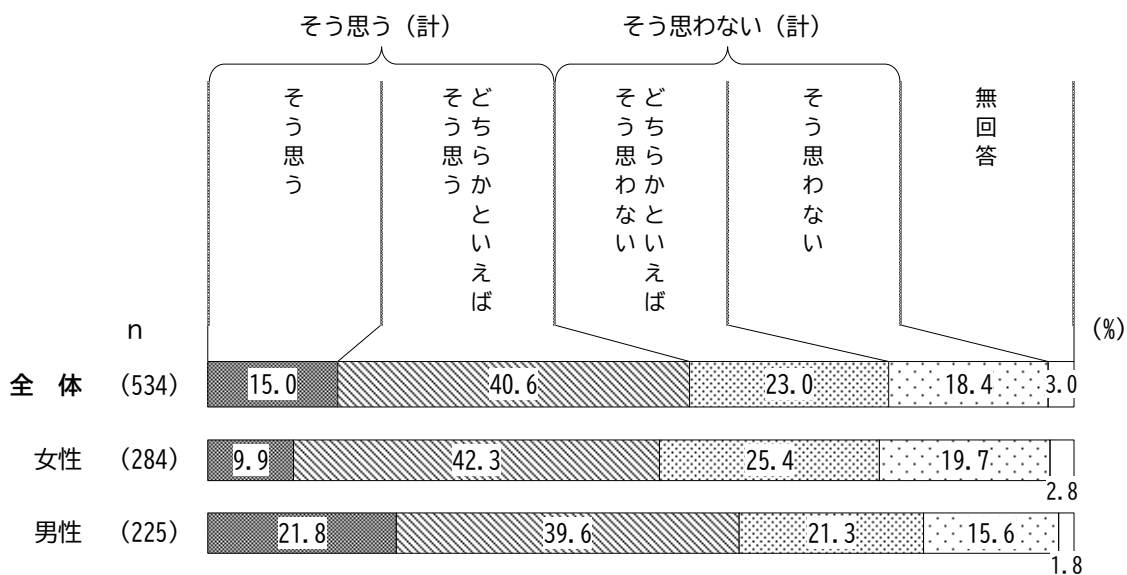
< (3) 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい／性別 >

性別で見ると、男女ともに《そう思わない（計）》が約7割となっており、大きな差は見られなかった。



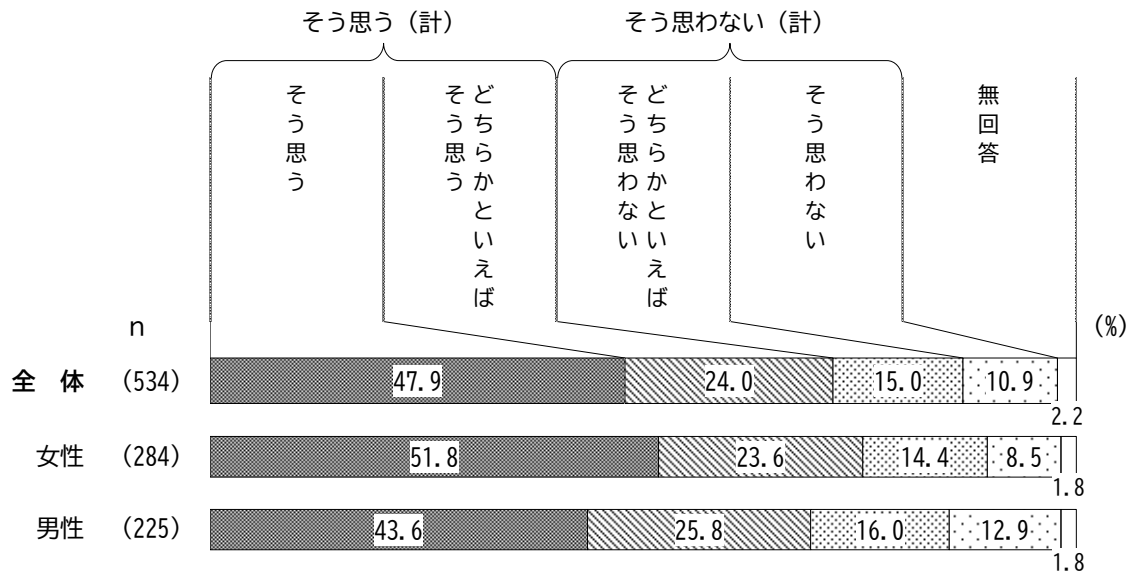
< (4) 男性は結婚したら、自分自身のことより妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい／性別 >

性別で見ると、《そう思わない（計）》は女性（45.1%）が男性（36.9%）より8.2ポイント高くなっている。一方、《そう思う（計）》は男性（61.4%）が女性（52.2%）より9.2ポイント高くなっている。



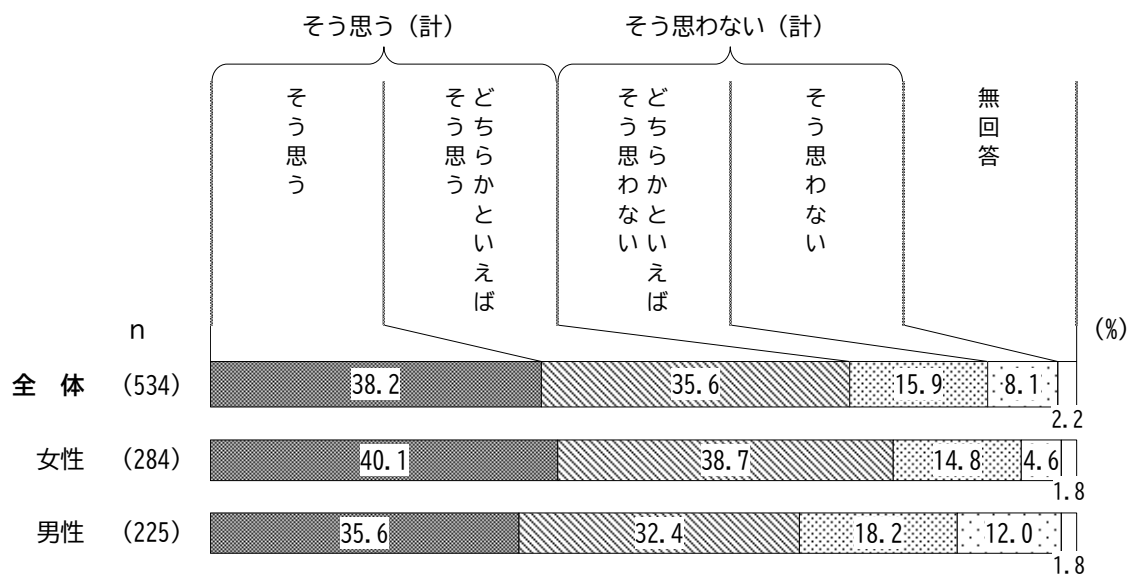
< (5) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない／性別 >

性別で見ると、《そう思う（計）》は女性（75.4%）が男性（69.4%）より6.0ポイント高くなっている。一方、《そう思わない（計）》は男性（28.9%）が女性（22.9%）より6.0ポイント高くなっている。



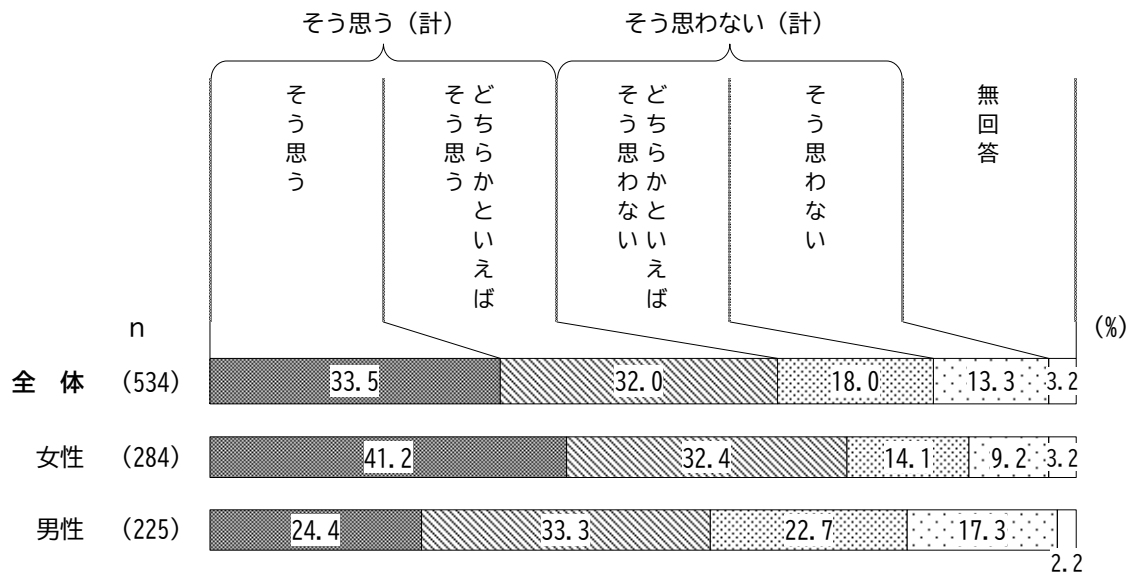
< (6) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい／性別 >

性別で見ると、《そう思う（計）》は女性（78.8%）が男性（68.0%）より10.8ポイント高くなっている。一方、《そう思わない（計）》は男性（30.2%）が女性（19.4%）より10.8ポイント高くなっている。



< (7) 一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である／性別 >

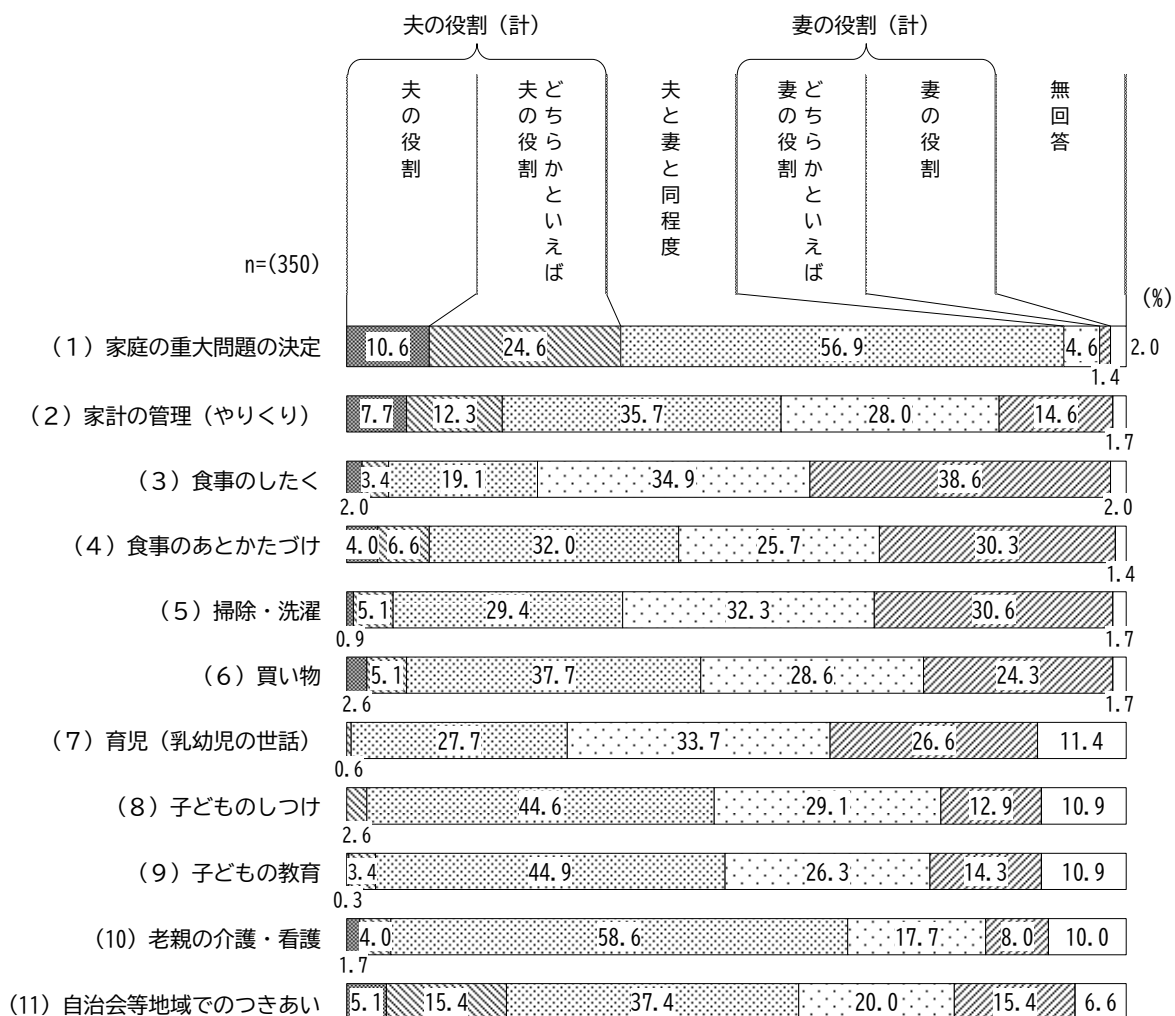
性別で見ると、《そう思う(計)》は女性(73.6%)が男性(57.7%)より15.9ポイント高くなっている。一方、《そう思わない(計)》は男性(40.0%)が女性(23.3%)より16.7ポイント高くなっている。



(3) 夫婦の役割分担

問3. 結婚している方（事実婚*の方もお答えください）におたずねします。
 家庭生活での、夫婦の役割分担はどのようになっていますか。
 (1) から (11) のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。
 (7) から (9) について、子育てを終えた方は、当時の役割分担に○をつけてください。
 *本調査では、婚姻届は出していないが、パートナーと共同生活をしていることを「事実婚」と呼びます。

全体では、「夫と妻と同程度」の割合が『(10) 老親の介護・看護』(58.6%)と『(1) 家庭の重大問題の決定』(56.9%)で半数を超えている。一方、それ以外の項目では《妻の役割(計)》の割合が高く、『(3) 食事のしたく』で73.5%、『(5) 掃除・洗濯』で62.9%、『(7) 育児(乳幼児の世話)』で60.3%、『(4) 食事のあとかたづけ』で56.0%、『(6) 買い物』で52.9%と半数を超えている。



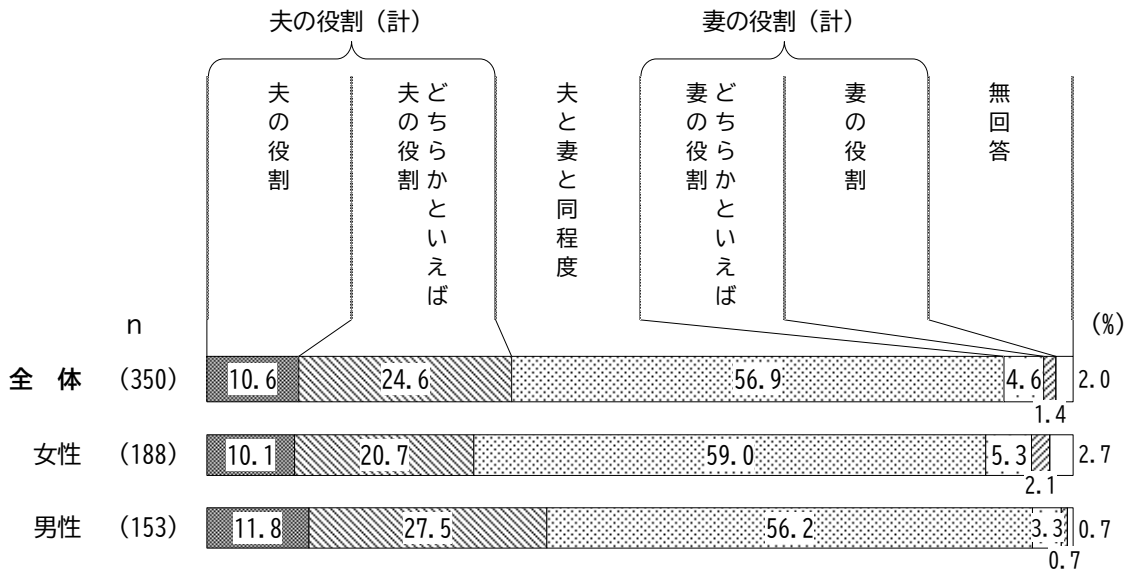
※《夫の役割(計)》とは、「夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」の合計。

※《妻の役割(計)》とは、「妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の合計。

第2章 大人向け調査結果の詳細

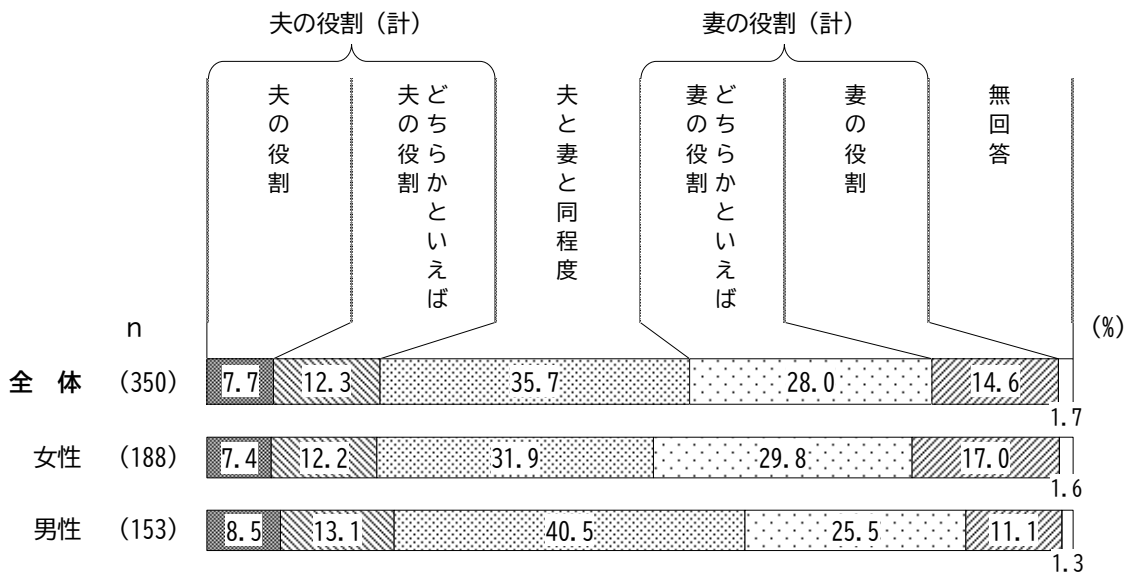
< (1) 家庭の重大問題の決定／性別 >

性別で見ると、男女ともに「夫と妻と同程度」が5割台で最も高くなっている。《夫の役割(計)》は男性(39.3%)が女性(30.8%)より8.5ポイント高くなっている。



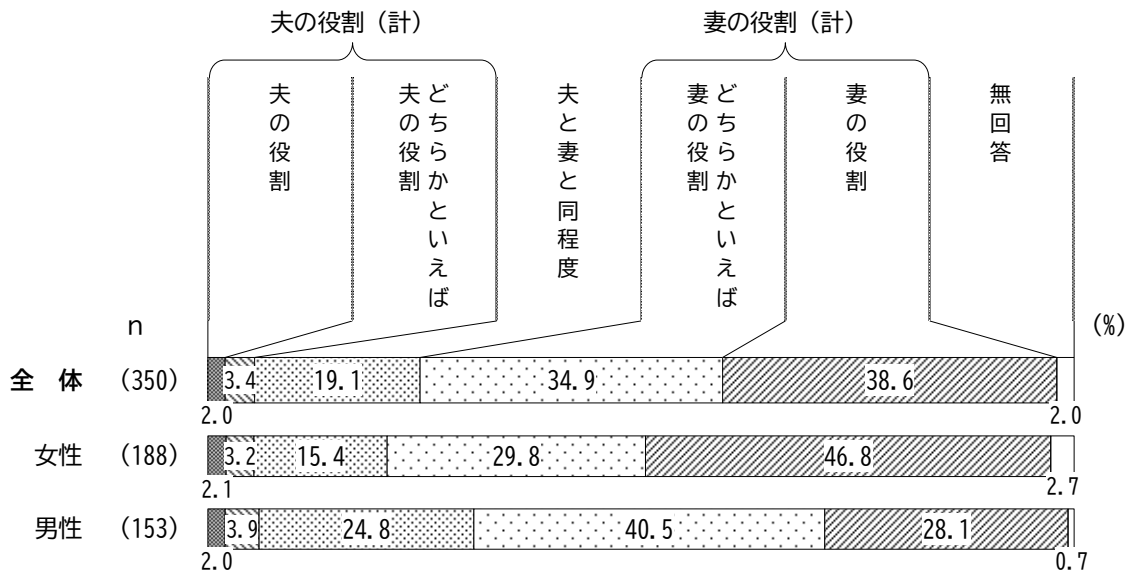
< (2) 家計の管理(やりくり)／性別 >

性別で見ると、男女ともに「夫と妻と同程度」が最も高くなっているが、男性(40.5%)が女性(31.9%)より8.6ポイント高くなっている。一方、《妻の役割(計)》は女性(46.8%)が男性(36.6%)より10.2ポイント高くなっている。



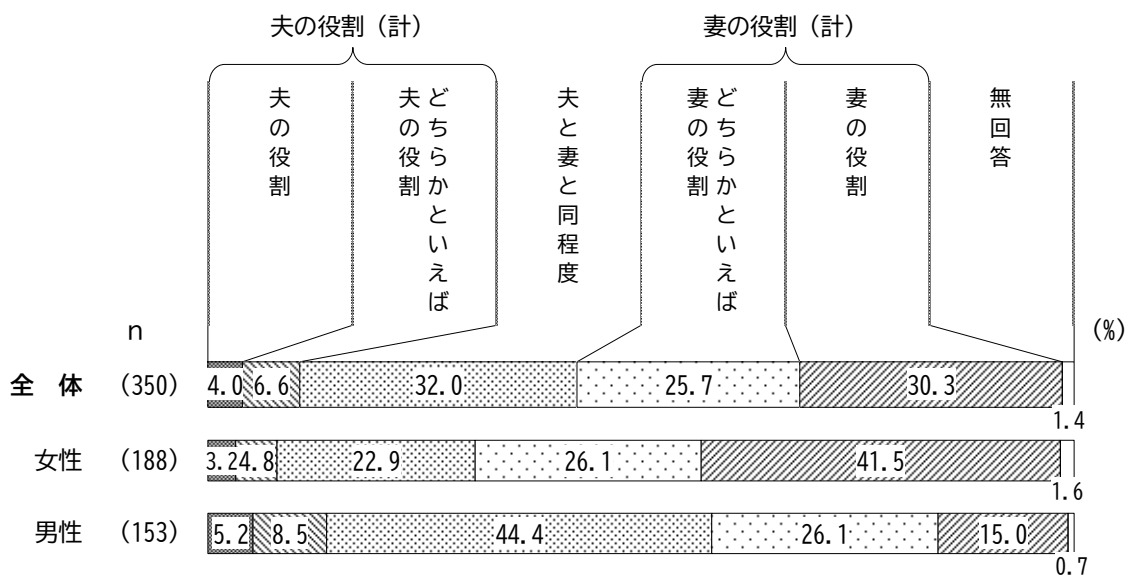
< (3) 食事のしたく／性別 >

性別で見ると、女性では「妻の役割」(46.8%)、男性では「どちらかといえば妻の役割」(40.5%)が最も高くなっている。《妻の役割(計)》は女性(76.6%)が男性(68.6%)より8.0ポイント高くなっている。一方、「夫と妻と同程度」は男性(24.8%)が女性(15.4%)より9.4ポイント高くなっている。



< (4) 食事のあとかたづけ／性別 >

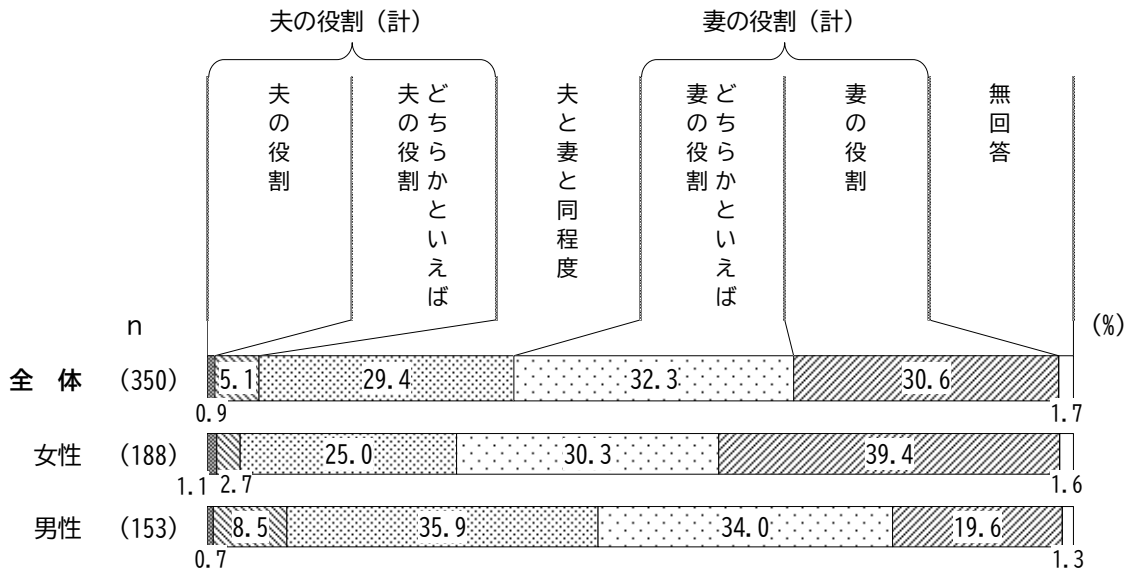
性別で見ると、女性では「妻の役割」(41.5%)、男性では「夫と妻と同程度」(44.4%)が最も高くなっている。《妻の役割(計)》は女性(67.6%)が男性(41.1%)より26.5ポイント高くなっている。一方、「夫と妻と同程度」は男性(44.4%)が女性(22.9%)より21.5ポイント、《夫の役割(計)》は男性(13.7%)が女性(8.0%)より5.7ポイント高くなっている。



第2章 大人向け調査結果の詳細

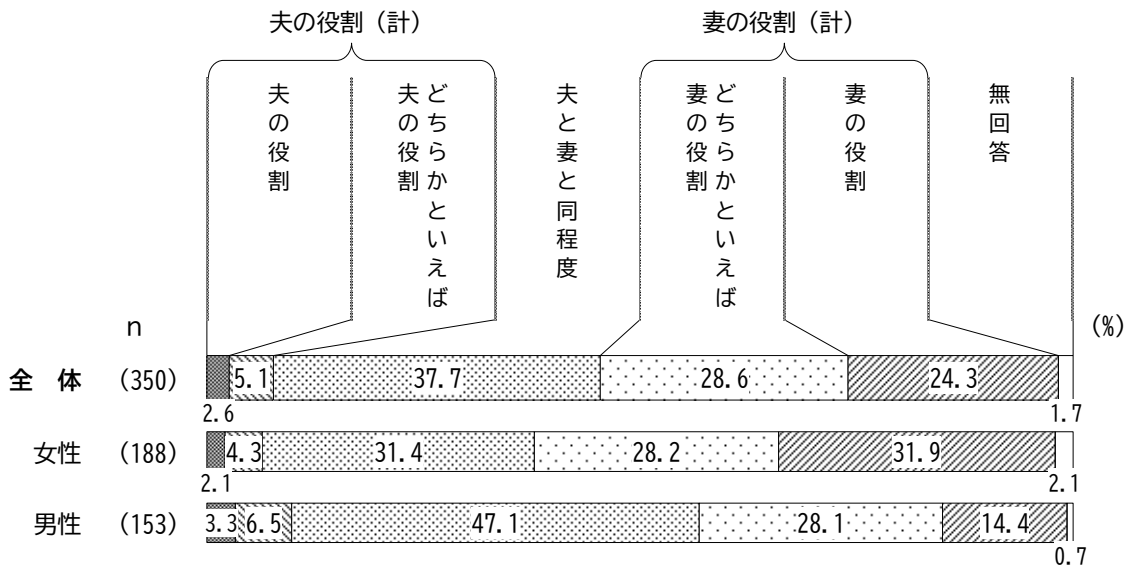
< (5) 掃除・洗濯／性別 >

性別で見ると、女性では「妻の役割」(39.4%)、男性では「夫と妻と同程度」(35.9%)が最も高くなっている。《妻の役割(計)》は女性(69.7%)が男性(53.6%)より16.1ポイント高くなっている。一方、「夫と妻と同程度」は男性(35.9%)が女性(25.0%)より10.9ポイント、《夫の役割(計)》は男性(9.2%)が女性(3.8%)より5.4ポイント高くなっている。



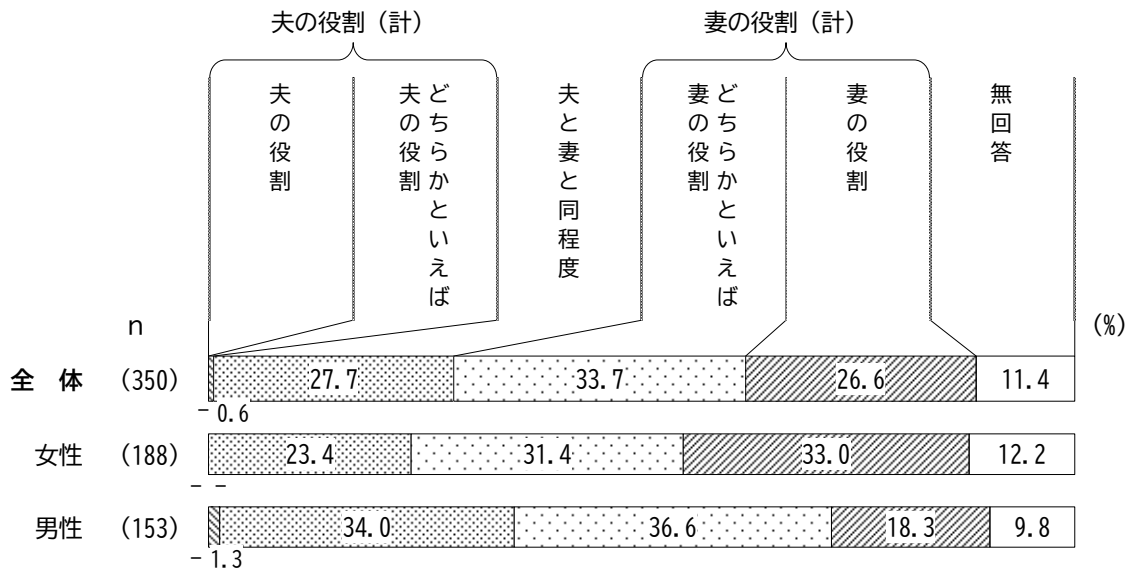
< (6) 買い物／性別 >

性別で見ると、女性では「妻の役割」(31.9%)、男性では「夫と妻と同程度」(47.1%)が最も高くなっている。《妻の役割(計)》は女性(60.1%)が男性(42.5%)より17.6ポイント高くなっている。一方、「夫と妻と同程度」は男性(47.1%)が女性(31.4%)より15.7ポイント高くなっている。



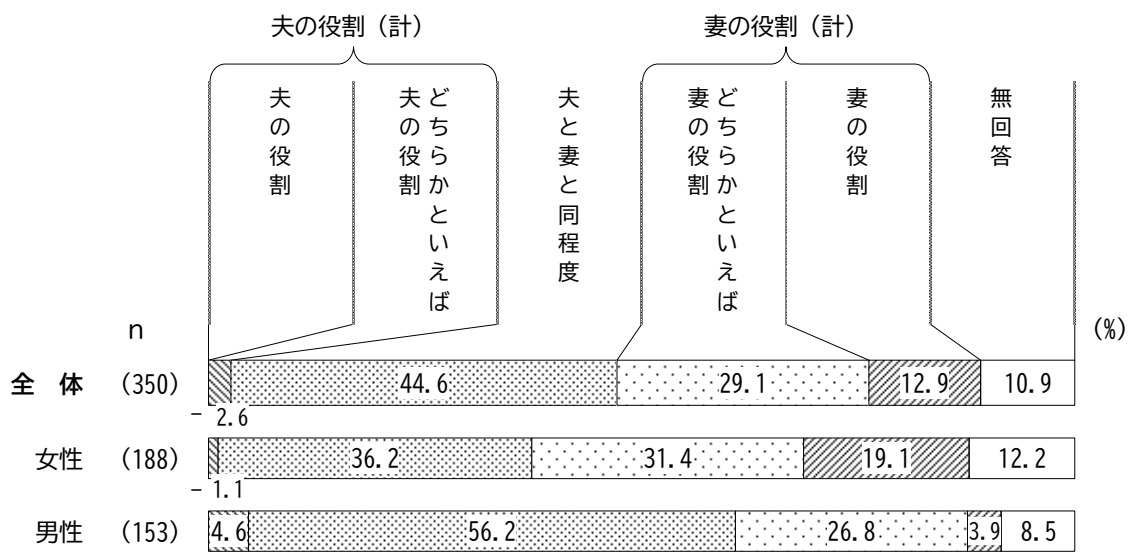
< (7) 育児（乳幼児の世話）／性別 >

性別で見ると、女性では「妻の役割」（33.0%）、男性では「どちらかといえば妻の役割」（36.6%）が最も高くなっている。《妻の役割（計）》は女性（64.4%）が男性（54.9%）より9.5ポイント高くなっている。一方、「夫と妻と同程度」は男性（34.0%）が女性（23.4%）より10.6ポイント高くなっている。



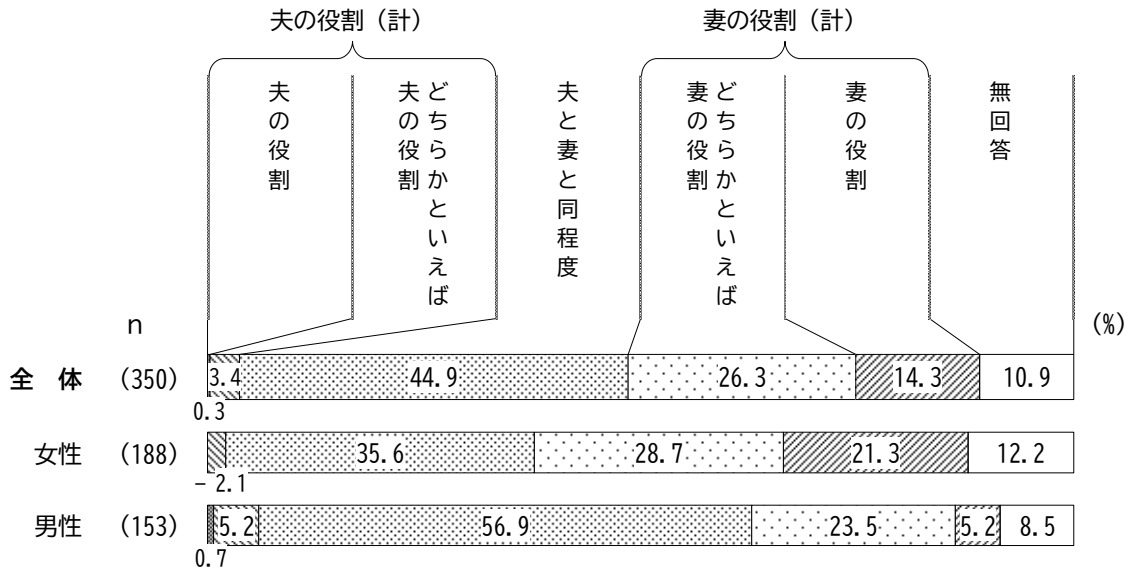
< (8) 子どものしつけ／性別 >

性別で見ると、男女ともに「夫と妻と同程度」が最も高くなっているが、男性（56.2%）が女性（36.2%）より20.0ポイント高くなっている。一方、《妻の役割（計）》は女性（50.5%）が男性（30.7%）より19.8ポイント高くなっている。



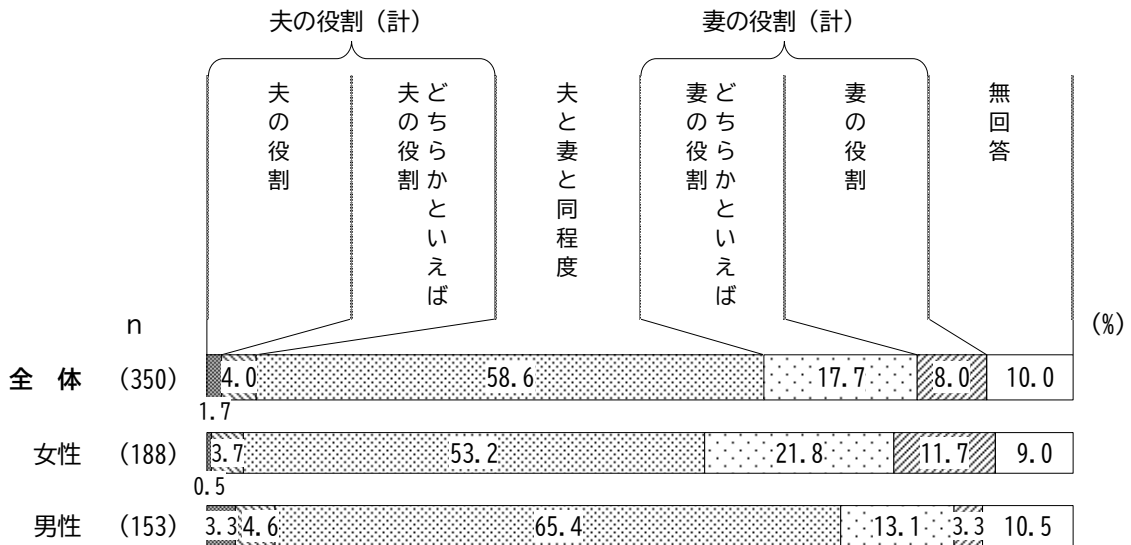
< (9) 子どもの教育／性別 >

性別で見ると、男女ともに「夫と妻と同程度」が最も高くなっているが、男性（56.9%）が女性（35.6%）より21.3ポイント高くなっている。一方、《妻の役割（計）》は女性（50.0%）が男性（28.7%）より21.3ポイント高くなっている。



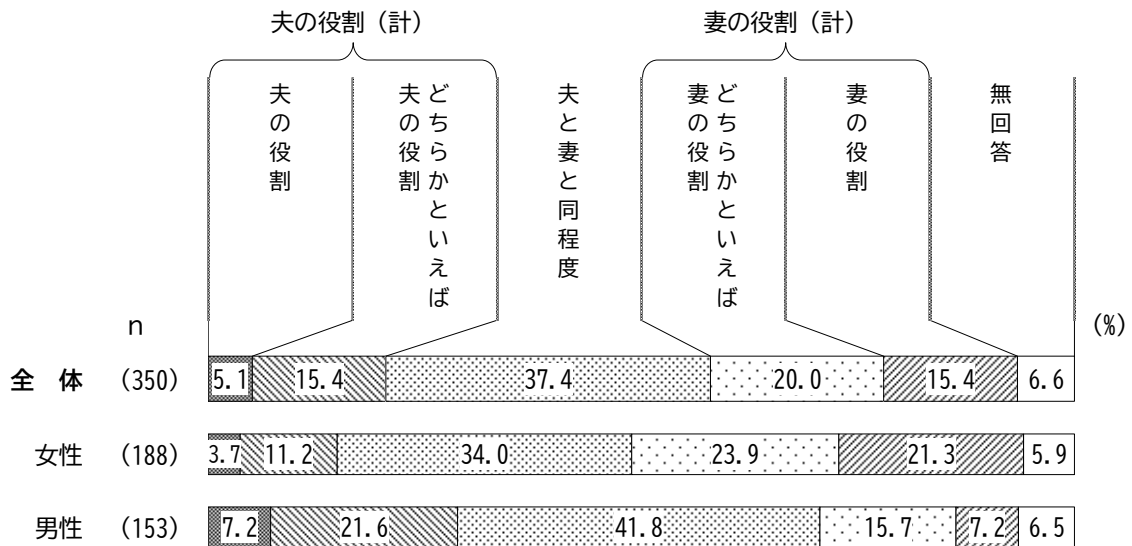
< (10) 老親の介護・看護／性別 >

性別で見ると、男女ともに「夫と妻と同程度」が最も高くなっているが、男性（65.4%）が女性（53.2%）より12.2ポイント高くなっている。一方、《妻の役割（計）》は女性（33.5%）が男性（16.4%）より17.1ポイント高くなっている。



< (11) 自治会等地域でのつきあい／性別 >

性別で見ると、男女ともに「夫と妻と同程度」が最も高くなっているが、男性（41.8%）が女性（34.0%）より7.8ポイント高くなっている。また、《夫の役割（計）》は男性（28.8%）が女性（14.9%）より13.9ポイント高くなっている。一方、《妻の役割（計）》は女性（45.2%）が男性（22.9%）より22.3ポイント高くなっている。



2. 女性の就労・活躍推進について

(1) 女性の働き方の現状と理想

問4. 「女性の働き方」についておたずねします。つぎの(ア)(イ)について、下の選択肢の中からそれぞれ1つずつ、《回答欄》に番号を記入してください。

(ア) 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのはどれですか。

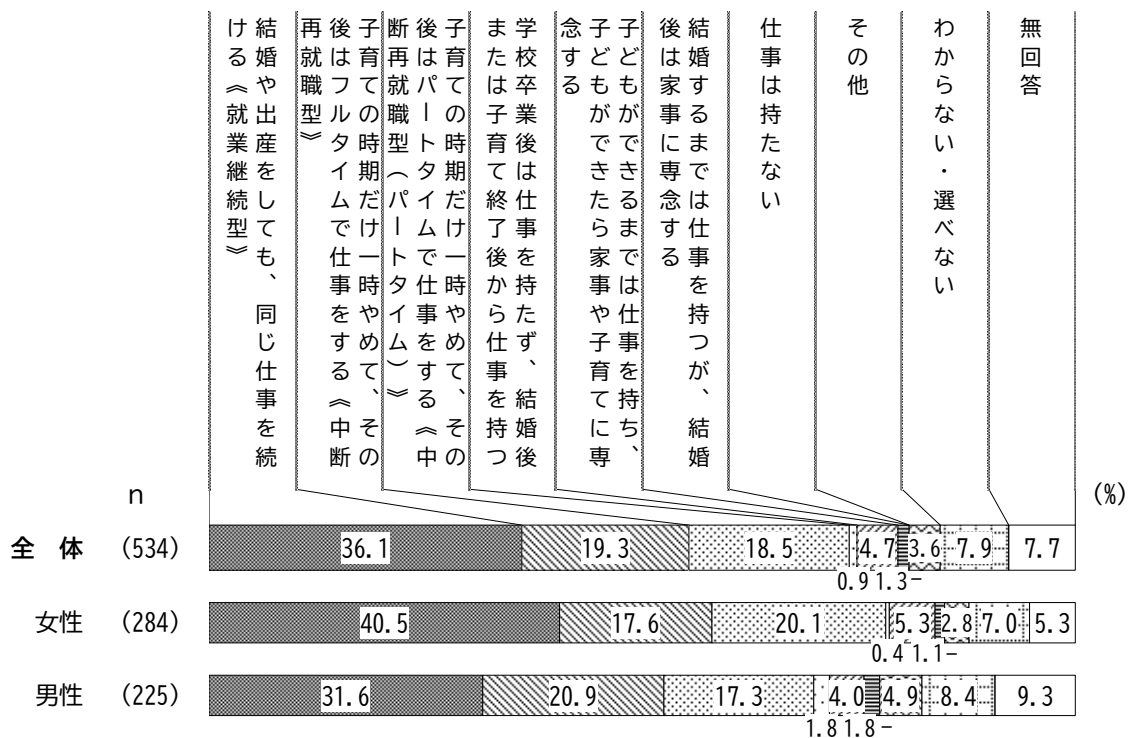
(イ) あなた自身の働き方は、つぎの中のどれにあたりますか。男性の方は、配偶者やパートナーのことについてお答えください。

* 配偶者やパートナーのいない方は、問5にお進みください。

< (ア) 女性の働き方についての理想/性別 >

理想については、全体では、「結婚や出産をしても、同じ仕事を続ける《就業継続型》」が36.1%で最も高く、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする《中断再就職型》」(19.3%)、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする《中断再就職型(パートタイム)》」(18.5%)が続いている。

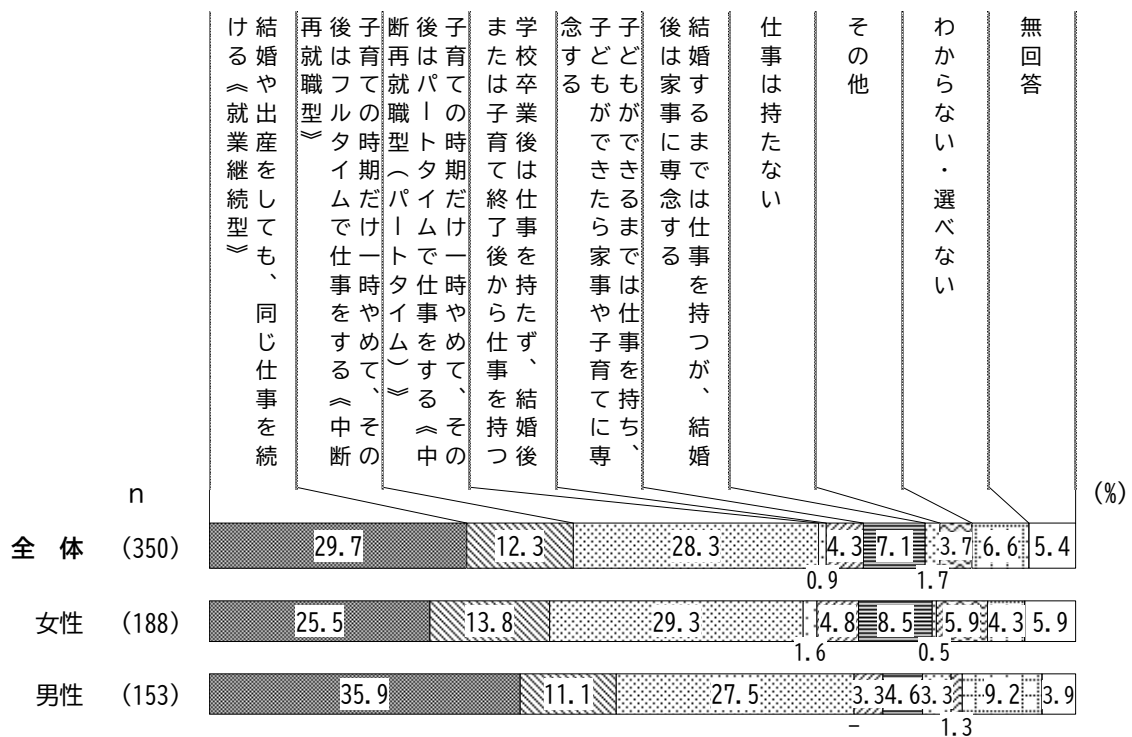
性別で見ると、男女ともに「結婚や出産をしても、同じ仕事を続ける《就業継続型》」が最も高くなっているが、女性(40.5%)が男性(31.6%)より8.9ポイント高くなっている。



< (イ) 現状の働き方/性別 > *男性回答者は配偶者やパートナーのことを回答

配偶者・パートナーがいる方の現状については、全体では、「結婚や出産をしても、同じ仕事を続ける《就業継続型》」が29.7%で最も高く、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする《中断再就職型（パートタイム）》」(28.3%)、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする《中断再就職型》」(12.3%)が続いている。

性別でみると、女性では「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする《中断再就職型（パートタイム）》」(29.3%)、男性では「結婚や出産をしても、同じ仕事を続ける《就業継続型》」(35.9%)が最も高くなっている。「結婚や出産をしても、同じ仕事を続ける《就業継続型》」は男性(35.9%)が女性(25.5%)より10.4ポイント高くなっている。



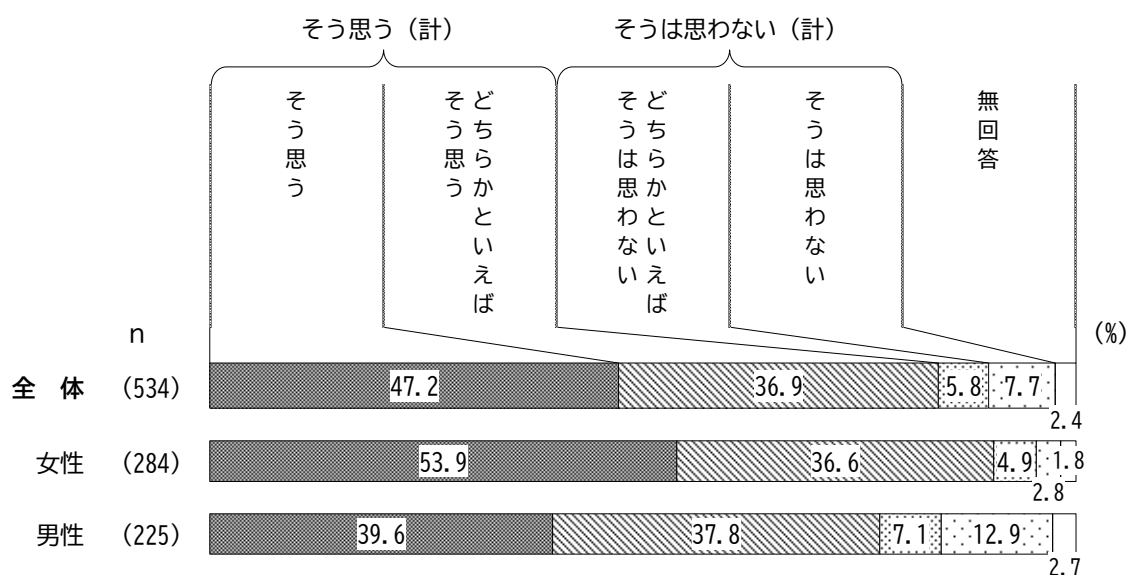
(2) 女性の活躍が進まない要因

総務省の「令和3年社会生活基本調査」によると、夫婦共働き世帯において、1日の中で、育児や介護、家事などに費やす時間を男女別に比較すると、男性は53分、女性は4時間18分となっています。同様に、仕事に費やす時間を男女別に比較すると、男性は6時間54分、女性は4時間16分となっています。育児や介護、家事などに費やす時間は女性の方が長く、仕事に費やす時間は男性の方が長い現状となっています。

問5. 育児や介護、家事などに女性の方がより多くの時間を費やしていることが、職業生活における女性の活躍が進まない要因の一つだという意見がありますが、あなたはこの意見について、どう思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

女性の活躍が進まない要因への意見については、全体では、「そう思う」が47.2%で最も高く、「どちらかといえばそう思う」(36.9%)と合わせた《そう思う(計)》は84.1%となっている。一方、「そうは思わない」(7.7%)、「どちらかといえばそうは思わない」(5.8%)を合わせた《そうは思わない(計)》は13.5%である。

性別でみると、《そう思う(計)》は女性(90.5%)が男性(77.4%)より13.1ポイント高くなっている。一方、《そうは思わない(計)》は男性(20.0%)が女性(7.7%)より12.3ポイント高くなっている。



※ 《そう思う(計)》とは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。

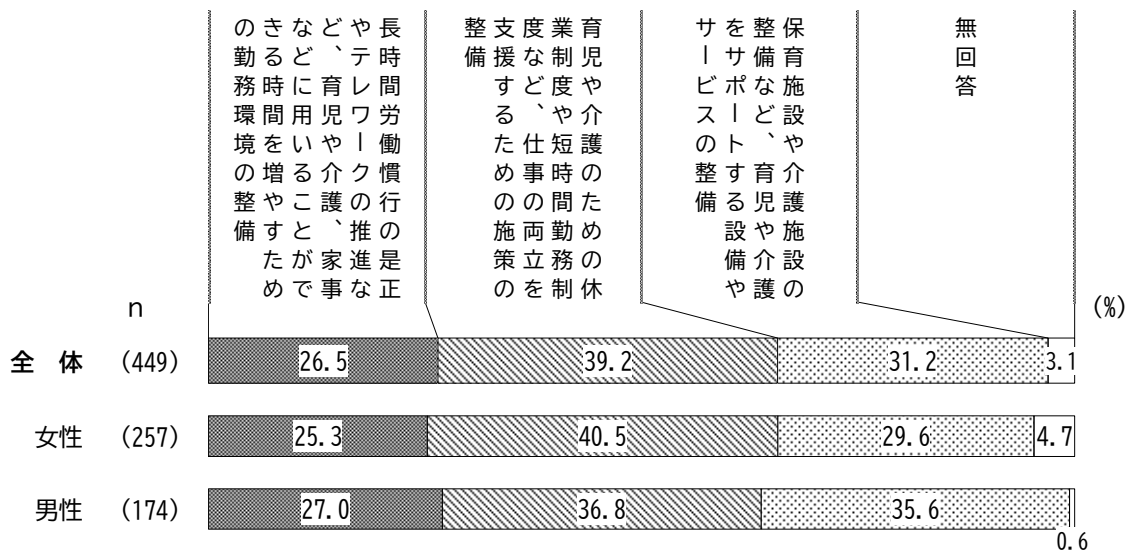
※ 《そうは思わない(計)》とは、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」の合計。

(3) 女性の活躍を推進するために必要な支援

問5-2.【問5で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した方へおたずねします。】
 育児や介護、家事などに費やす時間を男女間でバランスのとれたものとし、職業生活における女性の活躍を更に推進するためには、特にどのような支援が必要だと思いますか。あなたのご意見に最も近いものに、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

女性の活躍を推進するために必要な支援については、全体では、「育児や介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事の両立を支援するための施策の整備」が39.2%で最も高く、次いで、「保育施設や介護施設の整備など、育児や介護をサポートする設備やサービスの整備」(31.2%)、「長時間労働慣行の是正やテレワークの推進など、育児や介護、家事などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備」(26.5%)が続いている。

性別で見ると、「育児や介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事の両立を支援するための施策の整備」が女性は40.5%、男性では36.8%で最も高くなっている。「保育施設や介護施設の整備など、育児や介護をサポートする設備やサービスの整備」は男性(35.6%)が女性(29.6%)より6.0ポイント高くなっている。



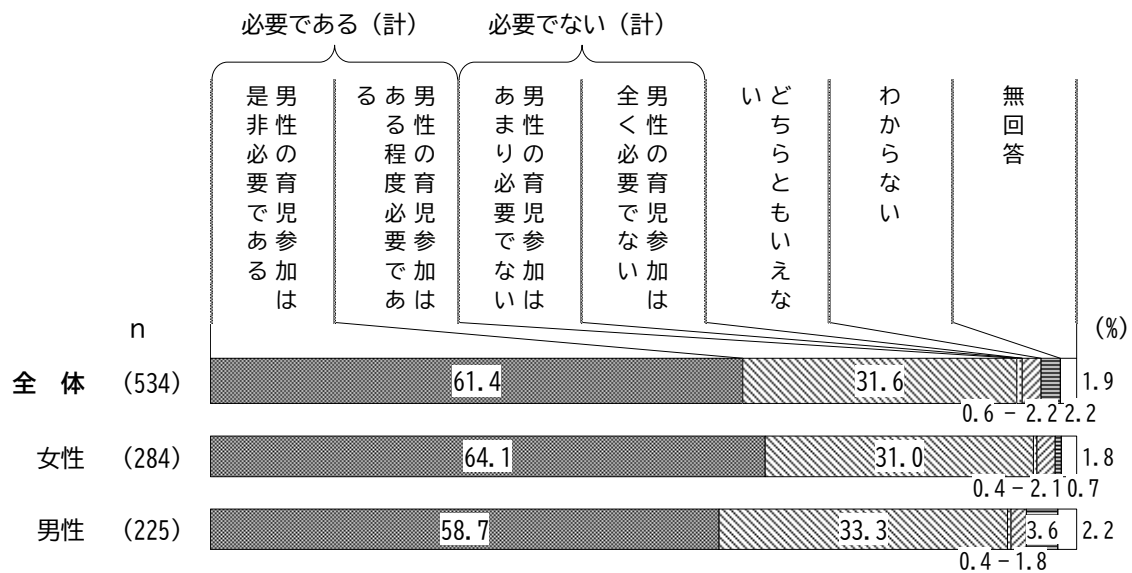
3. 子育てについて

(1) 男性の育児参加についての考え方

問6. あなたは、男性が育児に参加することについてどのようにお考えですか。
 あてはまる番号に1つ○をつけてください。

男性の育児参加についての考え方については、全体では、「男性の育児参加は是非必要である」が61.4%で最も高く、「男性の育児参加はある程度必要である」(31.6%)と合わせた《必要である(計)》が93.0%となっている。

性別で見ると、男女ともに「男性の育児参加は是非必要である」が最も高くなっているが、女性(64.1%)が男性(58.7%)より5.4ポイント高くなっている。



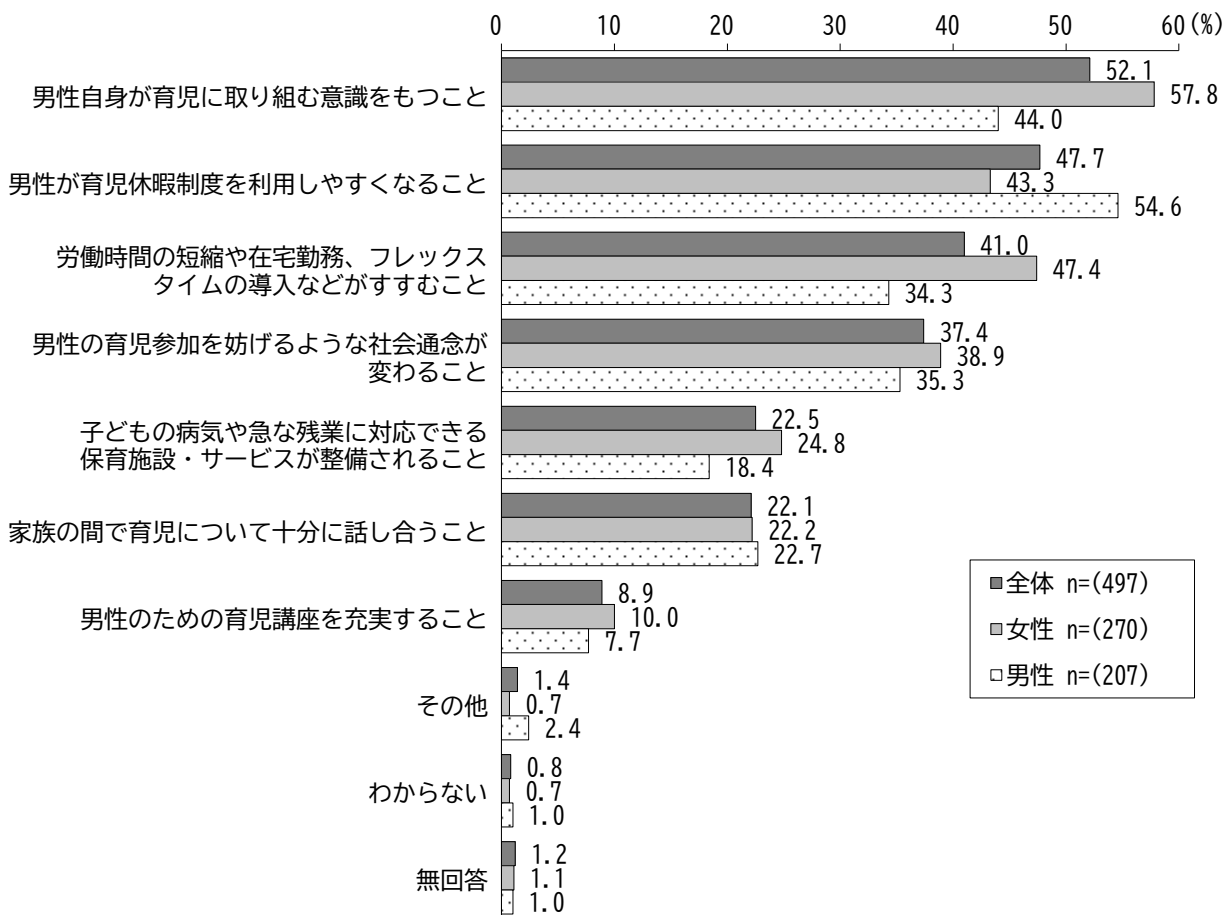
(2) 男性の育児参加を促進するために重要なこと

問6-2.【問6で「男性の育児参加は是非必要である」「男性の育児参加はある程度必要である」と回答した方におたずねします。】

男性の育児参加を促していくためには、どのようなことが重要になると思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

男性の育児参加を促進するために重要なことについては、全体では、「男性自身が育児に取り組む意識をもつこと」が52.1%で最も高く、次いで、「男性が育児休暇制度を利用しやすくなること」(47.7%)、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむこと」(41.0%)、「男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること」(37.4%)が続いている。

性別でみると、女性では「男性自身が育児に取り組む意識をもつこと」(57.8%)、男性では「男性が育児休暇制度を利用しやすくなること」(54.6%)が最も高くなっている。「男性自身が育児に取り組む意識をもつこと」は女性(57.8%)が男性(44.0%)より13.8ポイント、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむこと」は女性(47.4%)が男性(34.3%)より13.1ポイント、「子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること」は女性(24.8%)が男性(18.4%)より6.4ポイント高くなっている。一方、「男性が育児休暇制度を利用しやすくなること」は男性(54.6%)が女性(43.3%)より11.3ポイント高くなっている。



(3) 男性の育児参加は必要ないと思う理由

問6-3.【問6で「男性の育児参加はあまり必要でない」「男性の育児参加は全く必要でない」と回答した方におたずねします。】

男性の育児参加は必要ないと思う理由はつぎのどれにあたりますか。

あてはまる番号に2つまで○をつけてください。

男性の育児参加は必要ないと思う理由については、回答者数が全体で3人とどまるため、参考として掲載する。「男性は育児よりも職業や商売を優先した方がよいから」が3人、「女性の方が子育てに向いているから」が2人となっている。

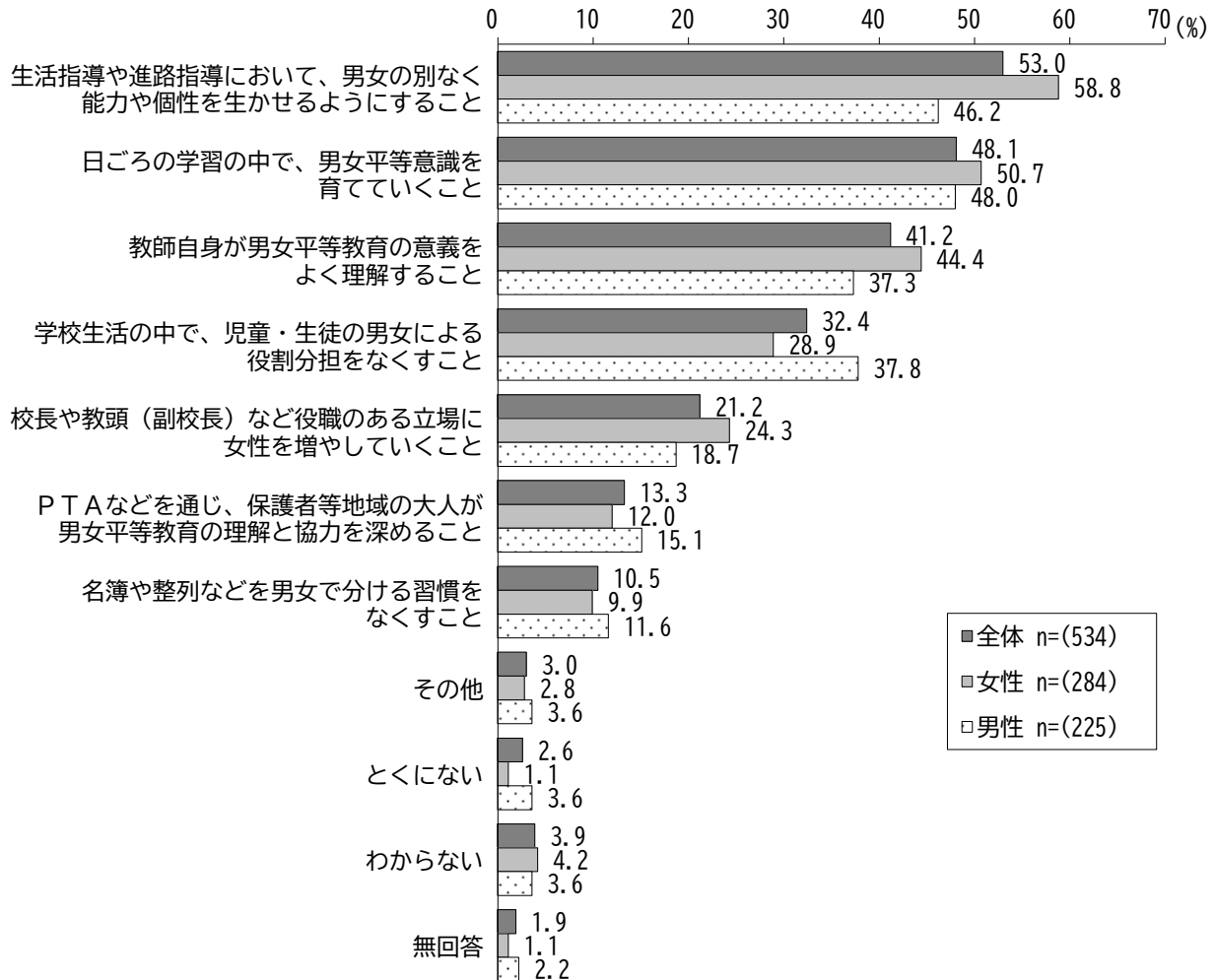
4. 教育について

(1) 男女平等教育において重要なこと

問7. これから、男女が平等な社会をつくるために、学校教育ではどのようなことが重要になるとお考えですか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

男女平等教育において重要なことについては、全体では、「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにすること」が53.0%で最も高く、次いで、「日ごろの学習の中で、男女平等意識を育てていくこと」(48.1%)、「教師自身が男女平等教育の意義をよく理解すること」(41.2%)、「学校生活の中で、児童・生徒の男女による役割分担をなくすこと」(32.4%)が続いている。

性別で見ると、女性では「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにすること」(58.8%)、男性では「日ごろの学習の中で、男女平等意識を育てていくこと」(48.0%)が最も高くなっている。「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにすること」は女性(58.8%)が男性(46.2%)より12.6ポイント、「教師自身が男女平等教育の意義をよく理解すること」は女性(44.4%)が男性(37.3%)より7.1ポイント、「校長や教頭(副校長)など役職のある立場に女性を増やしていくこと」は女性(24.3%)が男性(18.7%)より5.6ポイント高くなっている。一方、「学校生活の中で、児童・生徒の男女による役割分担をなくすこと」は男性(37.8%)が女性(28.9%)より8.9ポイント高くなっている。



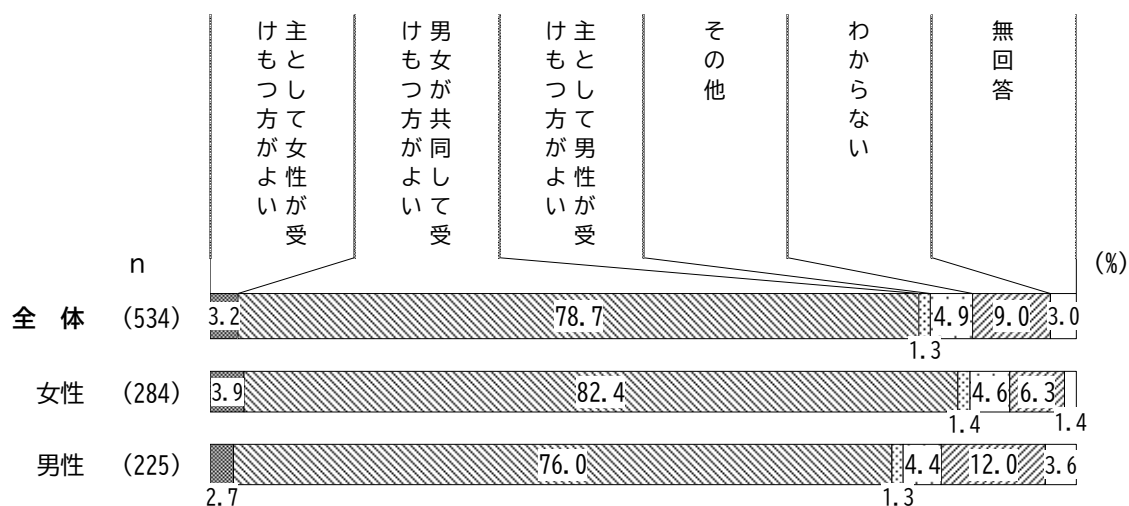
5. 介護について

(1) 介護の役割分担についての考え方

問8. あなたは、ふだんから高齢者の介護をする場合に、家庭内の分担はどのようにするとよいと思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

介護の役割分担についての考え方については、全体では、「男女が共同して受けもつ方がよい」が78.7%で最も高く、「主として女性が受けもつ方がよい」が3.2%、「主として男性が受けもつ方がよい」が1.3%となっている。

性別で見ると、男女ともに「男女が共同して受けもつ方がよい」が最も高くなっているが、女性（82.4%）が男性（76.0%）より6.4ポイント高くなっている。

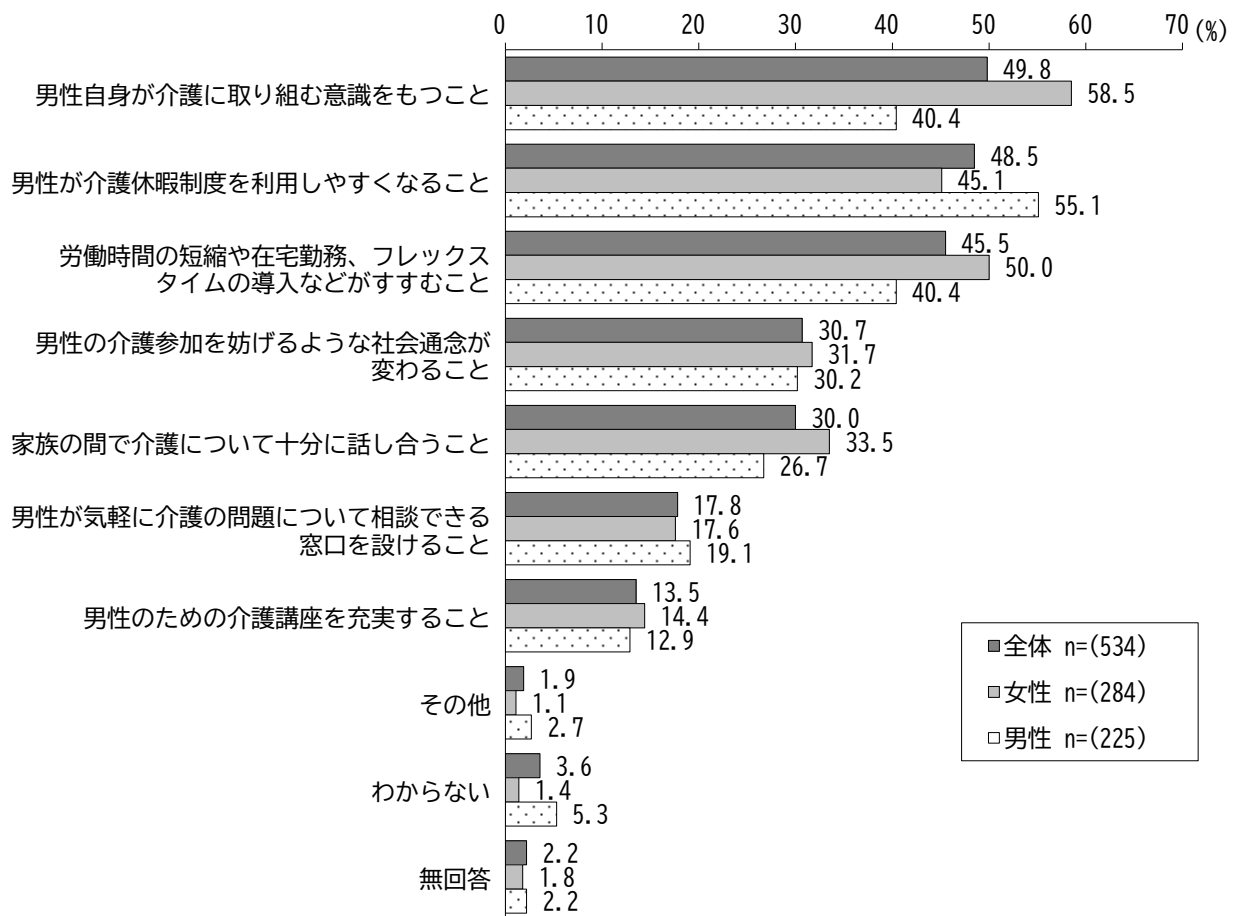


(2) 男性の介護参加を促進するために重要なこと

問9. 今後、男性が介護に参加していくためには、どのようなことが重要になるとお考えですか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

男性の介護参加を促進するために重要なことについては、全体では、「男性自身が介護に取り組む意識をもつこと」が49.8%で最も高く、次いで、「男性が介護休暇制度を利用しやすくなること」(48.5%)、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむこと」(45.5%)、「男性の介護参加を妨げるような社会通念が変わること」(30.7%)、「家族の間で介護について十分に話し合うこと」(30.0%)が続いている。

性別でみると、女性では「男性自身が介護に取り組む意識をもつこと」(58.5%)、男性では「男性が介護休暇制度を利用しやすくなること」(55.1%)が最も高くなっている。「男性自身が介護に取り組む意識をもつこと」は女性(58.5%)が男性(40.4%)より18.1ポイント、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむこと」は女性(50.0%)が男性(40.4%)より9.6ポイント、「家族の間で介護について十分に話し合うこと」は女性(33.5%)が男性(26.7%)より6.8ポイント高くなっている。一方、「男性が介護休暇制度を利用しやすくなること」は男性(55.1%)が女性(45.1%)より10.0ポイント高くなっている。



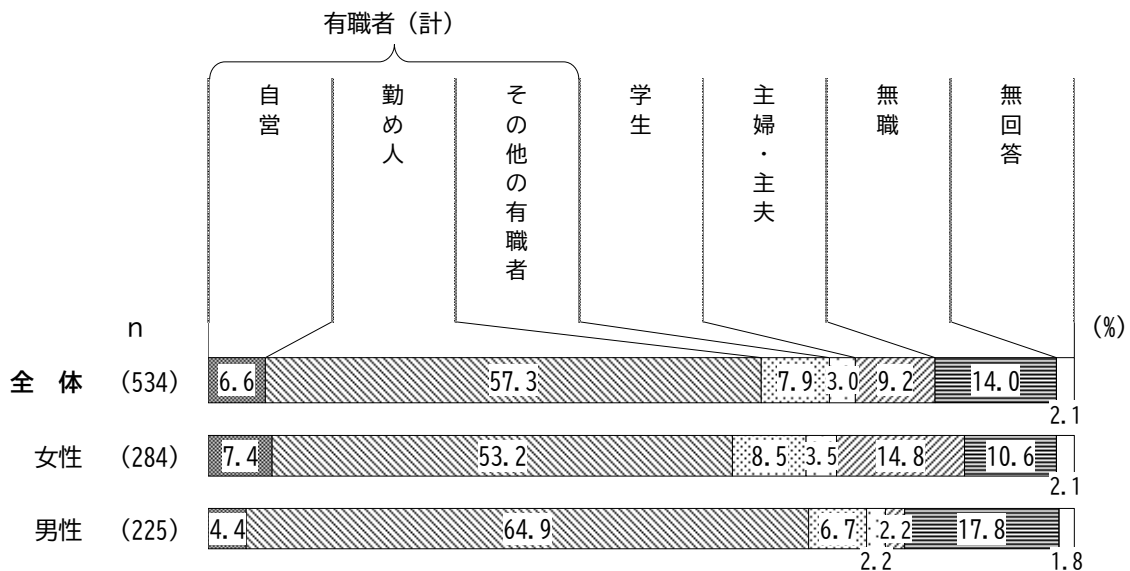
6. 職業、ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 職業

問10. 現在のあなたの職業はつぎのうちどれにあたりますか。
あてはまる番号に1つ○をつけてください。

職業については、全体では、「勤め人」が57.3%で最も高く、「自営」(6.6%)、「その他の有職者」(7.9%)と合わせた《有職者(計)》は71.8%となっている。また、「無職」が14.0%、「主婦・主夫」が9.2%となっている。

性別でみると、「勤め人」が男女ともに最も高くなっているが、男性(64.9%)が女性(53.2%)より11.7ポイント高くなっている。また、《有職者(計)》は男性(76.0%)が女性(69.1%)より6.9ポイント高くなっている。一方、「主婦・主夫」は女性(14.8%)が男性(2.2%)より12.6ポイント高くなっている。また、「無職」は男性(17.8%)が女性(10.6%)より7.2ポイント高くなっている。



※『勤め人』とは、「経営・管理職(企業経営者、企業・館長の管理職など)」と「専門・技術職(教員、研究者、勤務医、看護師など)」と「事務・営業職(事務、営業従事者など)」と「技能・労務職(技能工、製造・建設作業、運転手など)」と「販売サービス職(店員、外交員などの販売従事者や美容師、調理師、守衛等のサービス従事者など)」の合計。

※『自営』とは、「農業・商工サービス自営業(卸・小売店、飲食店、理髪店、工作所等の自営業種など)」と「自由業(開業医、著述業、芸術家など)」と「家業の手伝い」の合計。

※『その他の有職者』とは、「内職」と「その他の職業」の合計。

※《有職者(計)》とは、「自営」と「勤め人」、「その他の有職者」の合計。

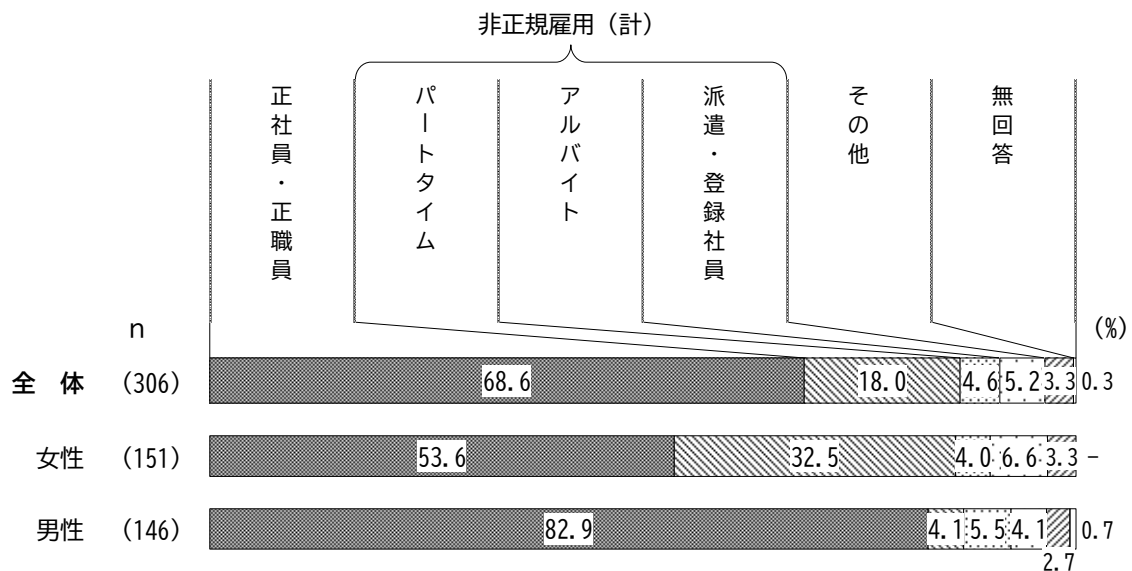
(2) 働き方

問10-2.【勤め人の方（問10で「経営・管理職」～「販売サービス職」と回答した方）におたずねします。】

あなたの主たる働き方はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。パートタイム、アルバイトの方はあなたのお勤め先の呼称でお答えください。

勤め人の働き方については、全体では、「正社員・正職員」が68.6%で最も高く、《非正規雇用（計）》は27.8%となっている。非正規雇用の内訳は、「パートタイム」（18.0%）が最も高く、「派遣・登録社員」（5.2%）、「アルバイト」（4.6%）が続いている。

性別で見ると、男女ともに「正社員・正職員」が最も高くなっているが、男性（82.9%）が女性（53.6%）より29.3ポイント高くなっている。一方、「パートタイム」は女性（32.5%）が男性（4.1%）より28.4ポイント高くなっている。



(3) 職場における男女格差

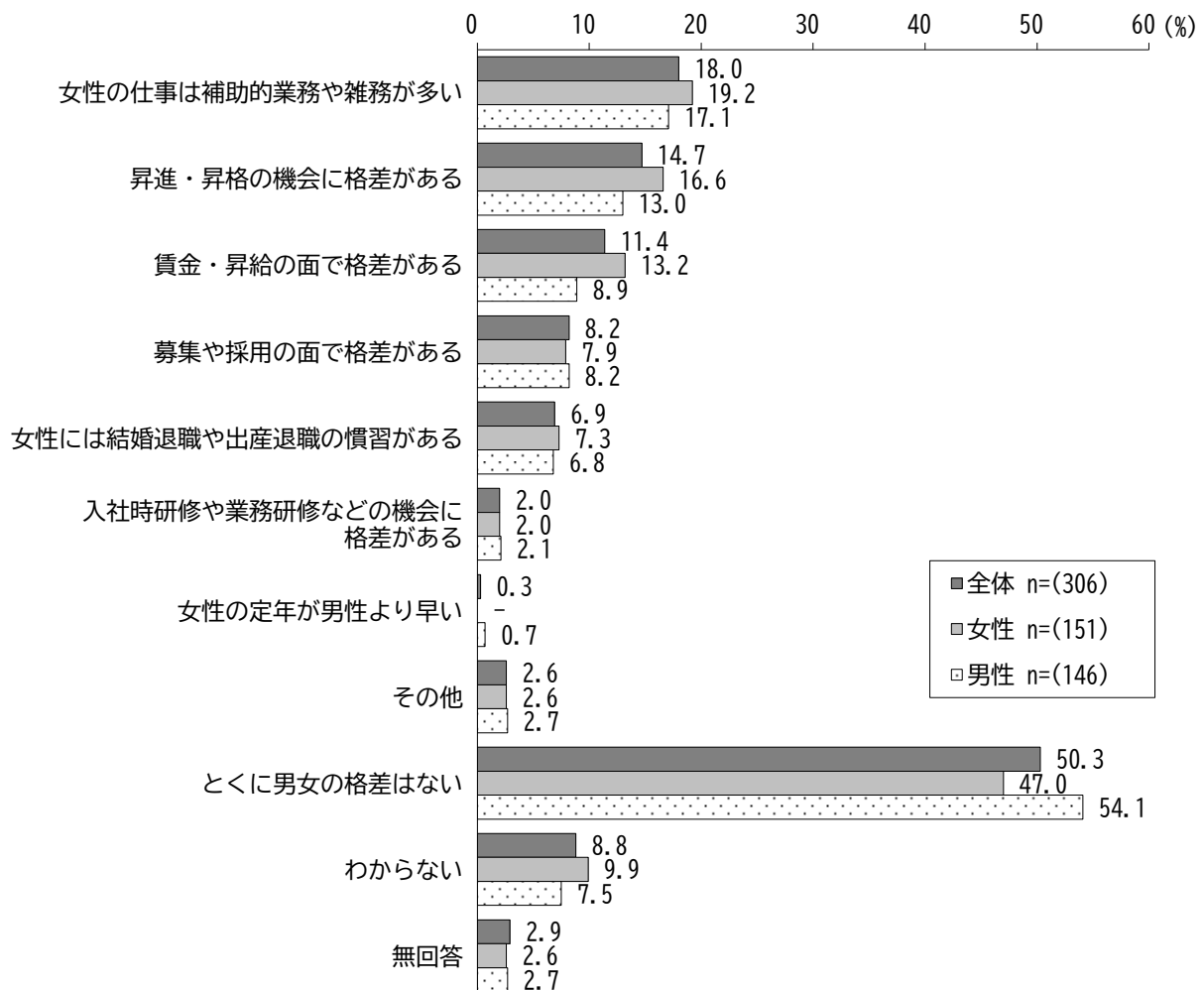
問10-3.【勤め人の方（問10で「経営・管理職」～「販売サービス職」と回答した方）におたずねします。】

あなたの職場では、男女間でつぎのような格差がありますか。

思いあたるものの番号にいくつでも○をつけてください。

勤め人の職場における男女格差については、全体では、「女性の仕事は補助的業務や雑務が多い」が18.0%で最も高く、次いで、「昇進・昇格の機会に格差がある」(14.7%)、「賃金・昇給の面で格差がある」(11.4%)が続いている。一方、「とくに男女の格差はない」は50.3%となっている。

性別で見ると、男女ともに「女性の仕事は補助的業務や雑務が多い」が約2割で最も高くなっている。「とくに男女の格差はない」は男性(54.1%)が女性(47.0%)より7.1ポイント高くなっている。



(4) 働いていない理由

問11. 【問10で「主婦・主夫」または「無職」と回答した方におたずねします。】

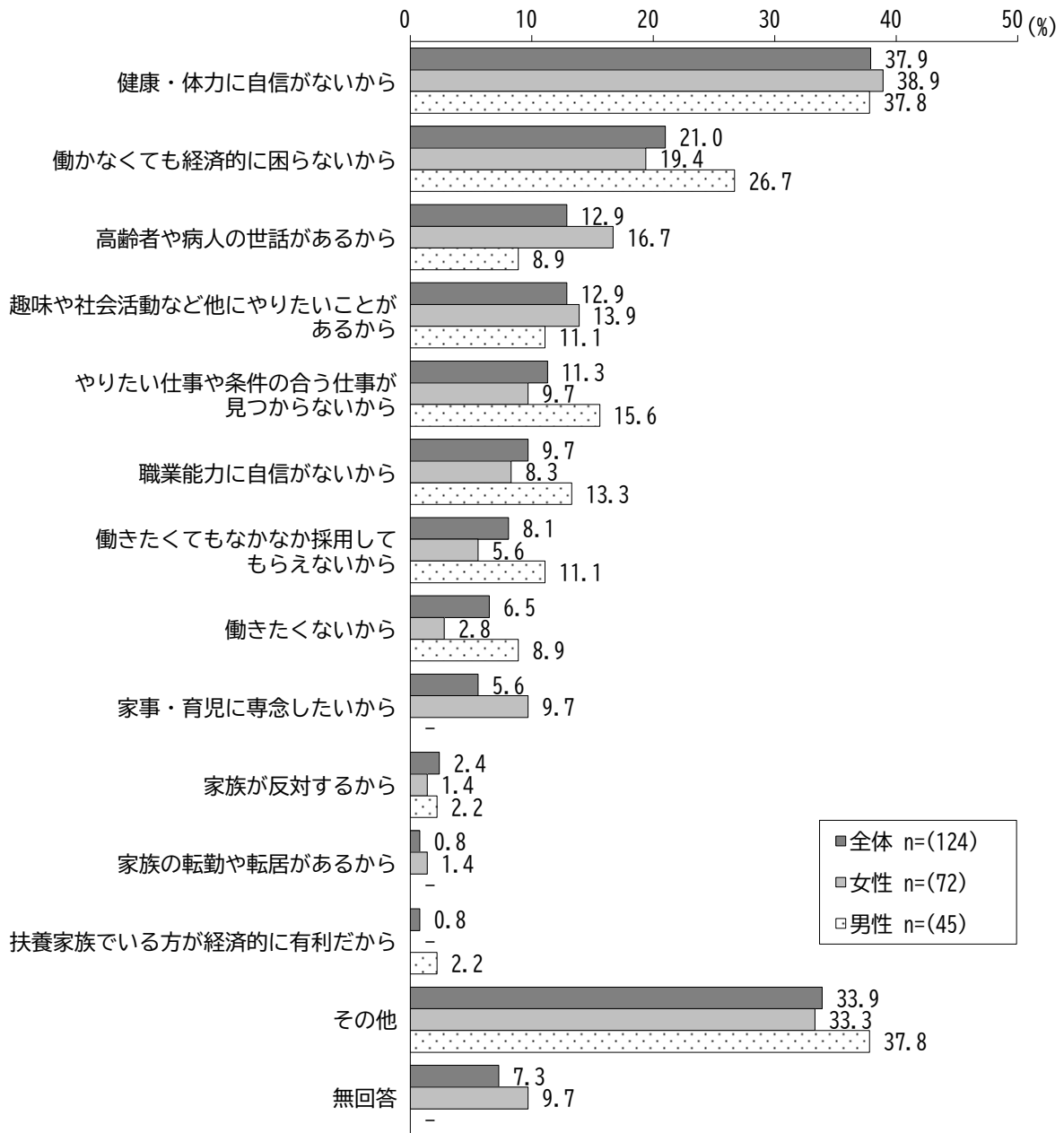
あなたが、現在働いていない理由はつぎのどれにあたりますか。

あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

「主婦・主夫」または「無職」の方の働いていない理由については、全体では、「健康・体力に自信がないから」が37.9%で最も高く、次いで、「働かなくても経済的に困らないから」(21.0%)、「高齢者や病人の世話があるから」(12.9%)、「趣味や社会活動など他にやりたいことがあるから」(12.9%)、「やりたい仕事や条件の合う仕事が見つからないから」(11.3%)が続いている。

性別でみると、男女ともに「健康・体力に自信がないから」が約4割で最も高くなっている。「家事・育児に専念したいから」は女性で9.7%の一方、男性では回答が見られなかった。また、「高齢者や病人の世話があるから」は女性(16.7%)が男性(8.9%)より7.8ポイント高くなっている。一方、「働かなくても経済的に困らないから」は男性(26.7%)が女性(19.4%)より7.3ポイント、「働きたくないから」は男性(8.9%)が女性(2.8%)より6.1ポイント高くなっている。

第2章 大人向け調査結果の詳細

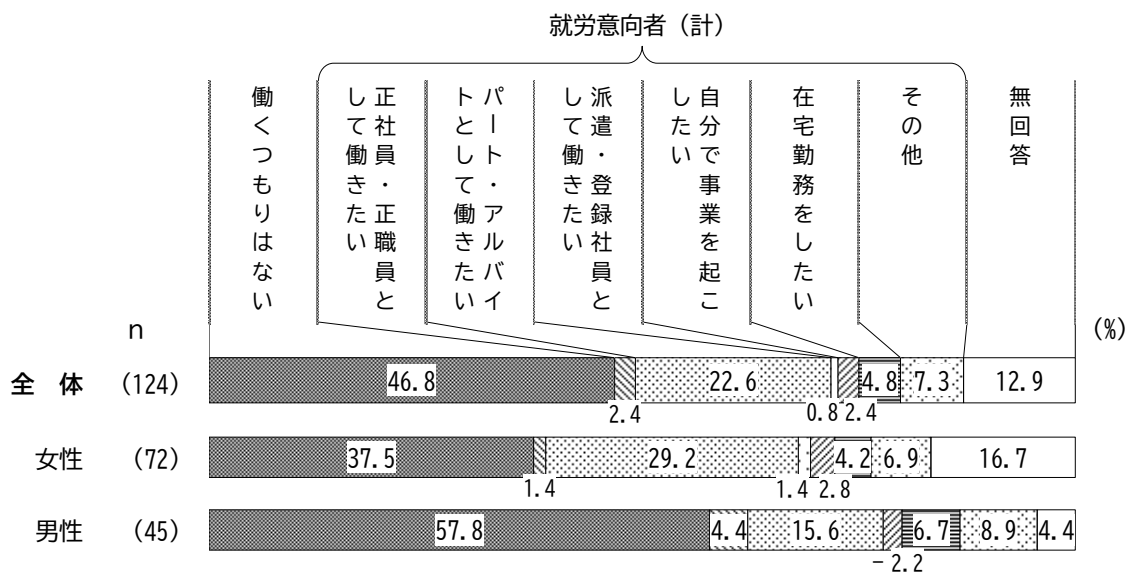


(5) 今後の就労意向

問11-2. 【問10で「主婦・主夫」または「無職」と回答した方におたずねします。】
 あなたは今後働きたいと思いますか。また、どのようなかたちで働きたいと思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

「主婦・主夫」または「無職」の方の今後の就労意向については、全体では、「働くつもりはない」が46.8%で最も高く、次いで、「パート・アルバイトとして働きたい」(22.6%)、「在宅勤務をしたい」(4.8%)、「正社員・正職員として働きたい」(2.4%)が続いている。《就労意向者(計)》は40.3%となっている。

性別でみると、「パート・アルバイトとして働きたい」は女性(29.2%)が男性(15.6%)より13.6ポイント高くなっている。一方、「働くつもりはない」が男女ともに最も高くなっているが、男性(57.8%)が女性(37.5%)より20.3ポイント高くなっている。また、《就労意向者(計)》は女性(45.9%)が男性(37.8%)より8.1ポイント高くなっている。



※《就労意向者(計)》とは、「正社員・正職員として働きたい」、「パート・アルバイトとして働きたい」、「派遣・登録社員として働きたい」、「自分で事業を起こしたい」、「在宅勤務をしたい」、「その他」の合計。

(6) 生活の中での優先度

問12. 全ての方に、生活と仕事の調和（ワーク・ライフ・バランス）についておたずねします。

生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味・学習等）の優先度についてお伺いします。

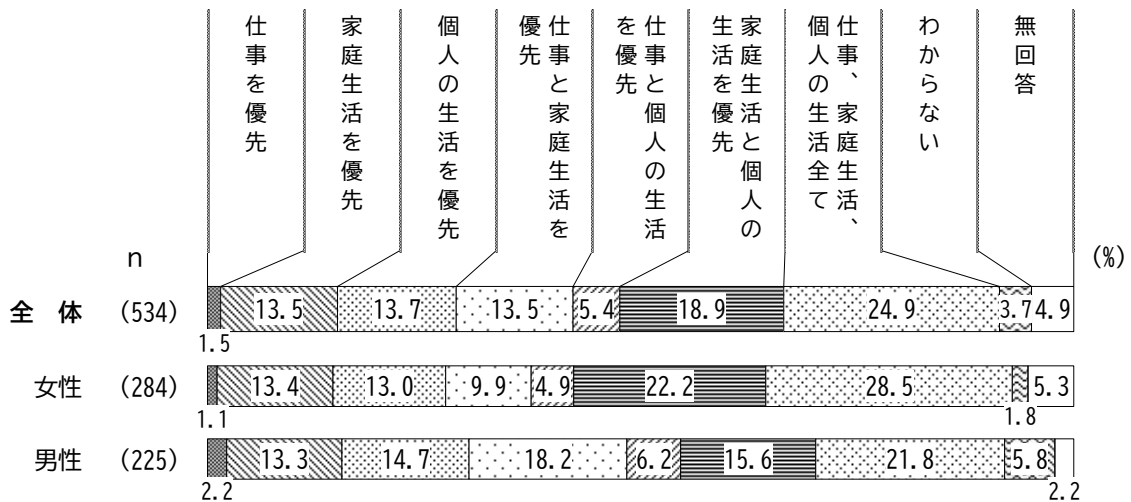
(1) 「希望」としての優先度
あなたの「希望」に最も近いものを下の①～⑧の中から1つだけ選び、数字を記入してください。

(2) 「現実」としての優先度
あなたの「現実」に最も近いものを下の①～⑧の中から1つだけ選び、数字を記入してください。

<生活の中での優先度・希望／性別>

生活の中での優先度の希望については、全体では、「仕事、家庭生活、個人の生活全て」が24.9%で最も高く、次いで、「家庭生活と個人の生活を優先」（18.9%）、「個人の生活を優先」（13.7%）、「家庭生活を優先」（13.5%）が続いている。

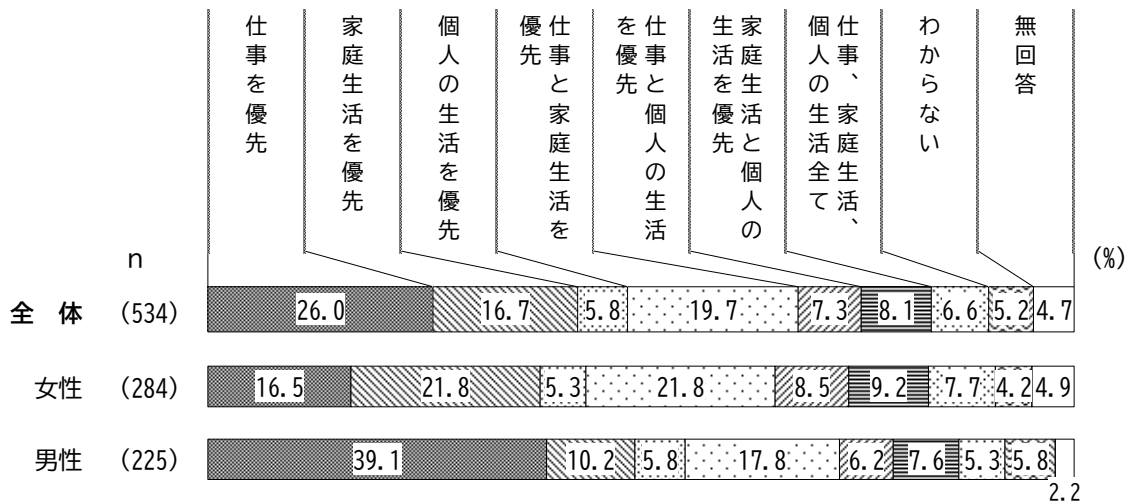
性別で見ると、男女ともに「仕事、家庭生活、個人の生活全て」が最も高くなっているが、女性（28.5%）が男性（21.8%）より6.7ポイント高くなっている。また、「家庭生活と個人の生活を優先」は女性（22.2%）が男性（15.6%）より6.6ポイント高くなっている。一方、「仕事と家庭生活を優先」は男性（18.2%）が女性（4.9%）より13.3ポイント高くなっている。



<生活の中での優先度・現実／性別>

生活の中での優先度の現実については、全体では、「仕事を優先」が26.0%で最も高く、次いで、「仕事と家庭生活を優先」(19.7%)、「家庭生活を優先」(16.7%)が続いている。

性別で見ると、女性では「家庭生活を優先」と「仕事と家庭生活を優先」(ともに21.8%)、男性では「仕事を優先」(39.1%)が最も高くなっている。「家庭生活を優先」は女性(21.8%)が男性(10.2%)より11.6ポイント高くなっている。一方、「仕事を優先」は男性(39.1%)が女性(16.5%)より22.6ポイント高くなっている。

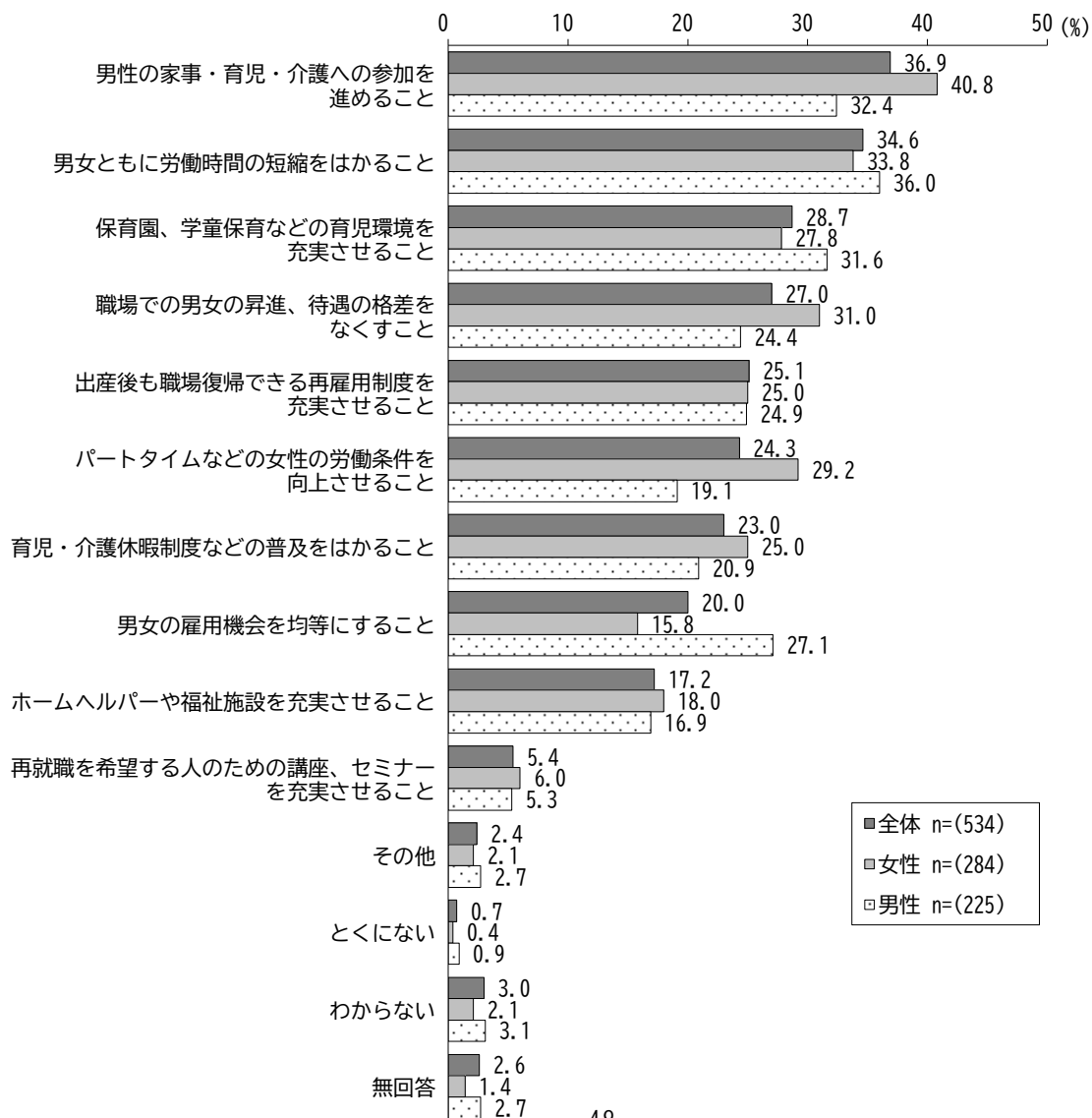


(7) 家庭生活と職業生活を両立するために重要なこと

問13. 全ての方におたずねします。これから男女ともに働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

家庭生活と職業生活を両立するために重要なことについては、全体では、「男性の家事・育児・介護への参加を進めること」が36.9%で最も高く、次いで、「男女ともに労働時間の短縮をはかること」(34.6%)、「保育園、学童保育などの育児環境を充実させること」(28.7%)、「職場での男女の昇進、待遇の格差をなくすこと」(27.0%)が続いている。

性別で見ると、女性では「男性の家事・育児・介護への参加を進めること」(40.8%)、男性では「男女ともに労働時間の短縮をはかること」(36.0%)が最も高くなっている。「パートタイムなどの女性の労働条件を向上させること」は女性(29.2%)が男性(19.1%)より10.1ポイント、「男性の家事・育児・介護への参加を進めること」は女性(40.8%)が男性(32.4%)より8.4ポイント、「職場での男女の昇進、待遇の格差をなくすこと」は女性(31.0%)が男性(24.4%)より6.6ポイント高くなっている。一方、「男女の雇用機会を均等にすること」は男性(27.1%)が女性(15.8%)より11.3ポイント高くなっている。



7. 人権・女性に対する暴力について

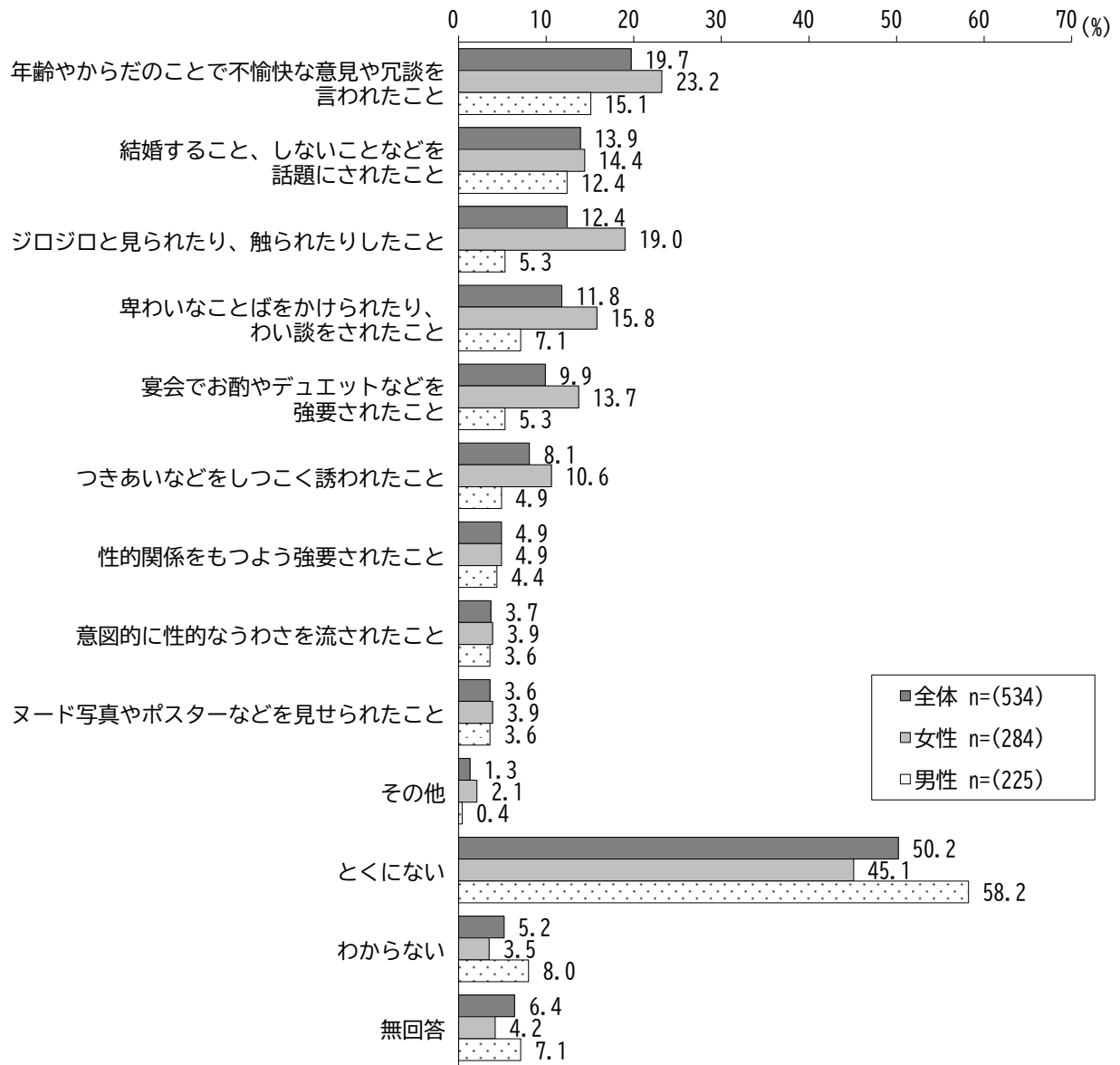
(1) セクシュアル・ハラスメントをうけた経験

問14. セクシュアル・ハラスメント*（性的いやがらせ）についておたずねします。
 あなた自身に対するつぎのようなことで、セクシュアル・ハラスメントだと感じた経験
 がありますか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。
 *セクシュアル・ハラスメントとは、職場や家庭、学校、地域社会において、相手方の意に反し
 て性的な行為を強要したり、性的な言動により生活環境を侵害することです。

セクシュアル・ハラスメントをうけた経験については、全体では、「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」が19.7%で最も高く、次いで、「結婚すること、しないことなどを話題にされたこと」(13.9%)、「ジロジロと見られたり、触られたりしたこと」(12.4%)、「卑わいなことばをかけられたり、わい談をされたこと」(11.8%)が続いている。一方、「とくにない」が50.2%となっている。

性別で見ると、いずれの項目も女性が男性を上回っており、特に「ジロジロと見られたり、触られたりしたこと」は女性(19.0%)が男性(5.3%)より13.7ポイント、「卑わいなことばをかけられたり、わい談をされたこと」は女性(15.8%)が男性(7.1%)より8.7ポイント、「宴会でお酌やデュエットなどを強要されたこと」は女性(13.7%)が男性(5.3%)より8.4ポイント、「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」は女性(23.2%)が男性(15.1%)より8.1ポイント高くなっている。一方、「とくにない」は男性(58.2%)が女性(45.1%)より13.1ポイント高くなっている。

第2章 大人向け調査結果の詳細



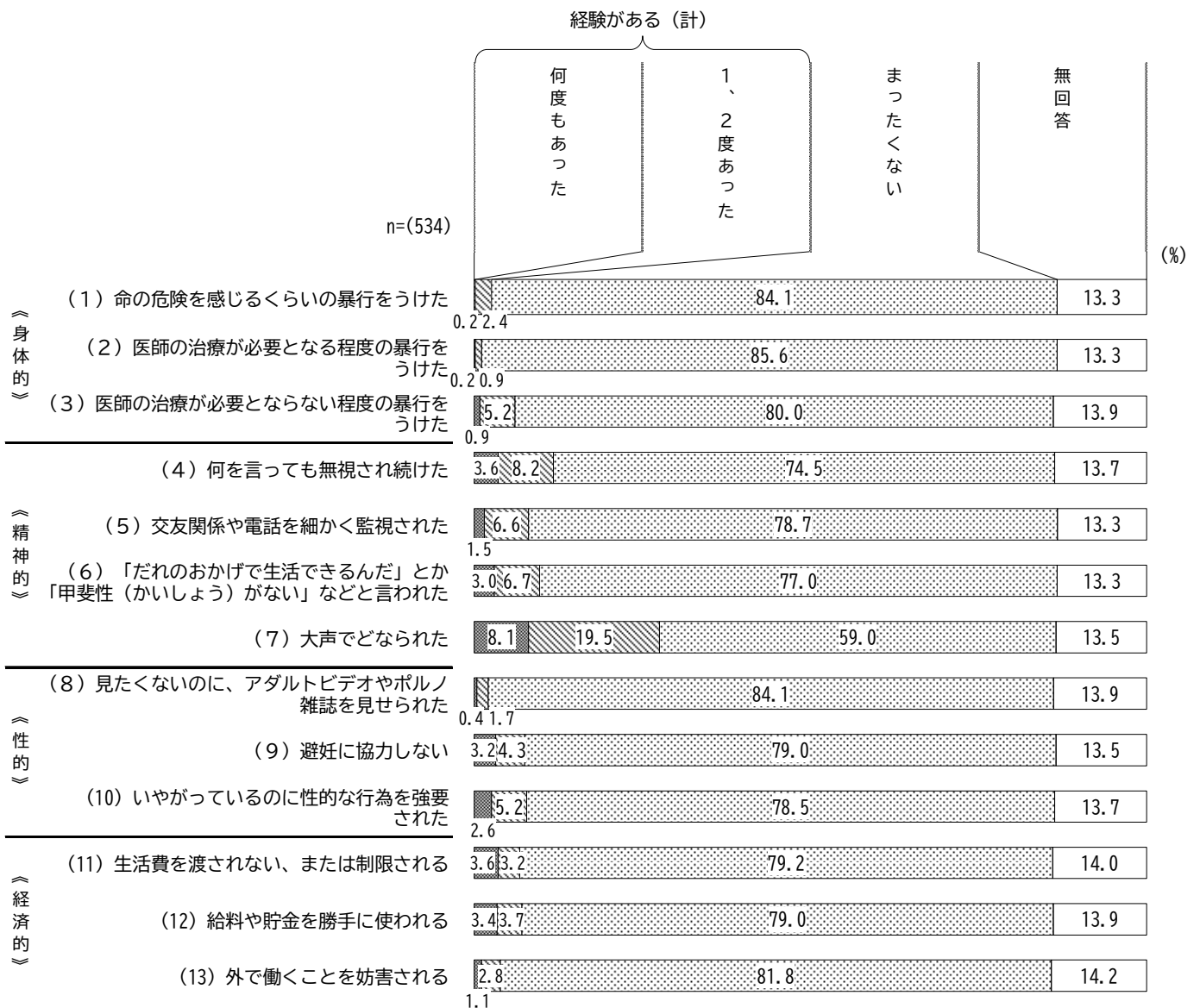
(2) パートナー（夫・妻・恋人）から暴力を受けた経験

問15. 家庭内・家族間で起こる暴力、とりわけパートナー（夫・妻・恋人）といった親密な間柄での暴力が問題になっています。あなたは、パートナー（夫・妻・恋人）から、つぎの（1）から（13）のようなことをされた経験がありますか。あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

*現在パートナーのいない方は過去の経験をお答えください。該当しない方は、問17にお進みください。

全体では、《身体的暴力》について《経験がある（計）》の割合が最も高いのは『（3）医師の治療が必要とされない程度の暴行を受けた』が6.1%となっている。

また、《精神的暴力》では『（7）大声でどなられた』（27.6%）、《性的暴力》では『（10）いやがっているのに性的な行為を強要された』（7.8%）と『（9）避妊に協力しない』（7.5%）、《経済的暴力》では『（12）給料や貯金を勝手に使われる』（7.1%）と『（11）生活費を渡されれない、または制限される』（6.8%）の割合が高くなっている。

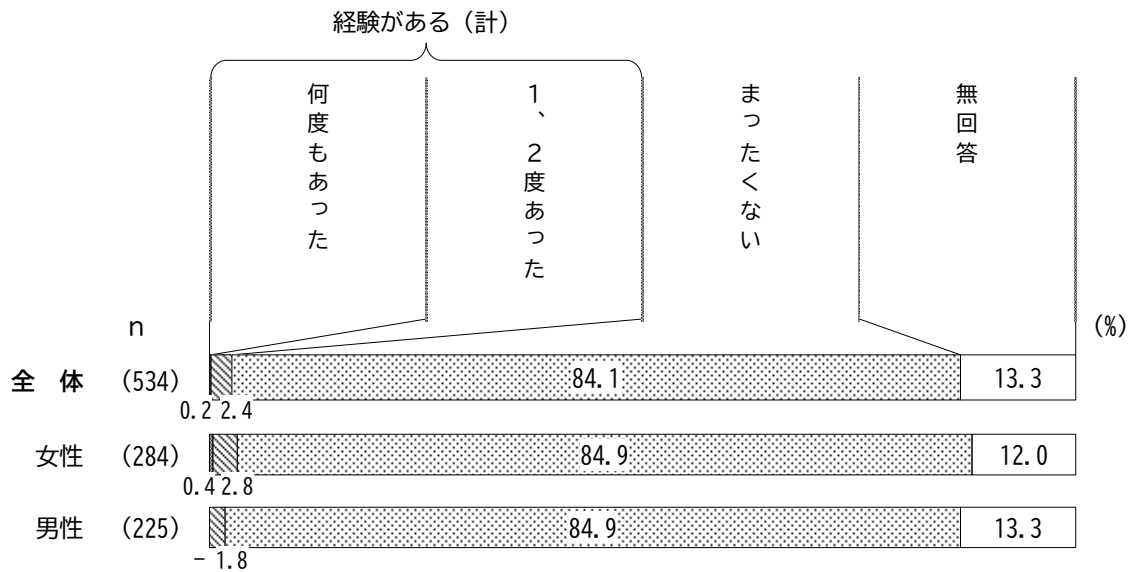


※《経験がある（計）》とは、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計。

第2章 大人向け調査結果の詳細

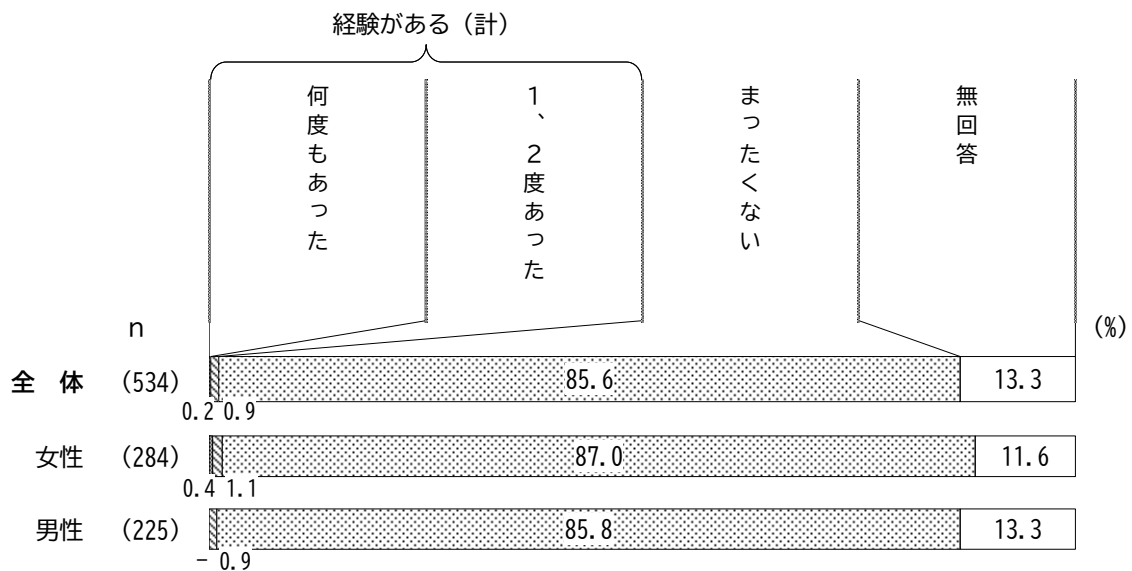
< (1) 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた／性別 >

性別で見ると、男女ともに「まったくない」が84.9%となっており、大きな差は見られなかった。



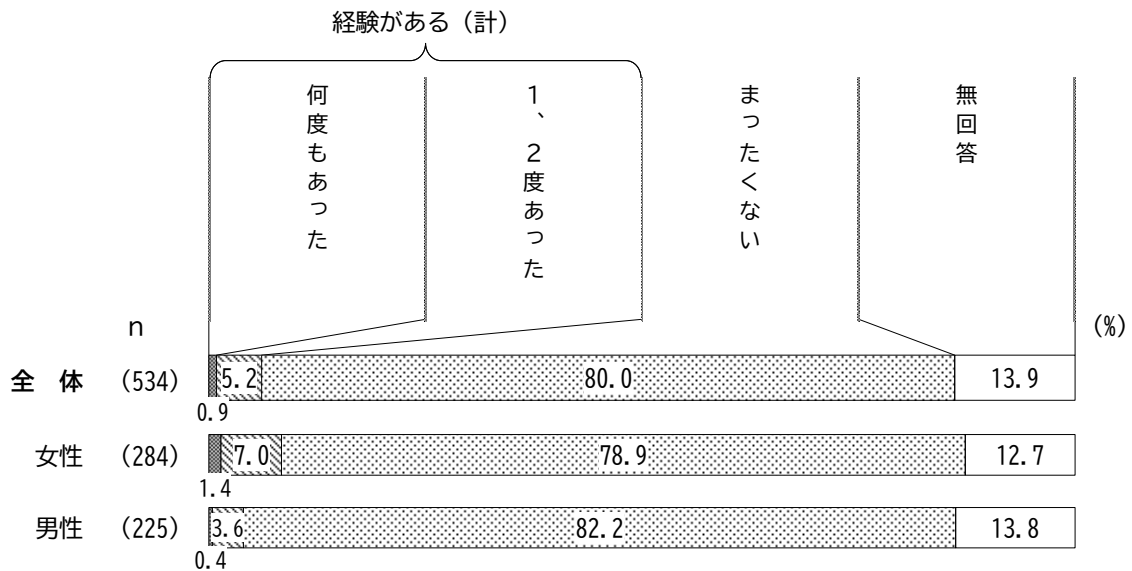
< (2) 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた／性別 >

性別で見ると、男女ともに「まったくない」が8割台半ばとなっており、大きな差は見られなかった。



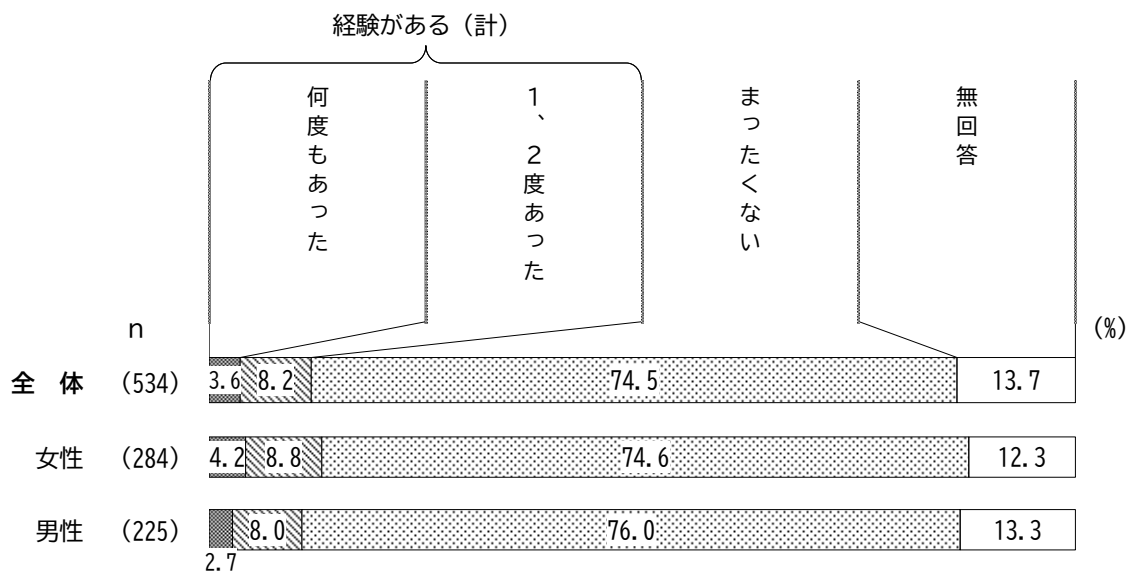
< (3) 医師の治療が必要とされない程度の暴行を受けた／性別 >

性別で見ると、男女ともに「まったくない」が8割前後となっており、大きな差は見られなかった。



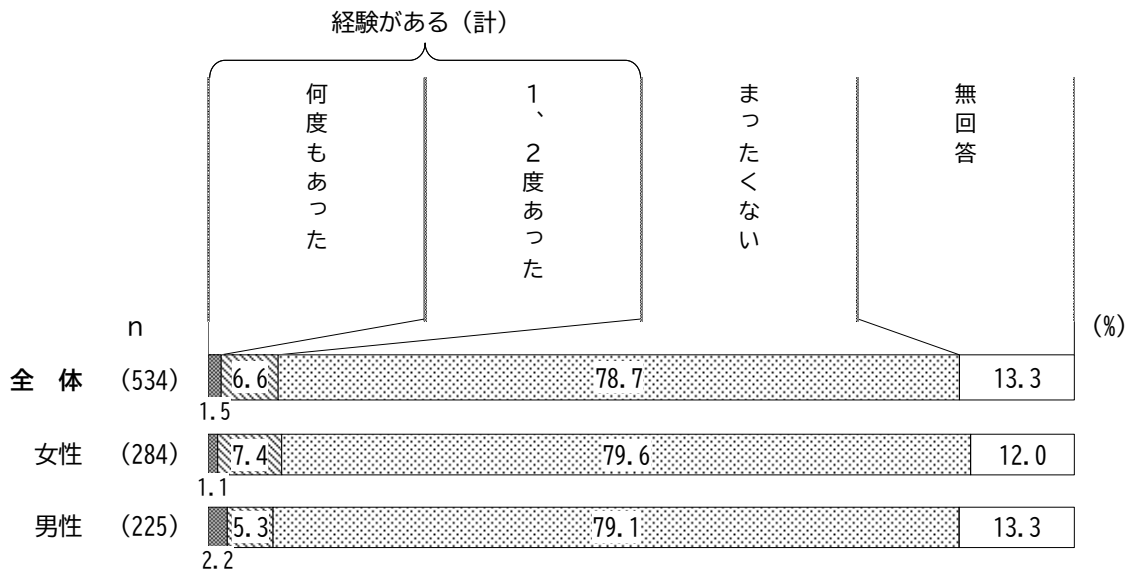
< (4) 何を言っても無視され続けた／性別 >

性別で見ると、男女ともに「まったくない」が7割台半ばとなっており、大きな差は見られなかった。



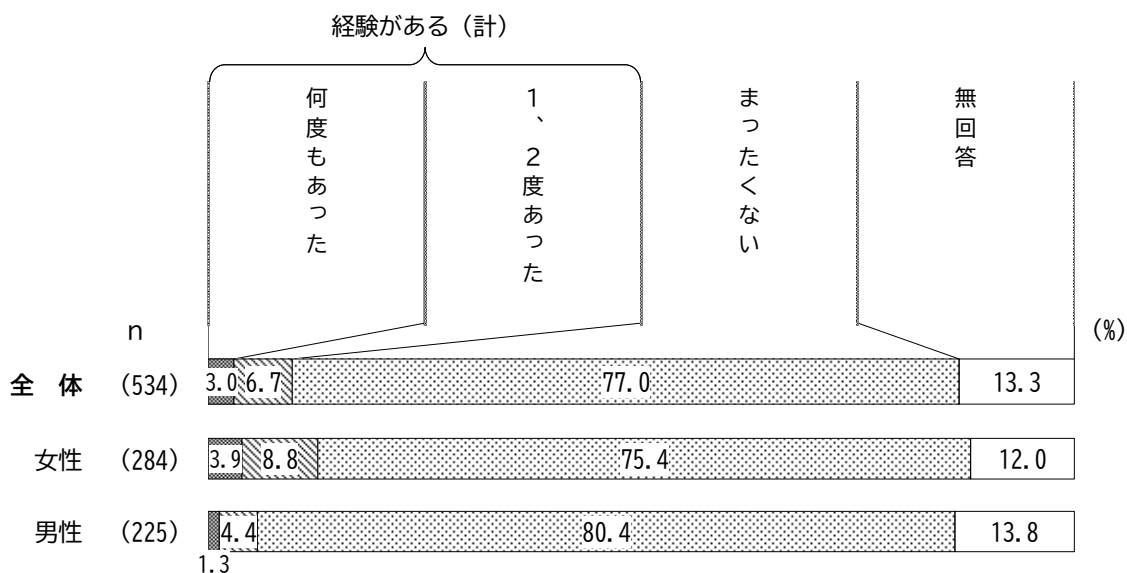
< (5) 交友関係や電話を細かく監視された／性別 >

性別で見ると、男女ともに「まったくない」が約8割となっており、大きな差は見られなかった。



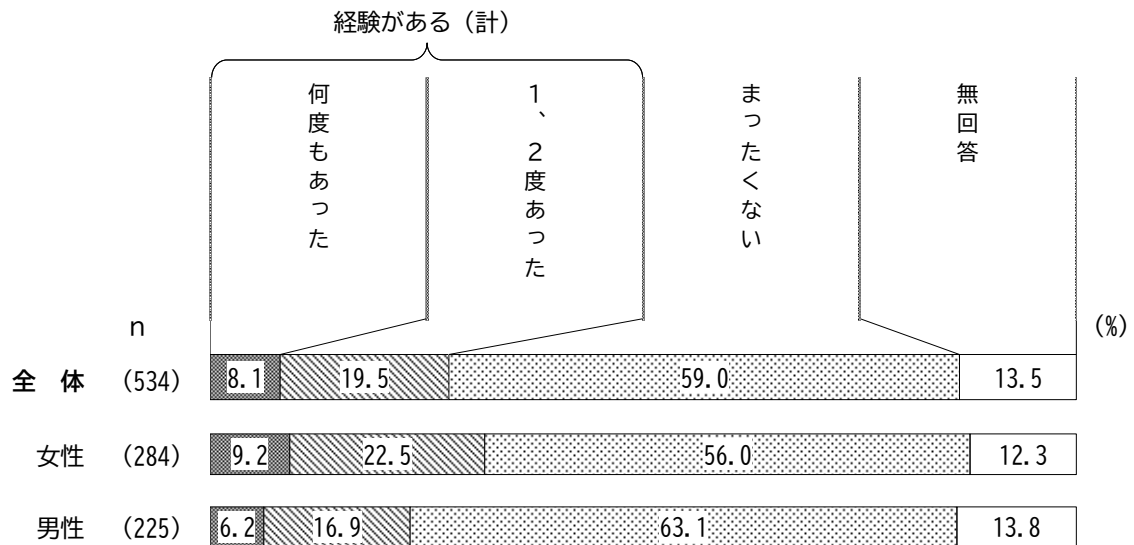
< (6) 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性 (かいしょう) がない」などと言われた／性別 >

性別で見ると、《経験がある (計)》は女性 (12.7%) が男性 (5.7%) より7.0ポイント高くなっている。



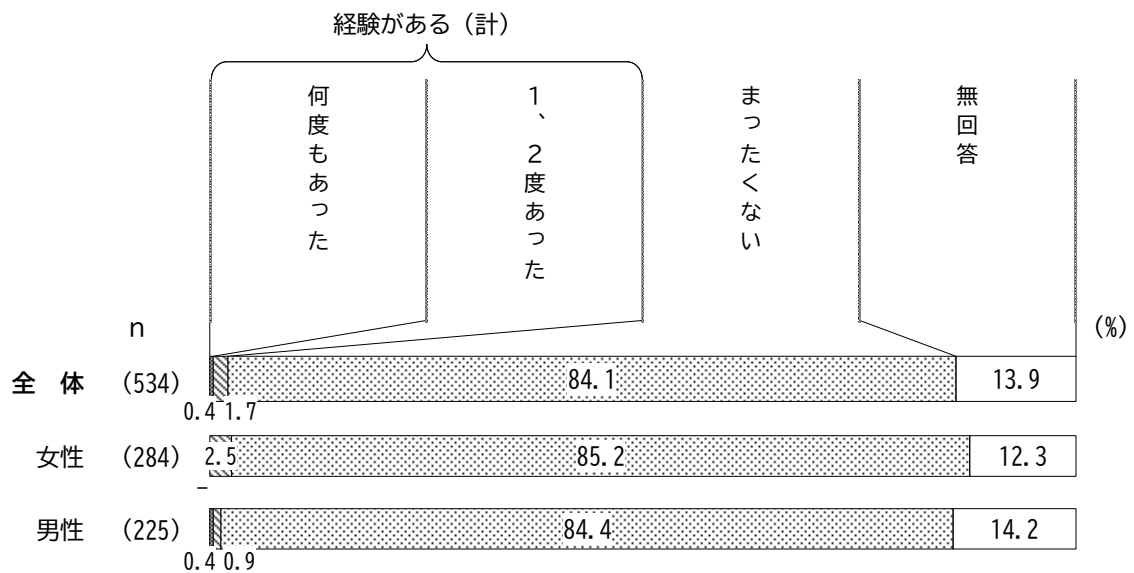
< (7) 大声でどなられた／性別 >

性別で見ると、《経験がある（計）》は女性（31.7%）が男性（23.1%）より8.6ポイント高くなっている。



< (8) 見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せられた／性別 >

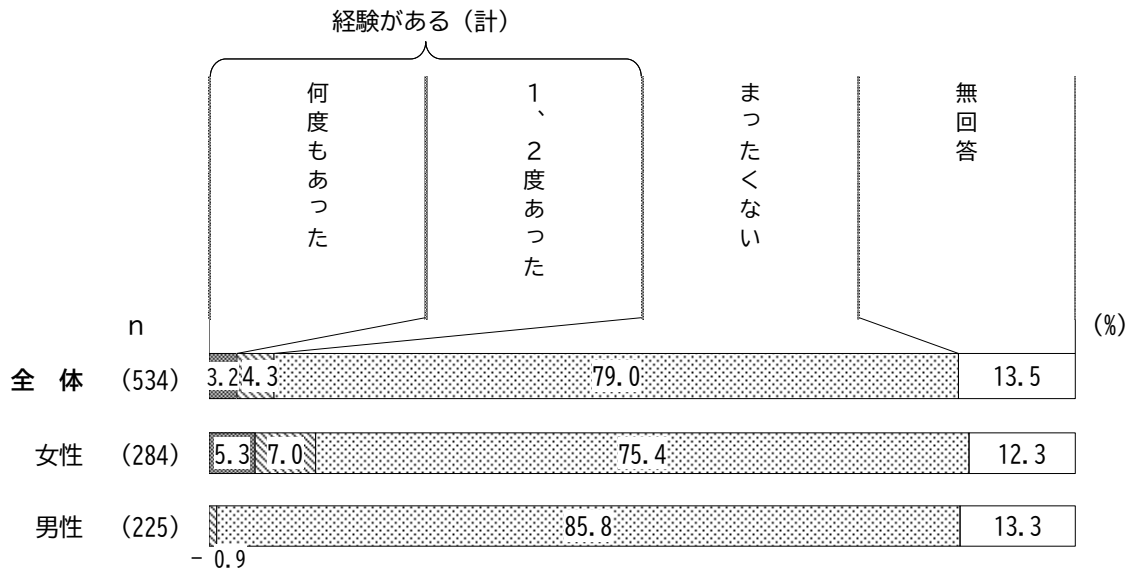
性別で見ると、男女ともに「まったくくない」が8割台半ばとなっており、大きな差は見られなかった。



第2章 大人向け調査結果の詳細

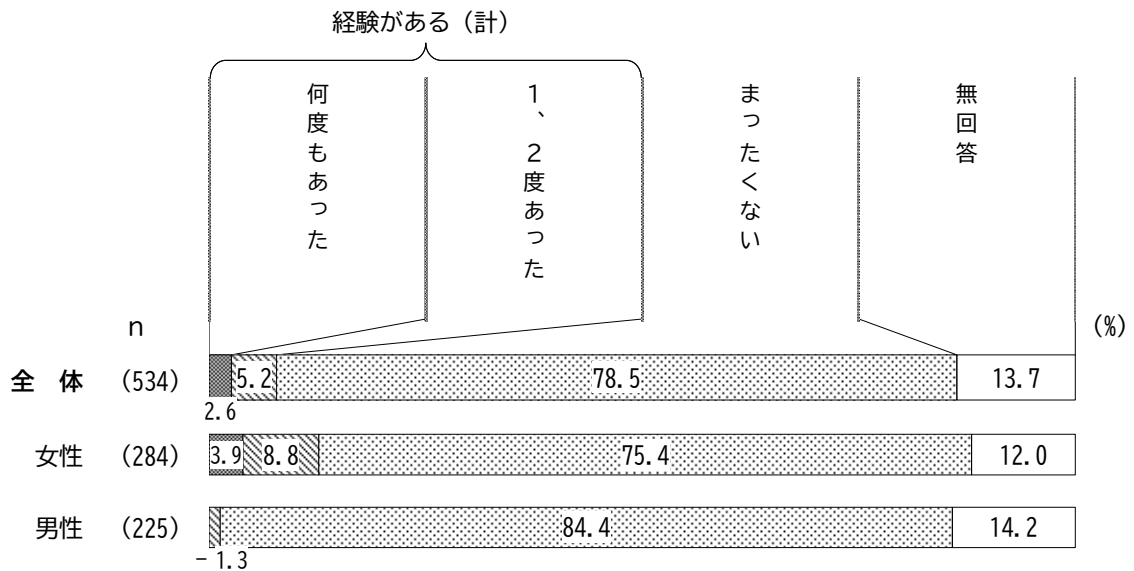
< (9) 避妊に協力しない／性別 >

性別で見ると、《経験がある（計）》は女性（12.3%）が男性（0.9%）より11.4ポイント高くなっている。



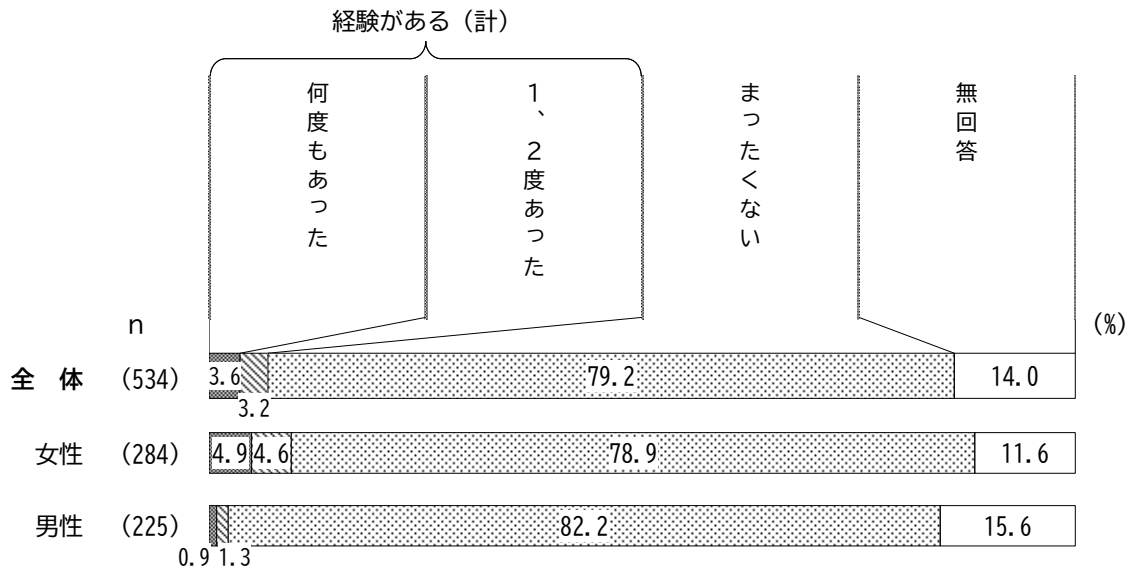
< (10) いやがっているのに性的な行為を強要された／性別 >

性別で見ると、《経験がある（計）》は女性（12.7%）が男性（1.3%）より11.4ポイント高くなっている。



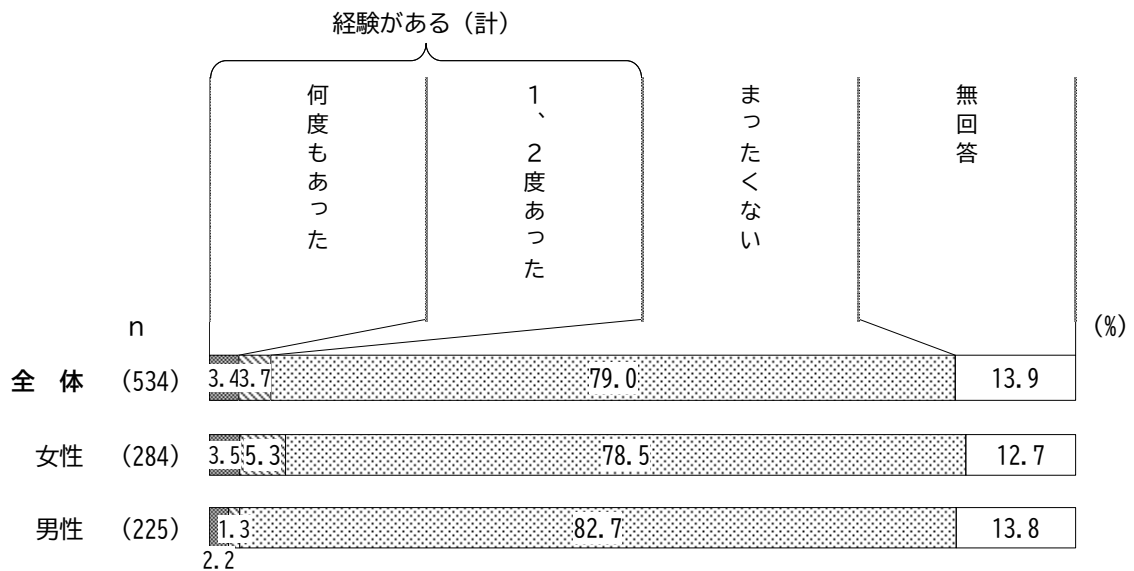
< (11) 生活費を渡されない、または制限される／性別 >

性別で見ると、《経験がある（計）》は女性（9.5%）が男性（2.2%）より7.3ポイント高くなっている。



< (12) 給料や貯金を勝手に使われる／性別 >

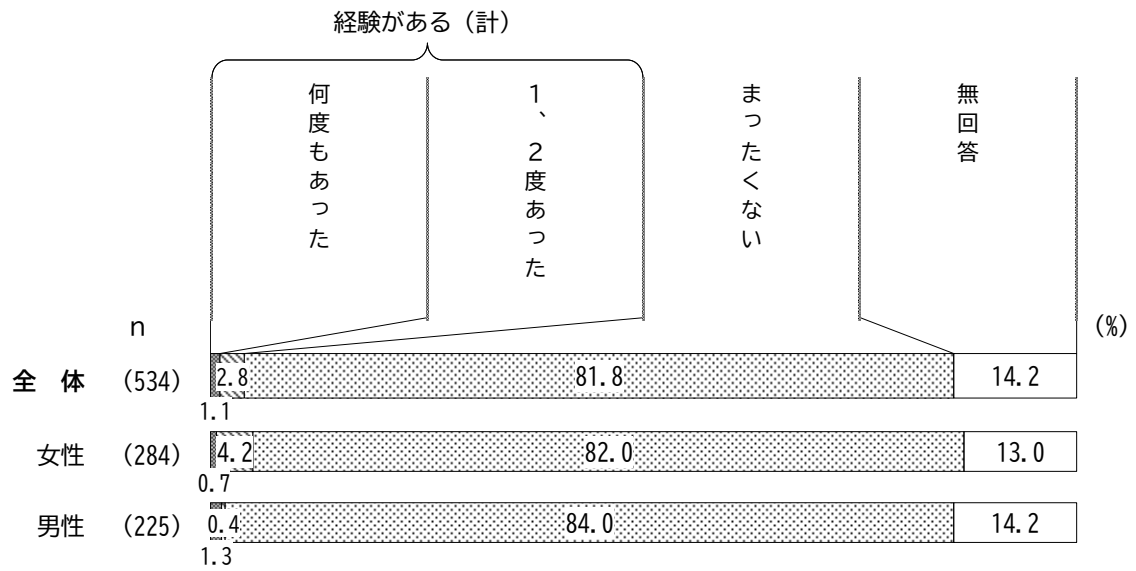
性別で見ると、《経験がある（計）》は女性（8.8%）が男性（3.5%）より5.3ポイント高くなっている。



第2章 大人向け調査結果の詳細

< (13) 外で働くことを妨害される／性別 >

性別で見ると、男女ともに「まったくない」が8割台となっており、大きな差は見られなかった。

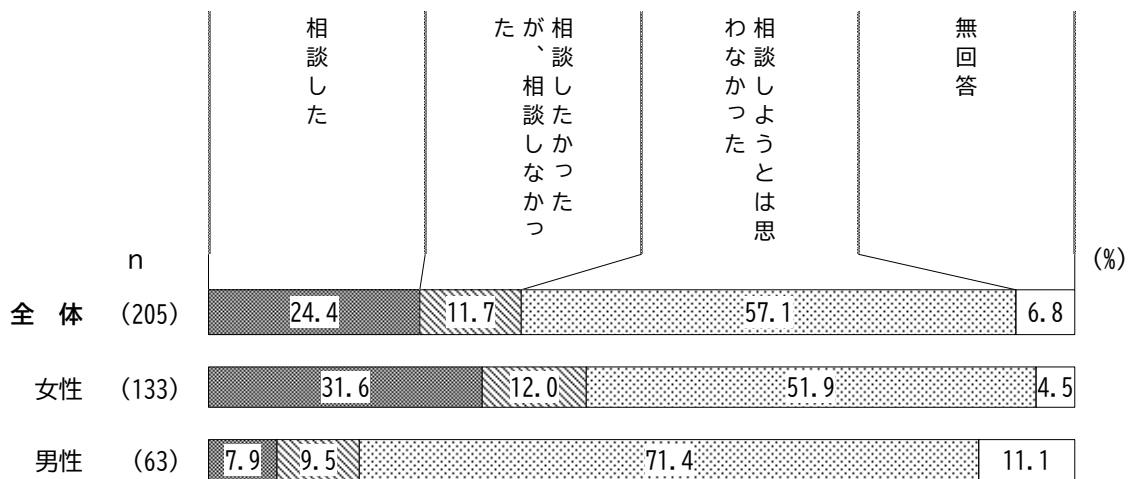


(3) 暴力を受けたときの相談の有無

問16. 【問15で「何度もあった」または「1、2度あった」と回答した方におたずねします。
 あなたはこれまでに、問15であげたような行為について、だれかに打ち明けたり、相談
 したりしましたか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

暴力を受けたときの相談の有無については、全体では、「相談しようとは思わなかった」が57.1%で最も高く、次いで、「相談した」(24.4%)、「相談したかったが、相談しなかった」(11.7%)が続いている。

性別で見ると、「相談した」は女性(31.6%)が男性(7.9%)より23.7ポイント高くなっている。一方、男女ともに「相談しようとは思わなかった」が最も高くなっているが、男性(71.4%)が女性(51.9%)より19.5ポイント高くなっている。

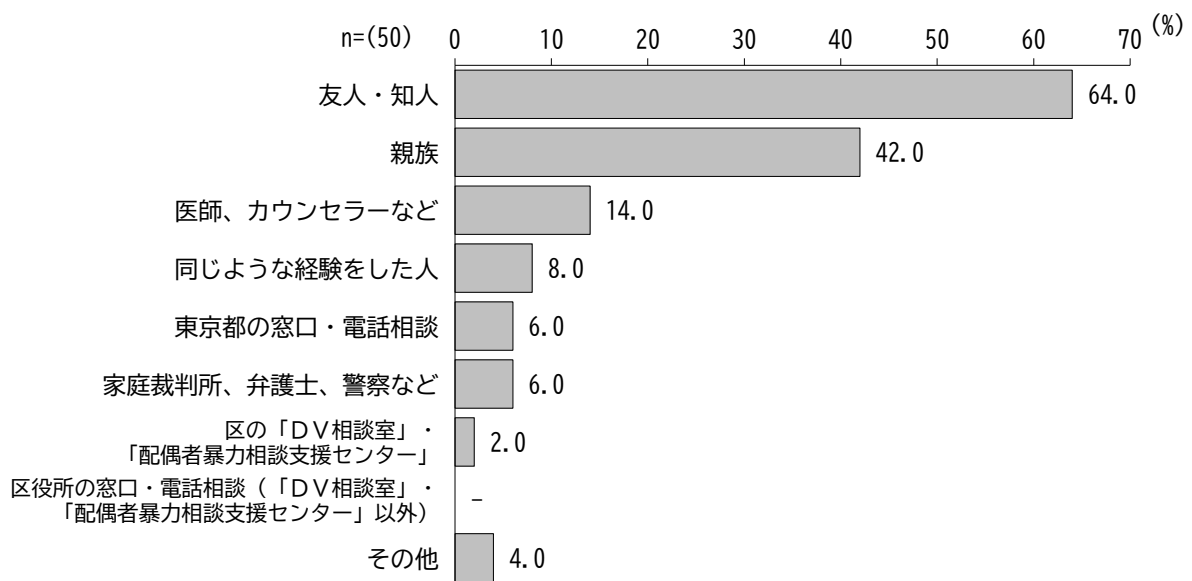


(4) 暴力を受けたときの相談相手

問16-2. 【問16で「相談した」と回答した方におたずねします。】

相談した相手はどなたですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

暴力を受けたときの相談相手については、全体では、「友人・知人」が64.0%で最も高く、次いで、「親族」(42.0%)、「医師、カウンセラーなど」(14.0%)、「同じような経験をした人」(8.0%)が続いている。

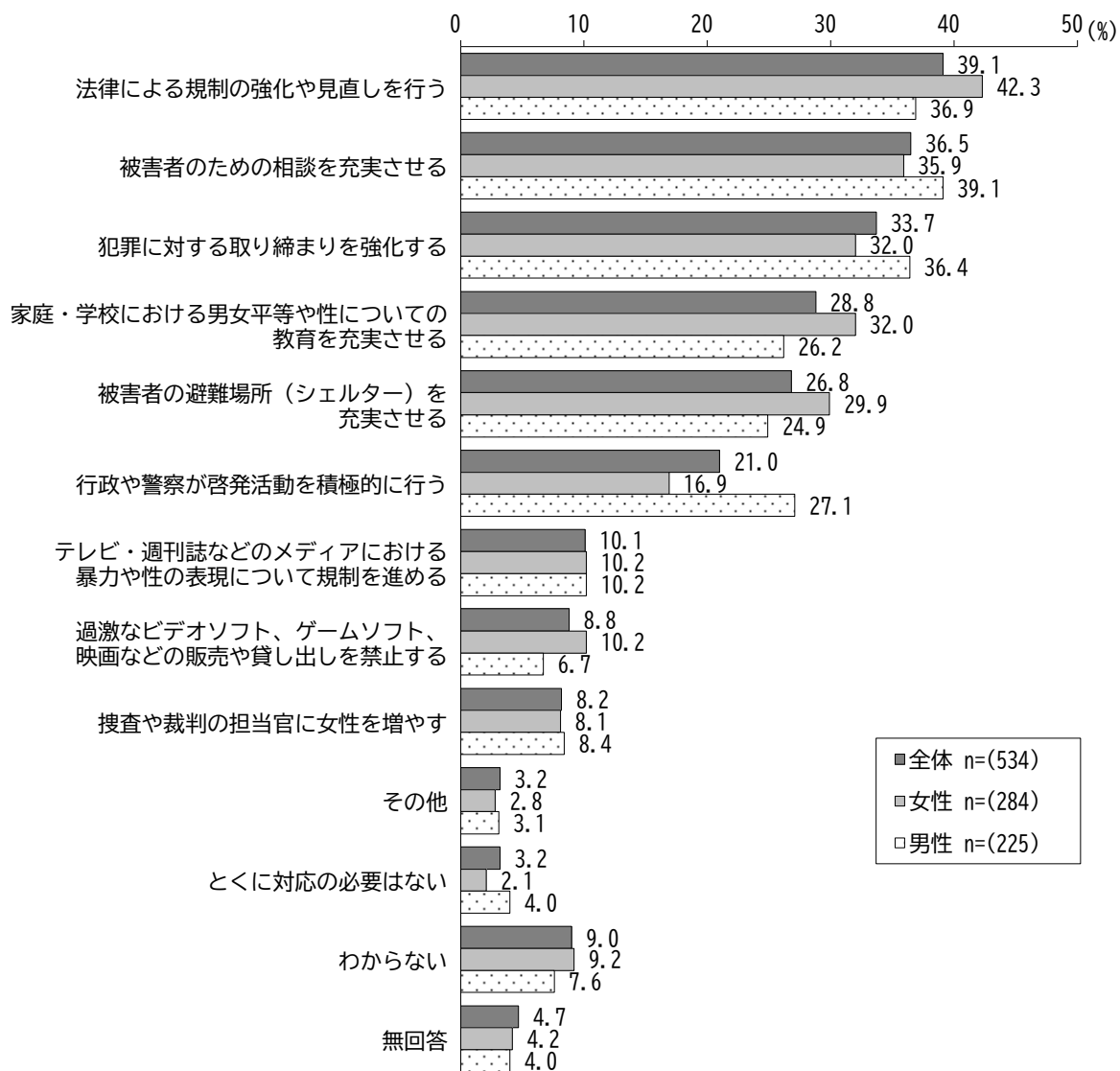


(5) 暴力をなくすために必要なこと

問17. あなたは、パートナー（夫・妻・恋人）間の暴力をなくすために、どのような対策が必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

暴力をなくすために必要なことについては、全体では、「法律による規制の強化や見直しを行う」が39.1%で最も高く、次いで、「被害者のための相談を充実させる」(36.5%)、「犯罪に対する取り締まりを強化する」(33.7%)、「家庭・学校における男女平等や性についての教育を充実させる」(28.8%)が続いている。

性別で見ると、女性では「法律による規制の強化や見直しを行う」(42.3%)、男性では「被害者のための相談を充実させる」(39.1%)が最も高くなっている。「家庭・学校における男女平等や性についての教育を充実させる」は女性(32.0%)が男性(26.2%)より5.8ポイント、「法律による規制の強化や見直しを行う」は女性(42.3%)が男性(36.9%)より5.4ポイント、「被害者の避難場所(シェルター)を充実させる」は女性(29.9%)が男性(24.9%)より5.0ポイント高くなっている。一方、「行政や警察が啓発活動を積極的に行う」は男性(27.1%)が女性(16.9%)より10.2ポイント高くなっている。



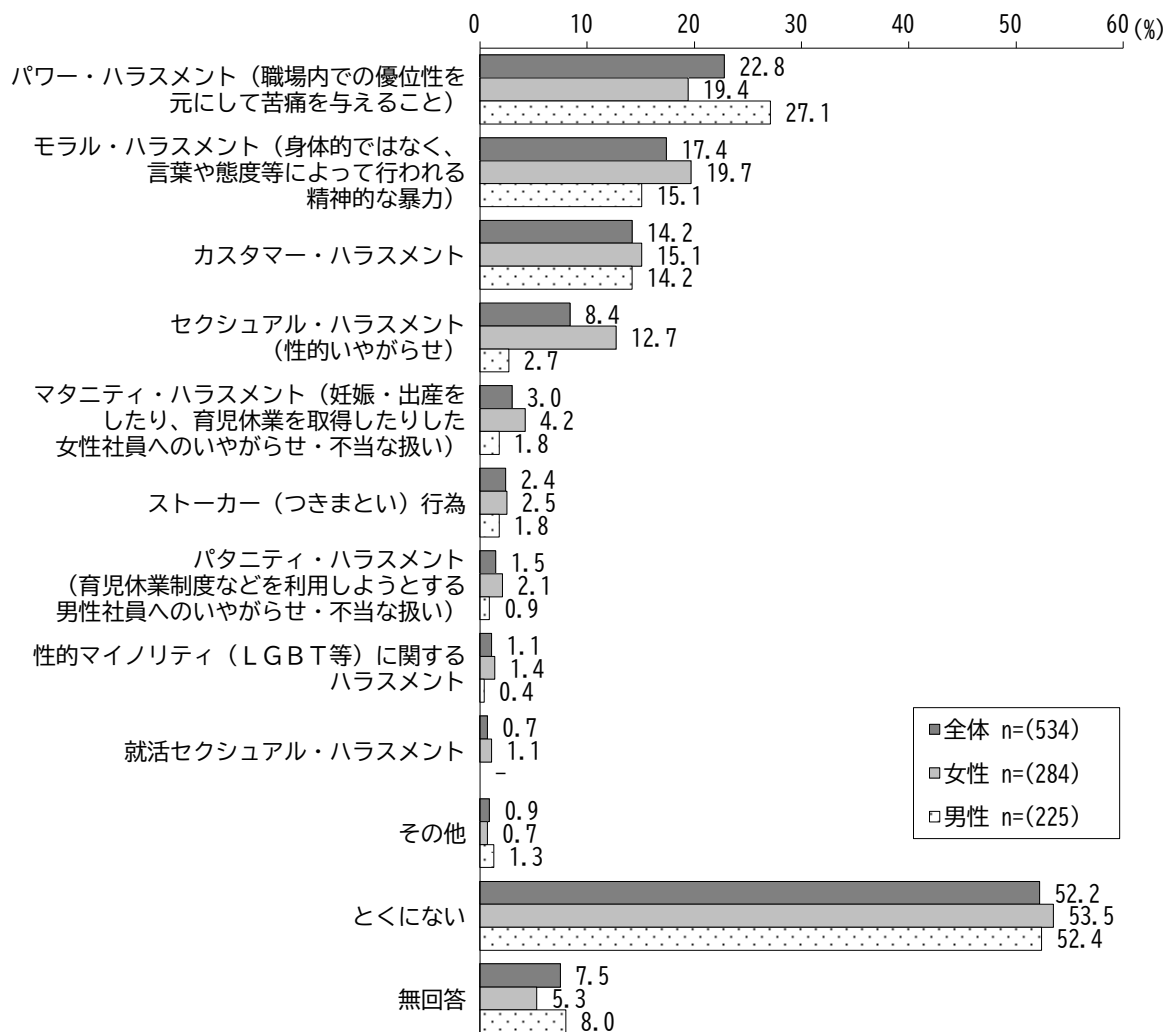
8. 職場におけるハラスメントについて

(1) 職場でハラスメントを受けた経験

問18. あなたは職場で何らかのハラスメント等を経験したことがありますか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

職場でハラスメントを受けた経験については、全体では、「パワー・ハラスメント（職場内での優位性を元にして苦痛を与えること）」が22.8%で最も高く、次いで、「モラル・ハラスメント（身体的ではなく、言葉や態度等によって行われる精神的な暴力）」（17.4%）、「カスタマー・ハラスメント」（14.2%）、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」（8.4%）が続いている。一方、「とくにない」が52.2%となっている。

性別で見ると、女性では「モラル・ハラスメント（身体的ではなく、言葉や態度等によって行われる精神的な暴力）」（19.7%）、男性では「パワー・ハラスメント（職場内での優位性を元にして苦痛を与えること）」（27.1%）が最も高くなっている。「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」は女性（12.7%）が男性（2.7%）より10.0ポイント高くなっている。一方、「パワー・ハラスメント（職場内での優位性を元にして苦痛を与えること）」は男性（27.1%）が女性（19.4%）より7.7ポイント高くなっている。



9. 社会参画

(1) 地域活動への参加状況と参加意向

問19. あなたはこの1年間に、仕事や学校以外でどのような活動に参加しましたか。また、今後、どのような活動に参加したいと思いますか。

(1)、(2)のそれぞれについて、あてはまる番号をすべて記入してください。

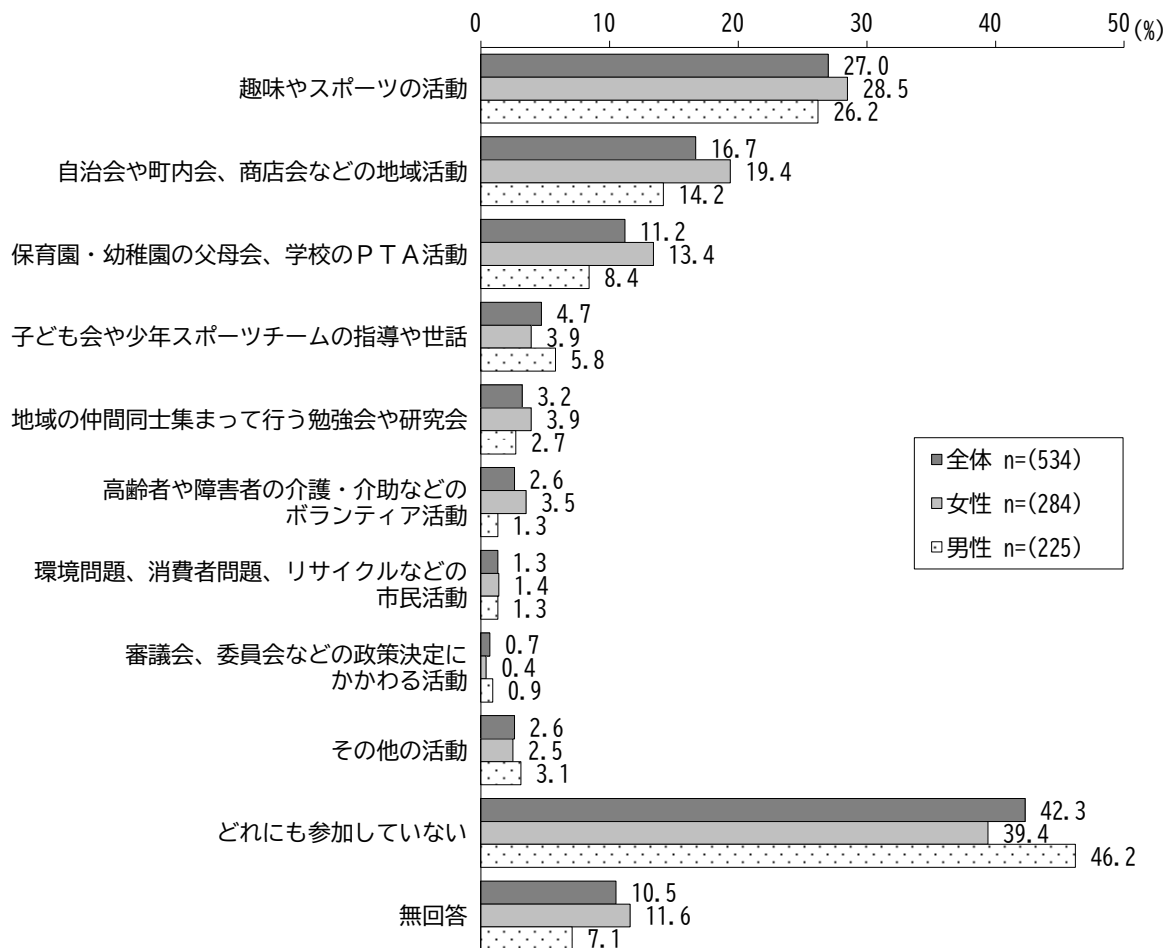
(1) この1年間に参加したことがある活動

(2) 現在参加しているものも含めて、今後参加したいと思う活動

< (1) 1年間に参加したことがある活動/性別 >

この1年間に参加したことがある活動については、全体では、「趣味やスポーツの活動」が27.0%で最も高く、次いで、「自治会や町内会、商店会などの地域活動」(16.7%)、「保育園・幼稚園の父母会、学校のPTA活動」(11.2%)が続いている。一方、「どれにも参加していない」が42.3%となっている。

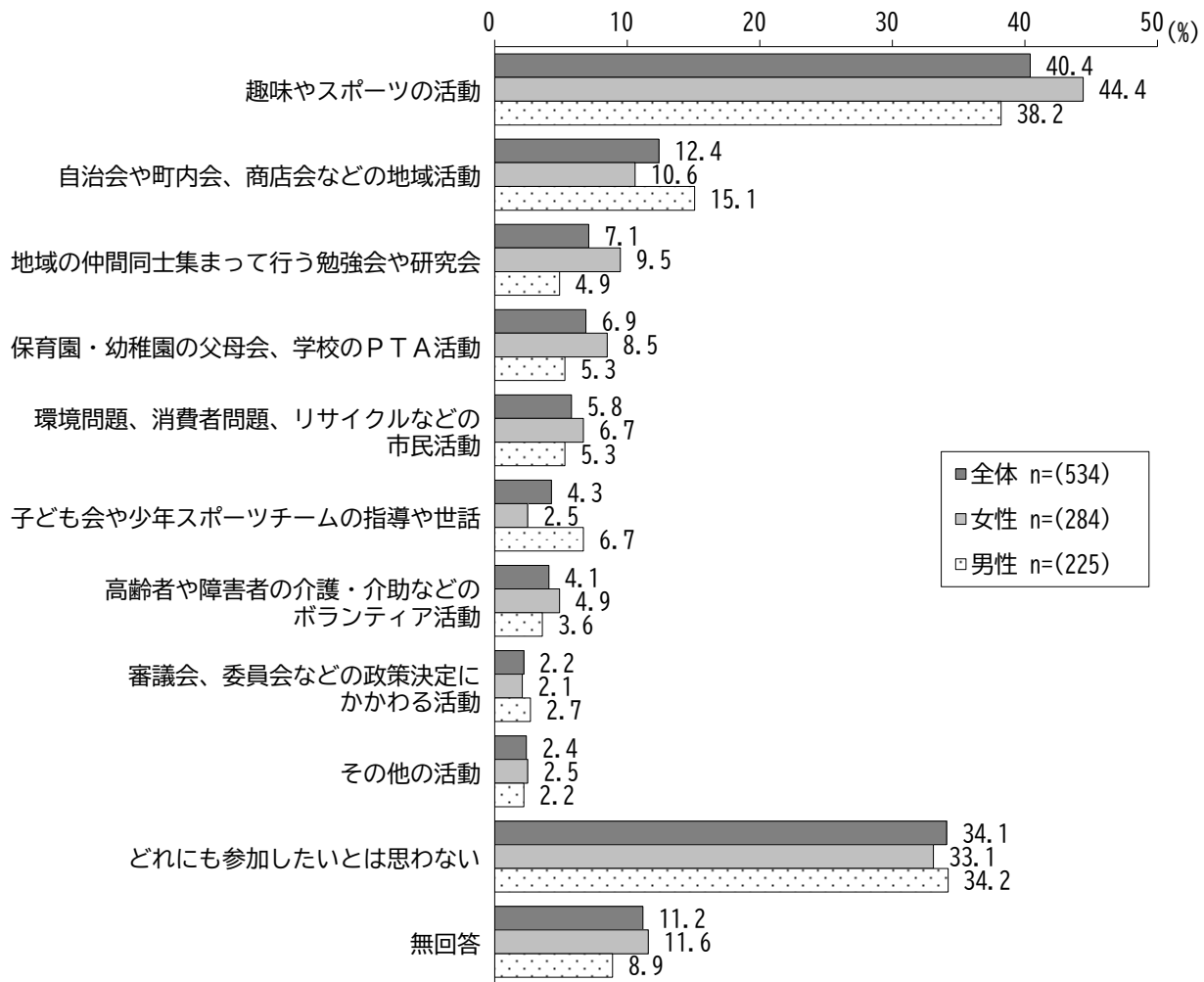
性別でみると、男女ともに「趣味やスポーツの活動」が2割台で最も高くなっている。「自治会や町内会、商店会などの地域活動」は女性(19.4%)が男性(14.2%)より5.2ポイント、「保育園・幼稚園の父母会、学校のPTA活動」は女性(13.4%)が男性(8.4%)より5.0ポイント高くなっている。一方、「どれにも参加していない」は男性(46.2%)が女性(39.4%)より6.8ポイント高くなっている。



< (2) 今後参加したいと思う活動／性別 >

現在参加しているものも含めて、今後参加したいと思う活動については、「趣味やスポーツの活動」が40.4%で最も高く、次いで、「自治会や町内会、商店会などの地域活動」(12.4%)、「地域の仲間同士集まって行う勉強会や研究会」(7.1%)、「保育園・幼稚園の父母会、学校のPTA活動」(6.9%)が続いている。一方、「どれにも参加したいとは思わない」が34.1%となっている。

性別でみると、男女ともに「趣味やスポーツの活動」が最も高くなっているが、女性(44.4%)が男性(38.2%)より6.2ポイント高くなっている。

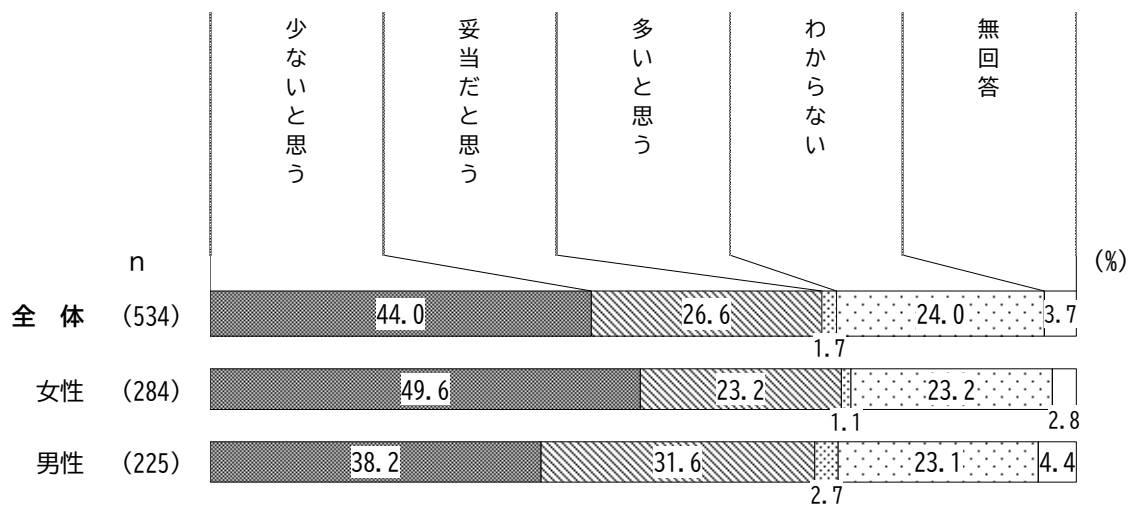


(2) 現在の女性の方針決定過程への参画についての考え方

問20. 議員や附属機関等（審議会・行政委員会等）の委員など政策や方針を決定する過程で女性の参画が少しずつ進んでいます。
 江戸川区では、女性議員は36.4%（令和6年4月1日時点）、附属機関等の女性委員は29.8%（同時点）を占めています。
 あなたは、この数字をどのように思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

現在の女性の方針決定過程への参画については、全体では、「少ないと思う」が44.0%で最も高く、次いで、「妥当だと思う」（26.6%）が続いている。一方、「わからない」が24.0%となっている。

性別で見ると、男女ともに「少ないと思う」が最も高くなっているが、女性（49.6%）が男性（38.2%）より11.4ポイント高くなっている。一方、「妥当だと思う」は男性（31.6%）が女性（23.2%）より8.4ポイント高くなっている。

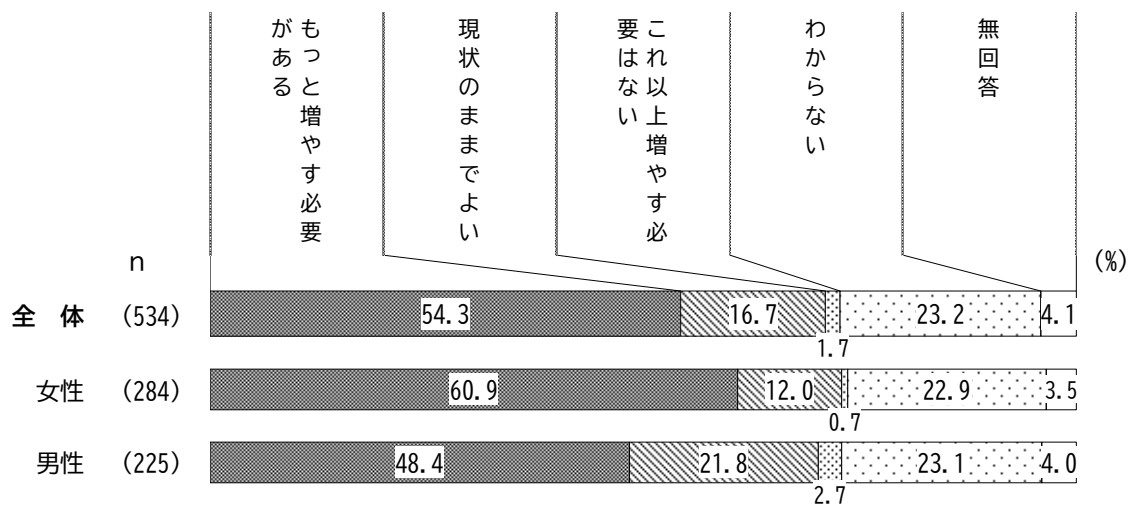


(3) 今後の女性の方針決定過程への参画についての考え方

問21. 問20の回答を踏まえて、あなたは、今後、行政や企業、社会的活動などの方針決定の場に、女性の割合をどの程度増やす必要があると思いますか。

今後の女性の方針決定過程への参画については、全体では、「もっと増やす必要がある」が54.3%で最も高く、次いで、「現状のままでよい」(16.7%)が続いている。一方、「わからない」が23.2%となっている。

性別で見ると、男女ともに「もっと増やす必要がある」が最も高くなっているが、女性(60.9%)が男性(48.4%)より12.5ポイント高くなっている。一方、「現状のままでよい」は男性(21.8%)が女性(12.0%)より9.8ポイント高くなっている。



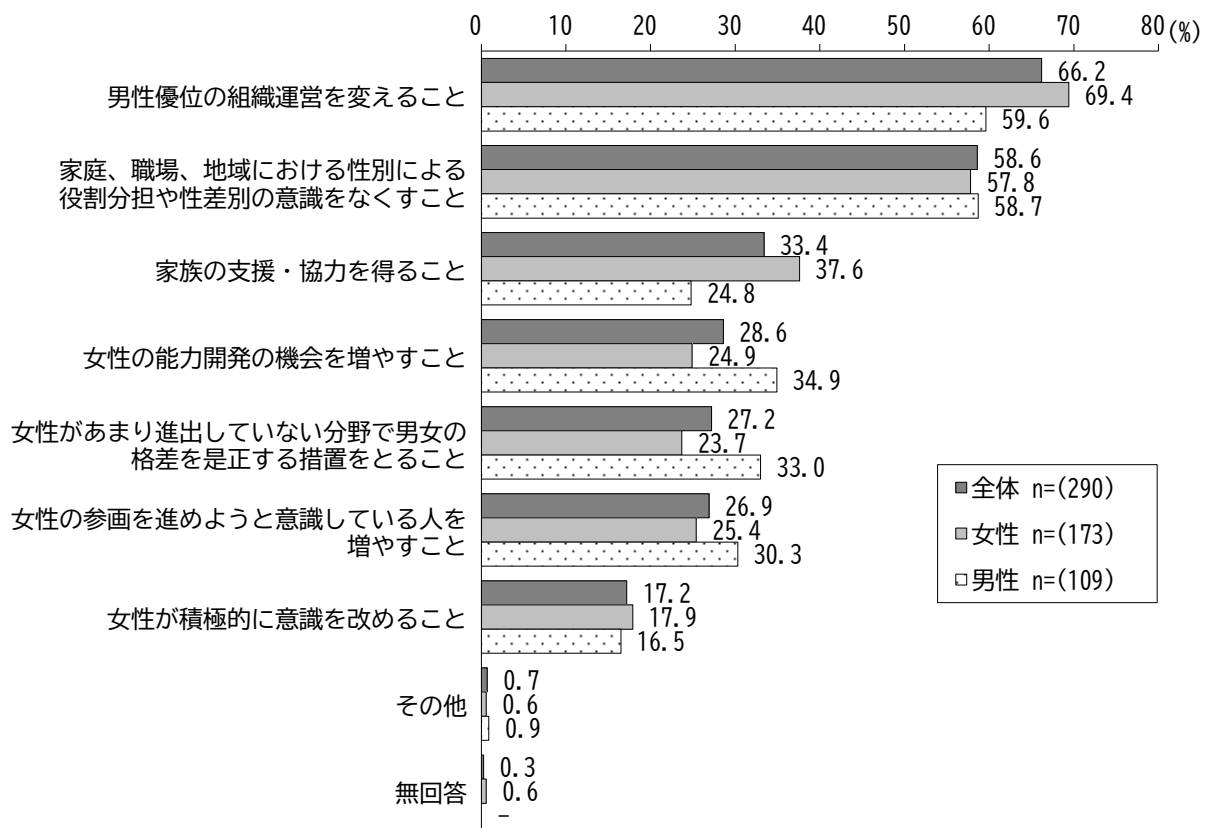
(4) 女性の社会進出に必要なこと

問21-2. 【問21で「もっと増やす必要がある」と回答した方におたずねします。】

あなたは、今後、女性がより方針決定の過程に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

女性の社会進出に必要なことについては、全体では、「男性優位の組織運営を変えること」が66.2%で最も高く、次いで、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識をなくすこと」(58.6%)、「家族の支援・協力を得ること」(33.4%)、「女性の能力開発の機会を増やすこと」(28.6%)が続いている。

性別で見ると、男女ともに「男性優位の組織運営を変えること」が最も高くなっているが、女性(69.4%)が男性(59.6%)より9.8ポイント高くなっている。また、「家族の支援・協力を得ること」は女性(37.6%)が男性(24.8%)より12.8ポイント高くなっている。一方、「女性の能力開発の機会を増やすこと」は男性(34.9%)が女性(24.9%)より10.0ポイント、「女性があまり進出していない分野で男女の格差を是正する措置をとること」は男性(33.0%)が女性(23.7%)より9.3ポイント高くなっている。



10. 性の多様性の尊重と人権について

(1) LGBT・SOGIの認知度

問22. あなたは、つぎの言葉について知っていますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

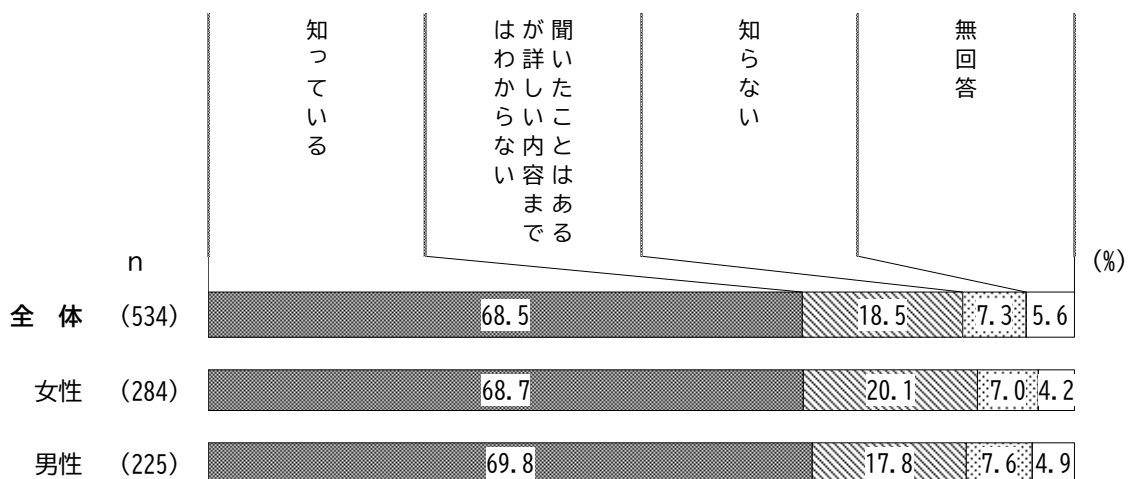
※1 LGBTとは、自分と同じ性別の人を好きになる人（レズビアン（Lesbian）・ゲイ（Gay））、同性・異性双方を好きになる人（バイセクシュアル（Bisexual））、体の性と心の性が一致しない人（トランスジェンダー（Transgender））の頭文字をつないだ言葉を意味しています。性のあり方は多様で、こうしたLGBTの枠に当てはまらない人もいます。

※2 SOGIとは、自分自身がどの性に恋愛感情を抱くのかということの意味する「性的指向」（Sexual Orientation）と自分自身がどのような性だと思っているかということの意味する「性自認（Gender Identity）の頭文字をつないだ言葉を意味しています。

< LGBT※1の認知度／性別 >

LGBTについては、全体では、「知っている」が68.5%で最も高く、次いで、「聞いたことはあるが詳しい内容まではわからない」（18.5%）、「知らない」（7.3%）が続いている。

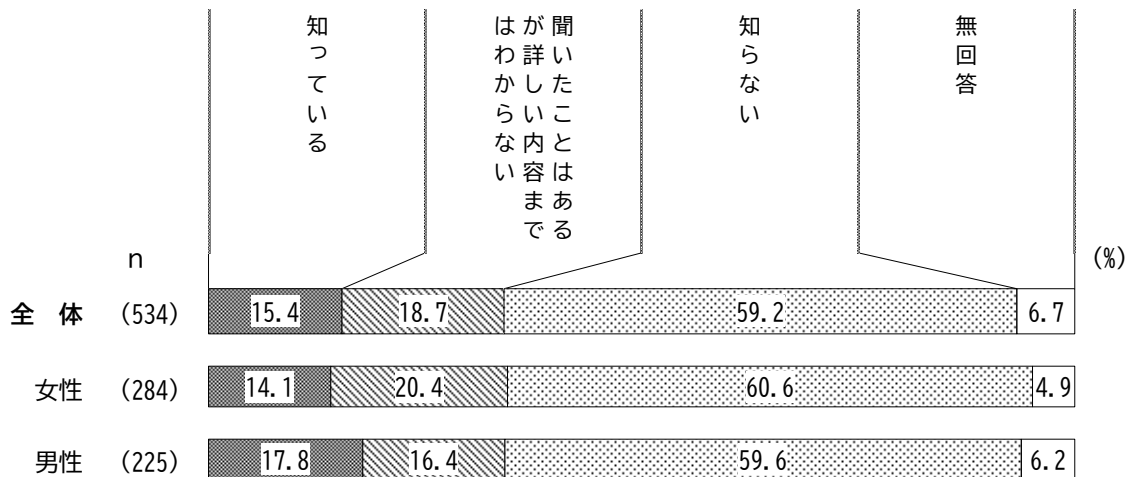
性別で見ると、男女ともに「知っている」が約7割で最も高くなっており、大きな差は見られなかった。



< SOGI ※2の認知度/性別 >

SOGIについては、全体では、「知らない」が59.2%で最も高く、次いで、「聞いたことはあるが詳しい内容まではわからない」(18.7%)、「知っている」(15.4%)が続いている。

性別で見ると、男女ともに「知らない」が約6割で最も高くなっており、大きな差は見られなかった。

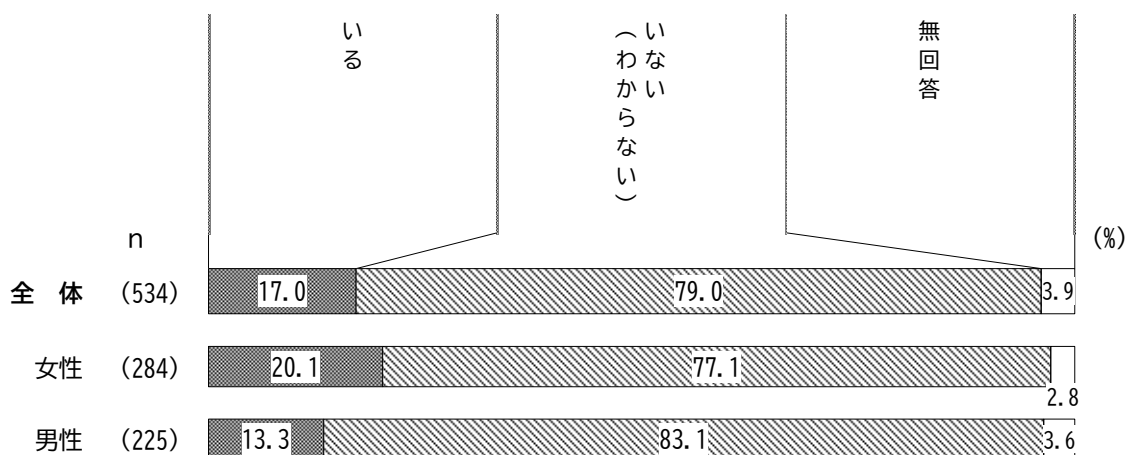


(2) 身近なLGBT等の当事者の有無

問23. あなたの身近な人にLGBT等の人はいますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

身近なLGBT等の当事者の有無については、全体では、「いない(わからない)」が79.0%、「いる」が17.0%となっている。

性別で見ると、男女ともに「いる」が最も高くなっているが、女性(20.1%)が男性(13.3%)より6.8ポイント高くなっている。



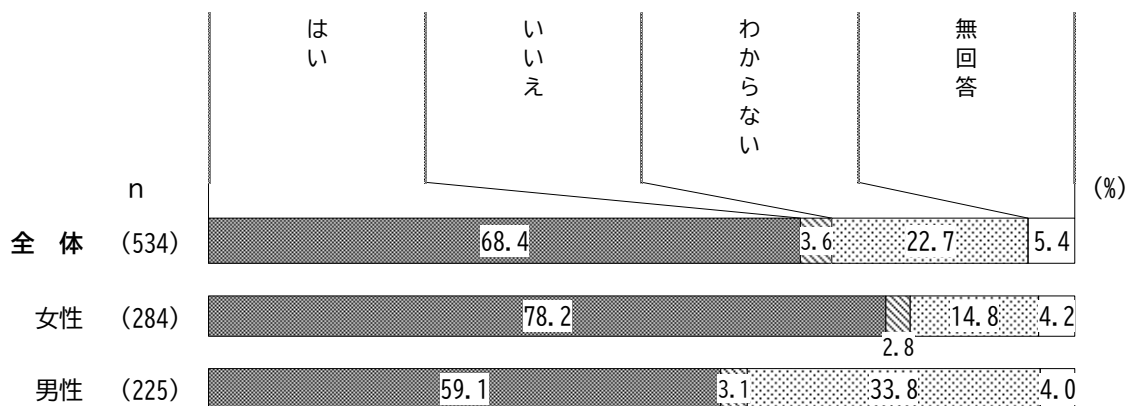
(3) L G B T等であることを打ち明けられた場合の対応

問24. 身近な人から、L G B T等であることを打ち明けられたとき、どうしますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

<理解する／性別>

L G B T等であることを打ち明けられた場合、『理解する』については、全体では、「はい」が68.4%で最も高く、「いいえ」が3.6%となっている。

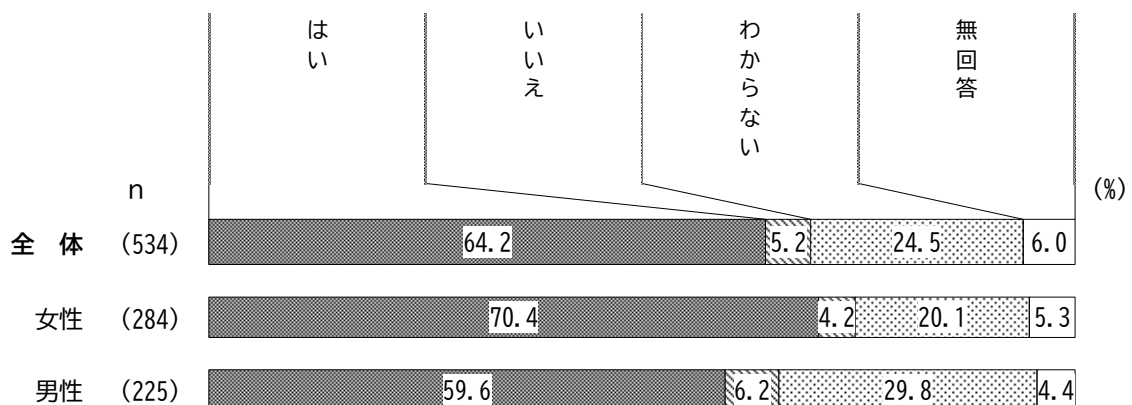
性別で見ると、男女ともに「はい」が最も高くなっているが、女性（78.2%）が男性（59.1%）より19.1ポイント高くなっている。一方、「わからない」は男性（33.8%）が女性（14.8%）より19.0ポイント高くなっている。



<悩みを聞く／性別>

L G B T等であることを打ち明けられた場合、『悩みを聞く』については、全体では、「はい」が64.2%で最も高く、「いいえ」が5.2%となっている。

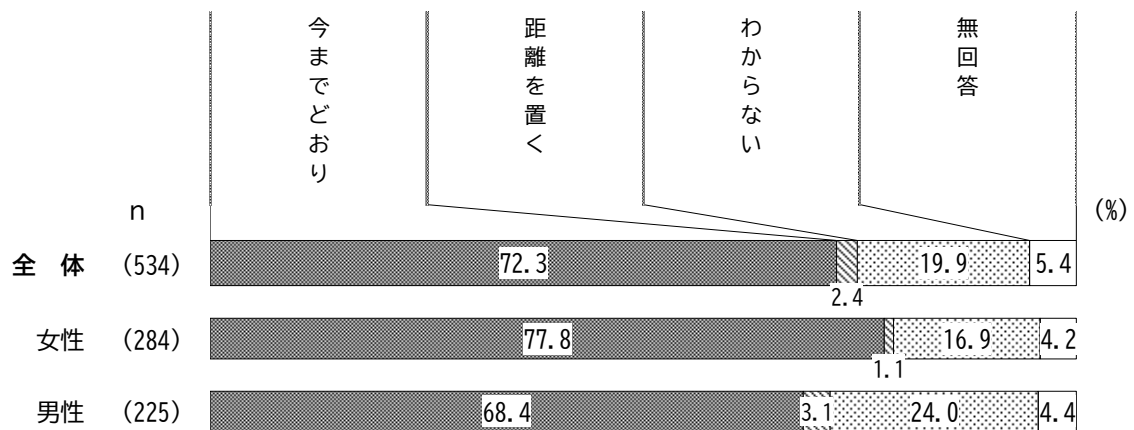
性別で見ると、男女ともに「はい」が最も高くなっているが、女性（70.4%）が男性（59.6%）より10.8ポイント高くなっている。一方、「わからない」は男性（29.8%）が女性（20.1%）より9.7ポイント高くなっている。



<相手との距離／性別>

LGBT等であることを打ち明けられた場合の『相手との距離』については、全体では、「今までどおり」が72.3%で最も高く、「距離を置く」が2.4%となっている。

性別で見ると、男女ともに「今までどおり」が最も高くなっているが、女性（77.8%）が男性（68.4%）より9.4ポイント高くなっている。一方、「わからない」は男性（24.0%）が女性（16.9%）より7.1ポイント高くなっている。



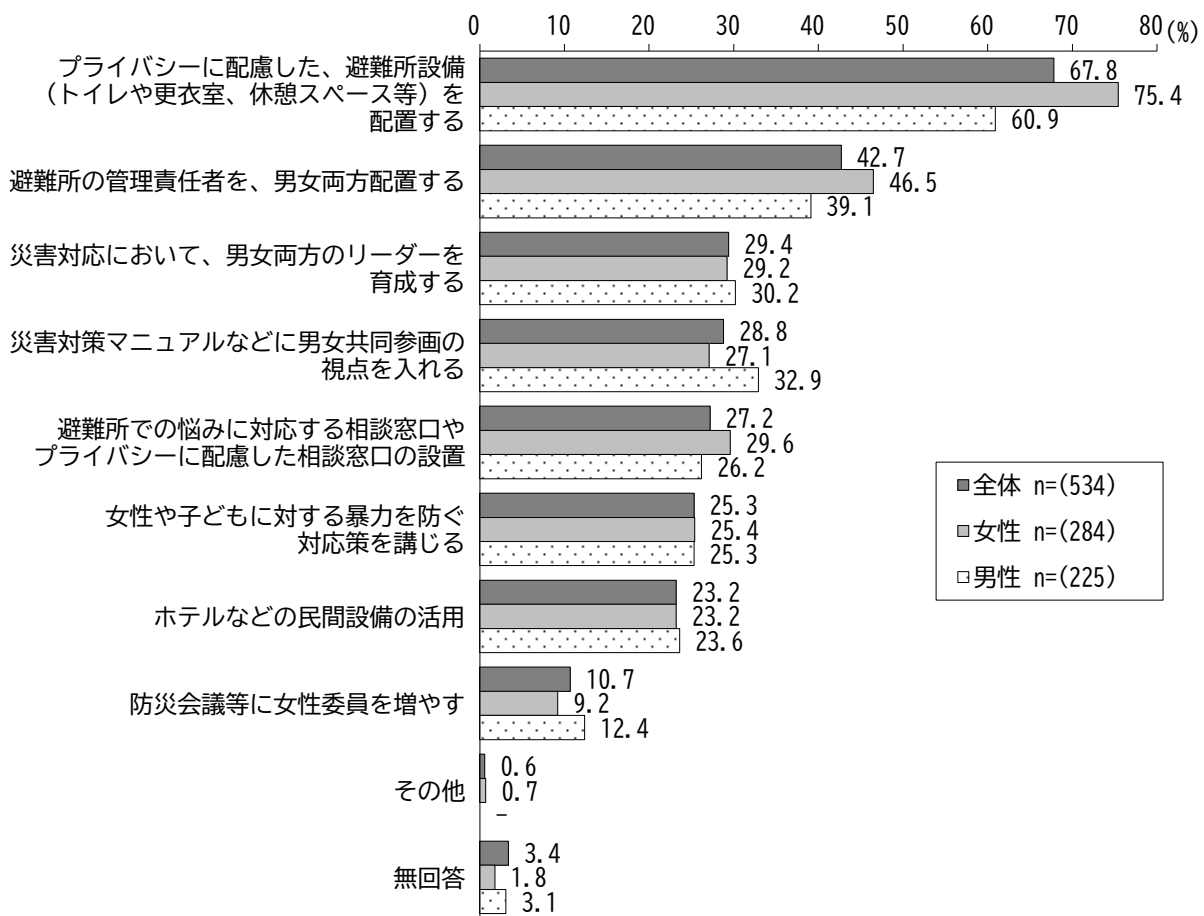
11. 防災について

(1) 防災対策や避難所の運営で重要なこと

問25. あなたは性別にとらわれない防災対策や避難所の運営について、どのようなことが特に重要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

防災対策や避難所の運営で重要なことについては、全体では、「プライバシーに配慮した、避難所設備（トイレや更衣室、休憩スペース等）を配置する」が67.8%で最も高く、次いで、「避難所の管理責任者を、男女両方配置する」（42.7%）、「災害対応において、男女両方のリーダーを育成する」（29.4%）、「災害対策マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる」（28.8%）が続いている。

性別で見ると、男女ともに「プライバシーに配慮した、避難所設備（トイレや更衣室、休憩スペース等）を配置する」が最も高くなっているが、女性（75.4%）が男性（60.9%）より14.5ポイント高くなっている。また、「避難所の管理責任者を、男女両方配置する」は女性（46.5%）が男性（39.1%）より7.4ポイント高くなっている。一方、「災害対策マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる」は男性（32.9%）が女性（27.1%）より5.8ポイント高くなっている。



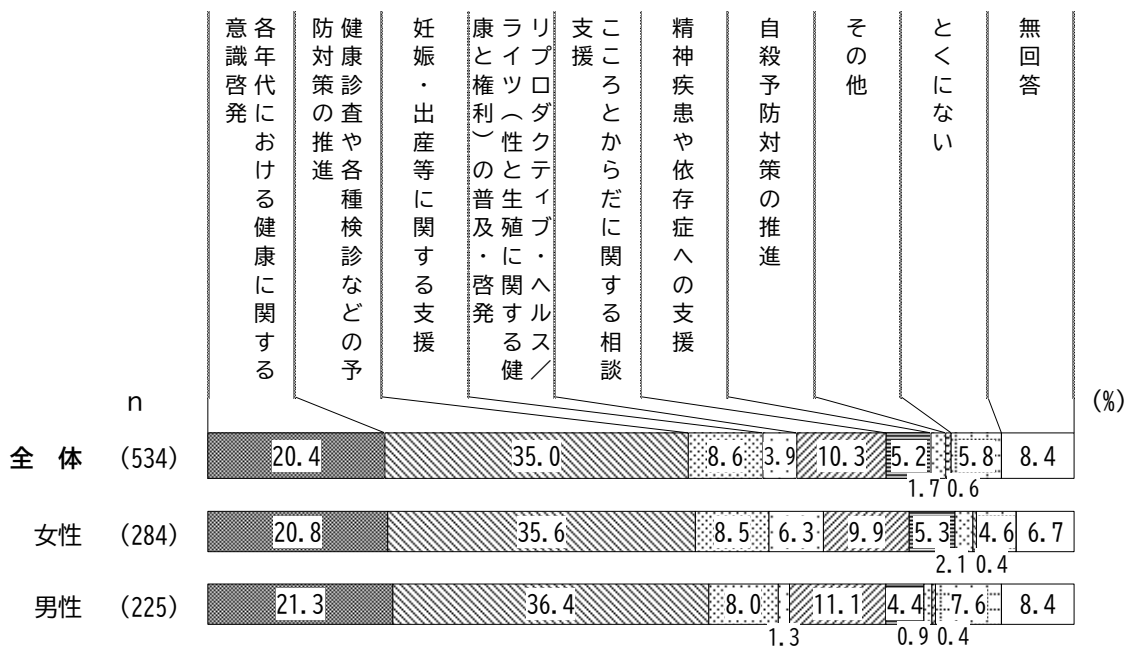
12. 生涯を通じた健康支援について

(1) 生涯を通じた健康維持のために必要な支援

問26. あなたは、誰もが生涯を通じたところとからだの健康を維持するために、どのような施策や支援が必要だと思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

生涯を通じた健康維持のために必要な支援については、全体では、「健康診査や各種検診などの予防対策の推進」が35.0%で最も高く、次いで、「各年代における健康に関する意識啓発」(20.4%)、「ところとからだに関する相談支援」(10.3%)、「妊娠・出産等に関する支援」(8.6%)が続いている。

性別で見ると、男女ともに「健康診査や各種検診などの予防対策の推進」が3割台で最も高くなっている。「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)の普及・啓発」は女性(6.3%)が男性(1.3%)より5.0ポイント高くなっている。



※リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは

- ・「性と生殖に関する健康と権利」と訳されます。
- ・平成6(1994)年にカイロで開催された「国際人口・開発会議」において提唱された概念で、生涯を通じて、自らのからだについて自己決定を行い、健康を享受する権利をいいます。
- ・男女がともに持つ権利ですが、とりわけ女性の重要な人権とされており、いつ何人の子どもを産むか産まないかを自ら判断し決定する自由・権利、安全で満足のいく性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなどが中心課題とされています。
- ・思春期や更年期における健康上の問題、不妊、性感染症の予防など、妊娠・出産に限定されない、生涯を通じてのからだの問題が広く議論の対象とされています。

13. 困難な問題を抱える女性への支援策について

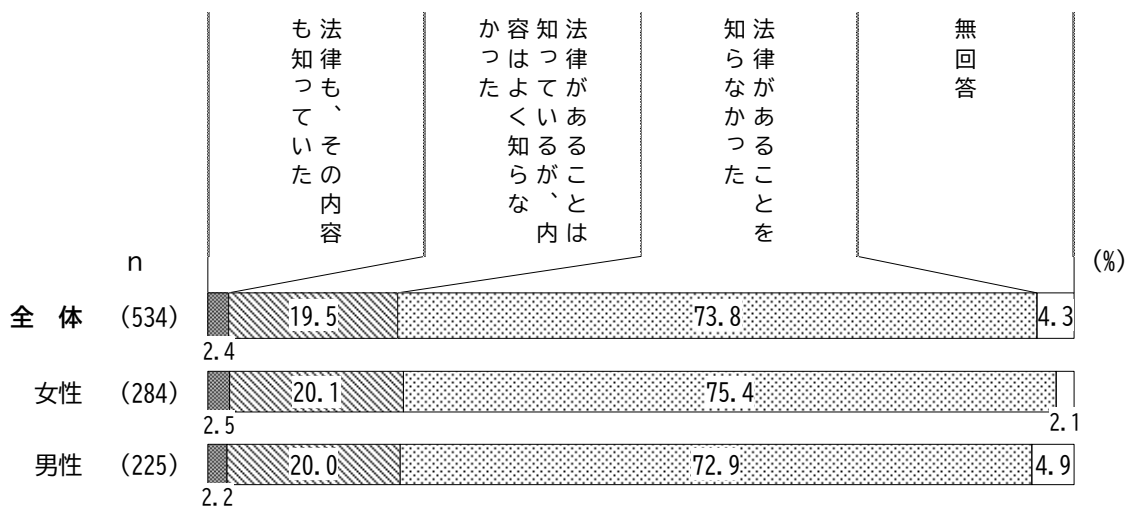
(1) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の認知度

令和6年4月1日に、性的な被害や、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活、社会生活を円滑に営むことが困難な女性の福祉の増進を図ることを目的として、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」※が施行されました。

問27. あなたは、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」をご存知でしたか。
あてはまる番号に1つ○をつけてください。

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の認知度については、全体では、「法律があることを知らなかった」が73.8%で最も高く、次いで、「法律があることは知っているが、内容はよく知らなかった」(19.5%)、「法律も、その内容も知っていた」(2.4%)が続いている。

性別で見ると、男女ともに「法律があることを知らなかった」が7割台で最も高くなっており、大きな差は見られなかった。



※「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」とは

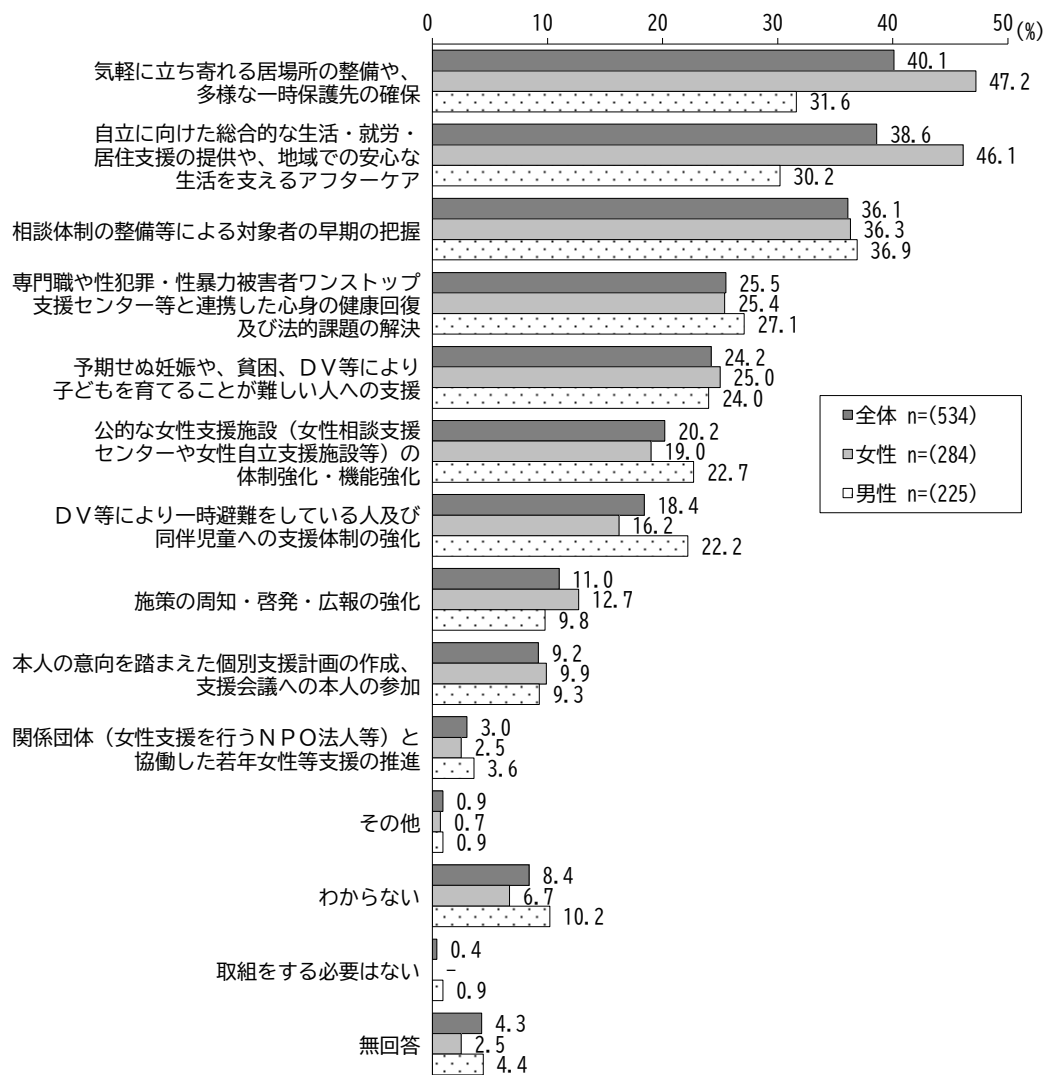
- ・女性が日常生活又は社会生活を営むに当たり女性であることにより様々な困難な問題に直面することが多いことに鑑み、困難な問題を抱える女性の福祉の増進を図るため、困難な問題を抱える女性への支援に関する必要な事項を定めることにより、困難な問題を抱える女性への支援のための施策を推進し、もって人権が尊重され、及び女性が安心して、かつ、自立して暮らせる社会の実現に寄与することを目的とするものです。
- ・この法律上の「困難な問題を抱える女性」とは、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性（そのおそれのある女性を含む。）をいいます。

(2) 困難な問題を抱える女性を支援するために必要な取組

問28. あなたは、性的な被害や、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活、社会生活を円滑に営むことが困難な女性を支援するために、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

困難な問題を抱える女性を支援するために必要な取組については、全体では、「気軽に立ち寄れる居場所の整備や、多様な一時保護先の確保」が40.1%で最も高く、次いで、「自立に向けた総合的な生活・就労・居住支援の提供や、地域での安心な生活を支えるアフターケア」(38.6%)、「相談体制の整備等による対象者の早期の把握」(36.1%)が続いている。

性別でみると、女性では「気軽に立ち寄れる居場所の整備や、多様な一時保護先の確保」(47.2%)、男性では「相談体制の整備等による対象者の早期の把握」(36.9%)が最も高くなっている。「自立に向けた総合的な生活・就労・居住支援の提供や、地域での安心な生活を支えるアフターケア」は女性(46.1%)が男性(30.2%)より15.9ポイント、「気軽に立ち寄れる居場所の整備や、多様な一時保護先の確保」は女性(47.2%)が男性(31.6%)より15.6ポイント高くなっている。一方、「DV等により一時避難をしている人及び同伴児童への支援体制の強化」は男性(22.2%)が女性(16.2%)より6.0ポイント高くなっている。



第3章 子ども向け調査結果の詳細

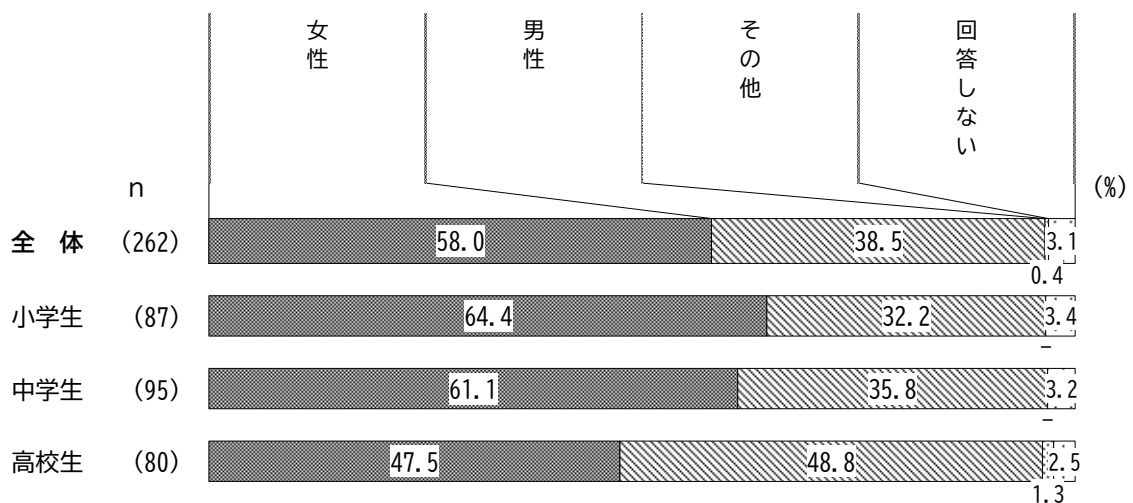
基本属性

(1) 性別

F 1. あなたの性別について、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

性別については、「女性」が58.0%、「男性」が38.5%となっている。

年代別にみると、「女性」が小学生で64.4%、中学生で61.1%と男性を大きく上回っている。高校生は男女が同程度となっている。

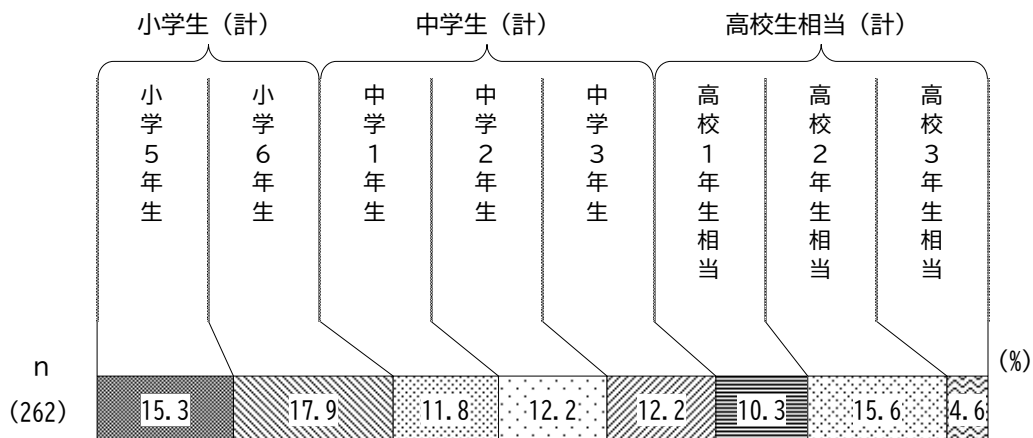


(2) 年代

F 2. あなたの学年はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

年齢については、「小学6年生」が17.9%で最も高く、次いで、「高校2年生相当」(15.6%)、「小学5年生」(15.3%)、「中学2年生」と「中学3年生」(ともに12.2%)が続いている。

また、「小学生(計)」が33.2%、「中学生(計)」が36.2%、「高校生相当(計)」が30.5%となっている。



1. 固定的性別役割分担意識について

(1) 固定的性別役割分担意識についての考え方

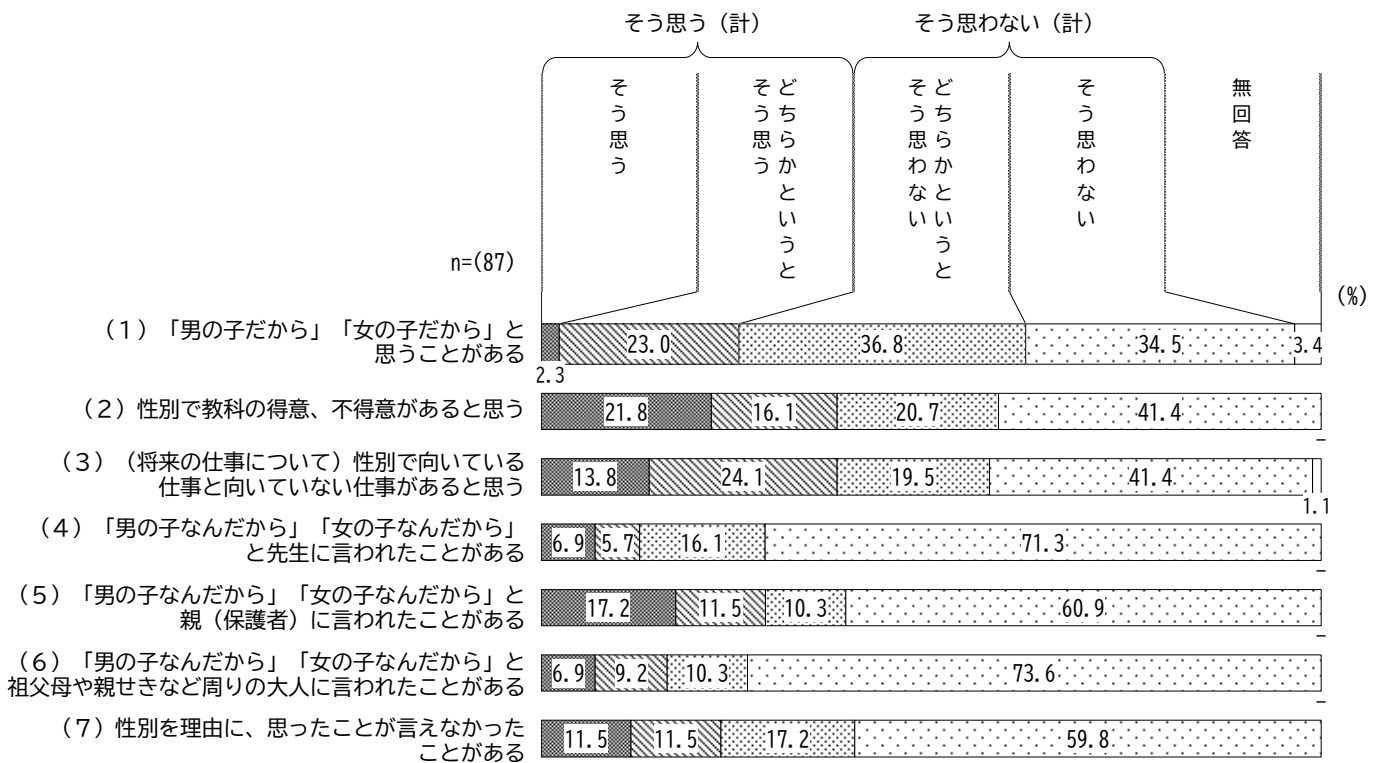
問1. 全ての方におたずねします。

(1) から (7) のそれぞれについて、あてはまる番号(ばんごう)に1つずつ○をつけてください。

固定的性別役割分担意識についての考え方の賛否を7項目においてたずねた。

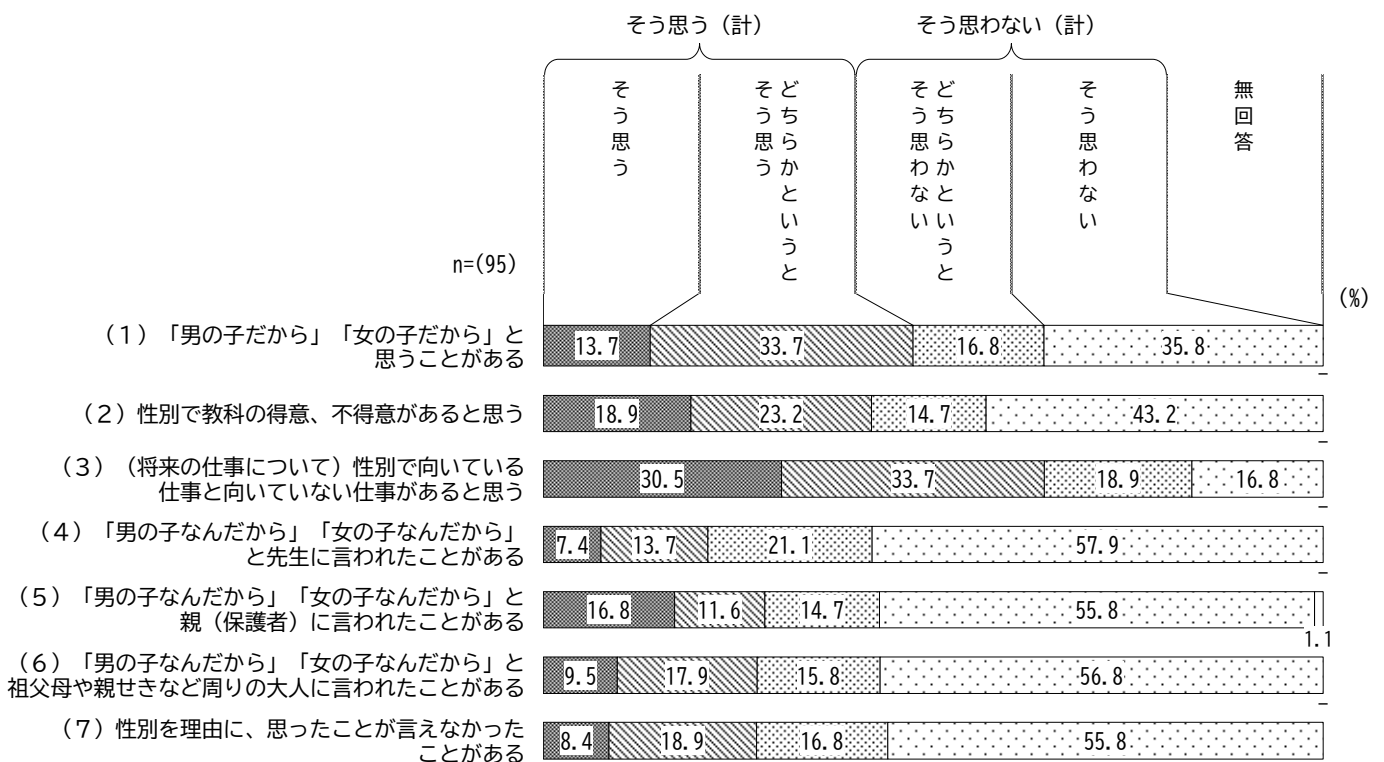
【小学生/全体】

小学生では《そう思う(計)》の割合が『(2)性別で教科の得意、不得意があると思う』と『(3)(将来の仕事について)性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う』で37.9%と7項目中最も高くなっている。一方、《そう思わない(計)》の割合は、いずれの項目も6割を超えており、『(4)「男の子なんだから」「女の子なんだから」と先生に言われたことがある』で87.4%、『(6)「男の子なんだから」「女の子なんだから」と祖父母や親せきなど周りの大人に言われたことがある』で83.9%、『(7)性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある』で77.0%と高くなっている。



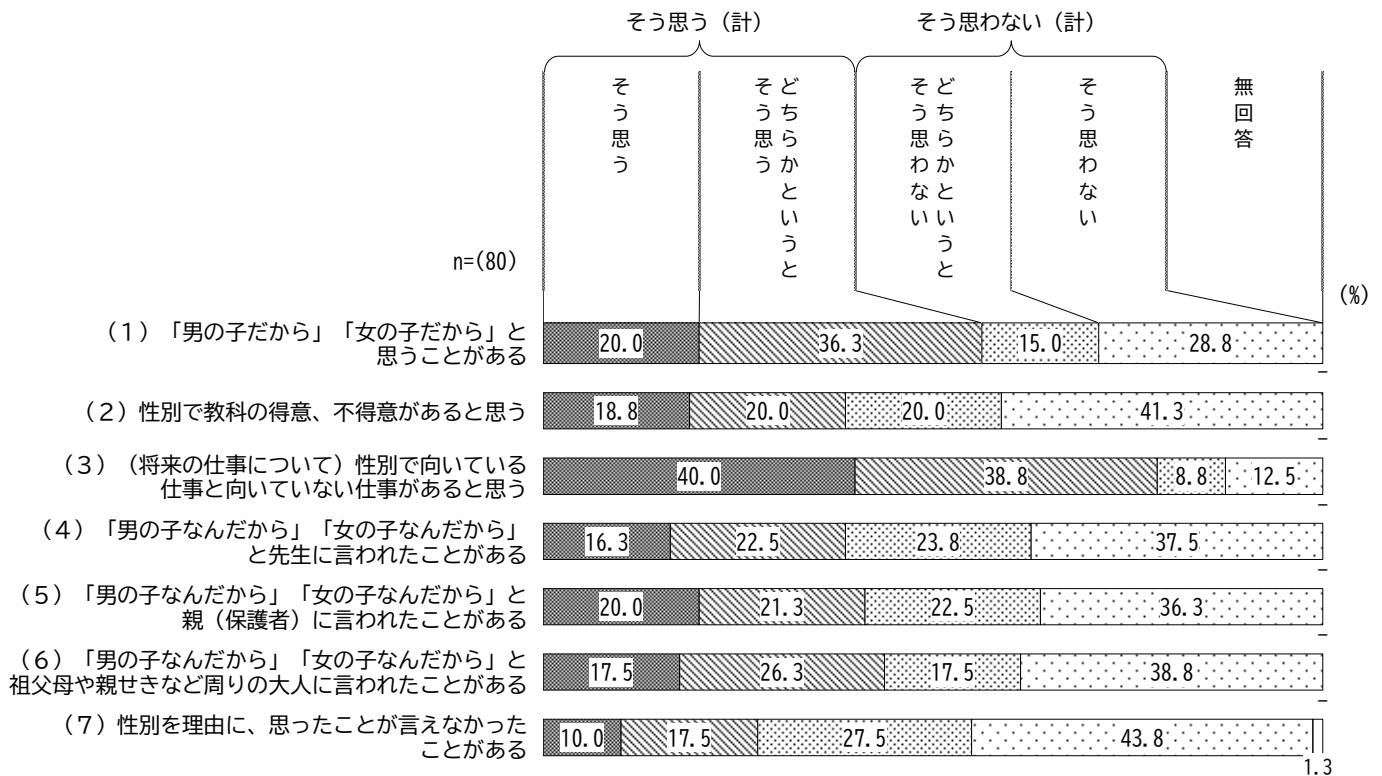
【中学生／全体】

中学生では《そう思う（計）》の割合が『(3) (将来の仕事について) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う』で78.8%と7項目中最も高くなっている。一方、それ以外の項目では《そう思わない（計）》の割合は半数を超えており、『(4) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と先生に言われたことがある』で79.0%、『(6) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と祖父母や親せきなど周りの大人に言われたことがある』と『(7) 性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある』でともに72.6%、『(5) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と親（保護者）に言われたことがある』で70.5%と高くなっている。



【高校生／全体】

高校生では《そう思う（計）》の割合が『(3) (将来の仕事について) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う』で78.8%と中学生同様に高く、『(1) 「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある』でも56.3%と半数を超えている。一方、それ以外の項目では《そう思わない（計）》の割合は半数を超えており、『(7) 性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある』で71.3%、『(2) 性別で教科の得意、不得意があると思う』と『(4) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と先生に言われたことがある』でともに61.3%と高くなっている。



2. 性別による違いへの考え方について（中学生以上）

（1）性別による得意科目の違いについての考え方

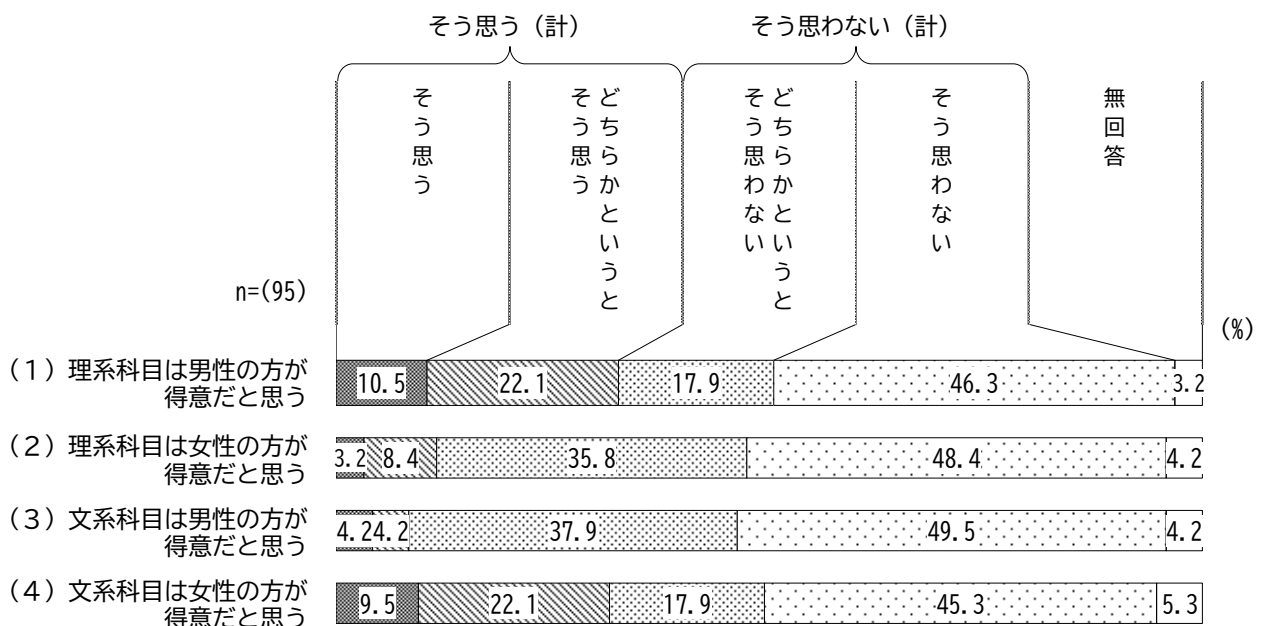
問2.（1）から（4）のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

ここでは、理系科目：「数学・理科」、文系科目：「国語・社会」とします。

性別による得意科目の違いについての考え方の賛否を4項目においてたずねた。

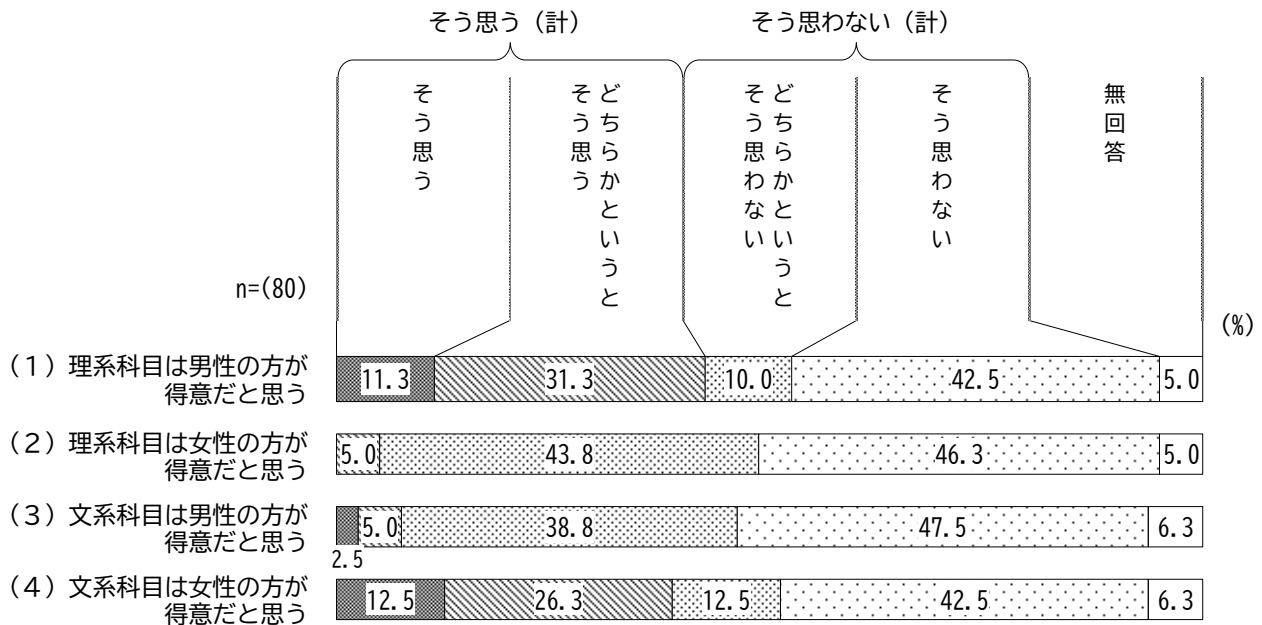
【中学生／全体】

中学生では《そう思わない（計）》の割合がいずれの項目でも半数を超えており、特に『（2）理系科目は女性の方が得意だと思う』（84.2%）と『（3）文系科目は男性の方が得意だと思う』（87.4%）で8割台となっている。一方、《そう思う（計）》の割合は、『（1）理系科目は男性の方が得意だと思う』（32.6%）と『（4）文系科目は女性の方が得意だと思う』（31.6%）で3割台とやや高くなっている。



【高校生／全体】

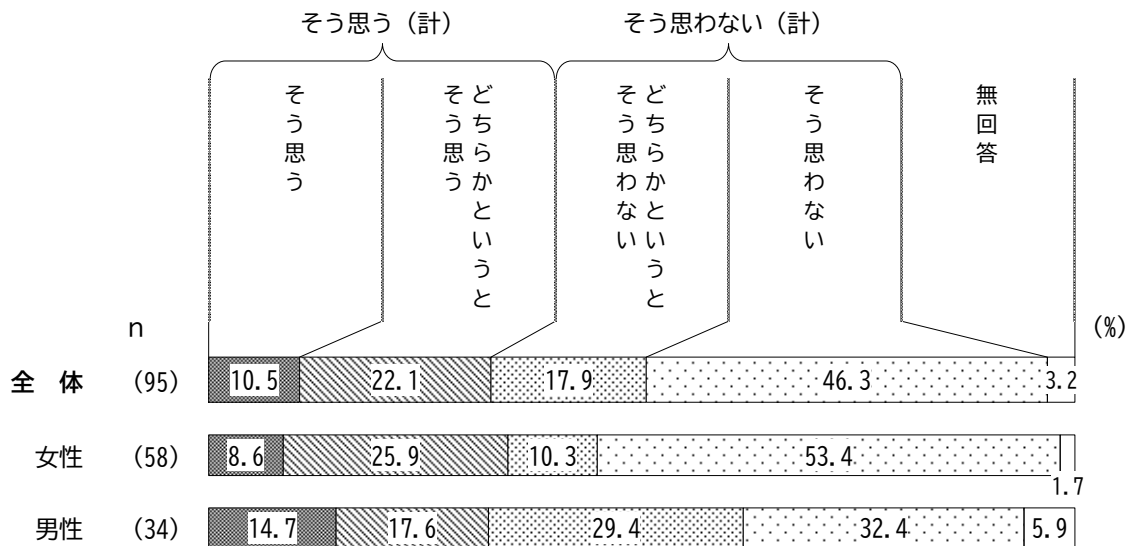
高校生でも《そう思わない（計）》の割合がいずれの項目でも半数を超えており、特に『(2) 理系科目は女性の方が得意だと思う』(90.1%)と『(3) 文系科目は男性の方が得意だと思う』(86.3%)で9割前後となっている。一方、《そう思う（計）》の割合は、『(1) 理系科目は男性の方が得意だと思う』で42.6%、『(4) 文系科目は女性の方が得意だと思う』で38.8%と中学生よりも上回っている。



< (1) 理系科目は男性の方が得意だと思う／性別 >

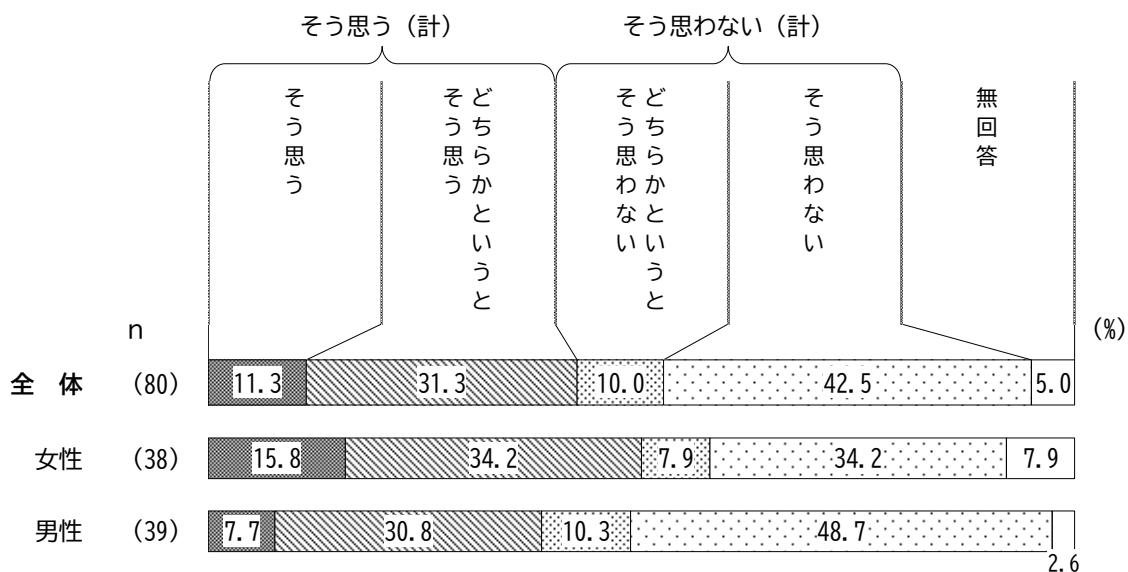
【中学生】

性別で見ると、男女ともに「そう思わない」が最も高くなっているが、女性（53.4%）が男性（32.4%）より21.0ポイント高くなっている。また、「どちらかというと思う」は女性（25.9%）が男性（17.6%）より8.3ポイント高くなっている。



【高校生】

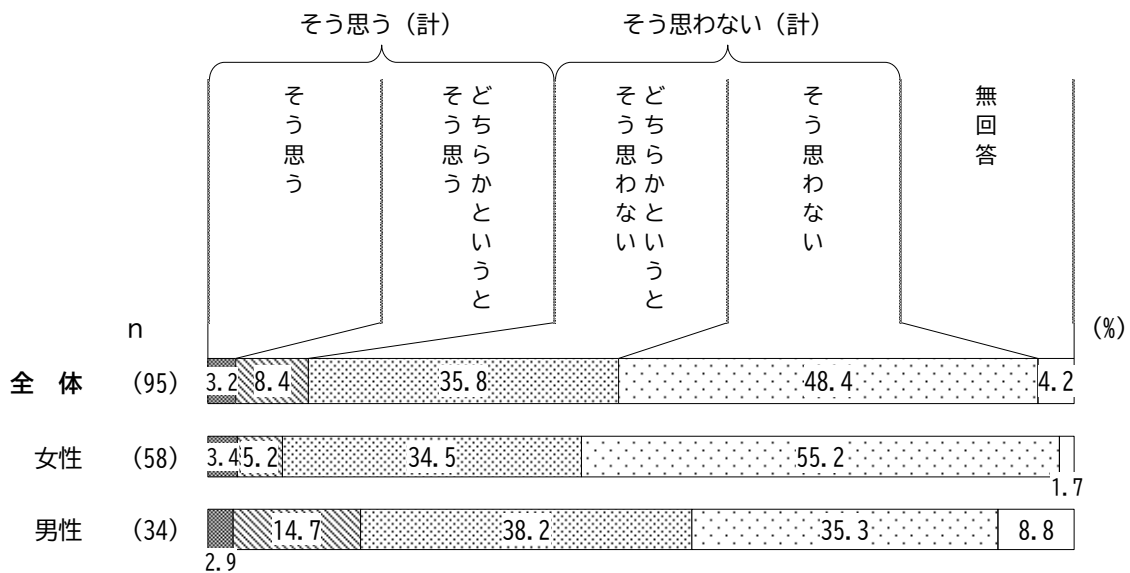
性別で見ると、女性では「どちらかというと思う」と「そう思わない」が34.2%で最も高く、男性では「そう思わない」(48.7%)が最も高くなっている。男性では《そう思う(計)》は女性(50.0%)が男性(38.5%)より11.5ポイント高くなっている。一方、《そう思わない(計)》は男性(59.0%)が女性(42.1%)より16.9ポイント高くなっている。



< (2) 理系科目は女性の方が得意だと思う／性別 >

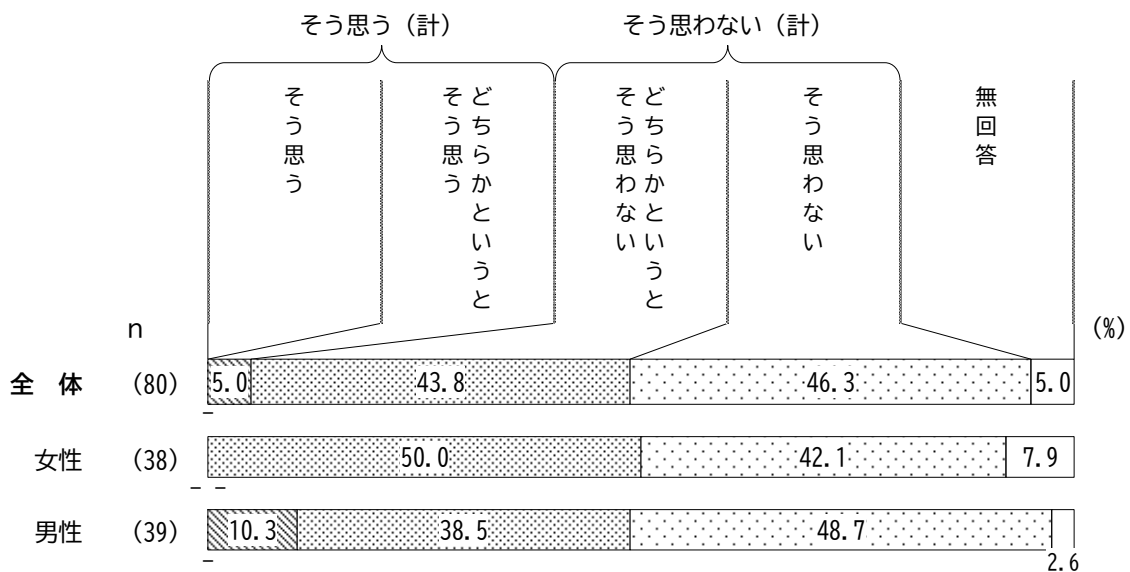
【中学生】

性別で見ると、女性では「そう思わない」(55.2%)、男性では「どちらかというと思わない」(38.2%)が最も高くなっている。《そう思わない(計)》は女性(89.7%)が男性(73.5%)より16.2ポイント高くなっている。一方、《そう思う(計)》は男性(17.6%)が女性(8.6%)より9.0ポイント高くなっている。



【高校生】

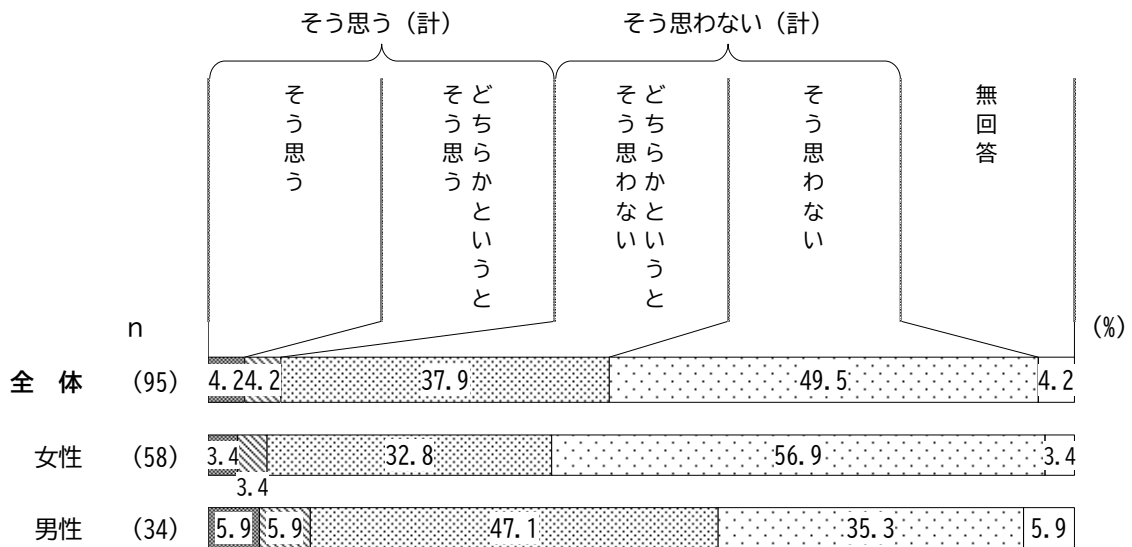
性別で見ると、女性では「どちらかというと思わない」(50.0%)、男性では「そう思わない」(48.7%)が最も高くなっている。「どちらかというと思わない」は女性(50.0%)が男性(38.5%)より11.5ポイント高くなっている。一方、「どちらかというと思おう」は男性で10.3%だったが、女性で回答は見られなかった。



< (3) 文系科目は男性の方が得意だと思う／性別 >

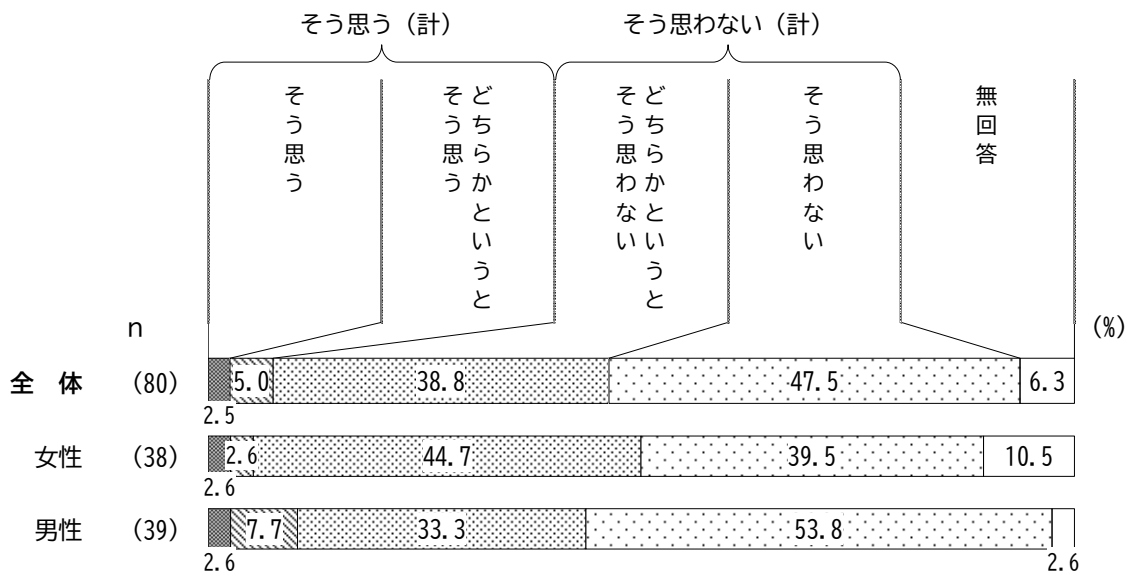
【中学生】

性別で見ると、女性では「そう思わない」(56.9%)、男性では「どちらかというと思わない」(47.1%)が最も高くなっている。《そう思わない(計)》は女性(89.7%)が男性(82.4%)より7.3ポイント高くなっている。一方、「どちらかというと思わない」は男性(47.1%)が女性(32.8%)より14.3ポイント高くなっている。



【高校生】

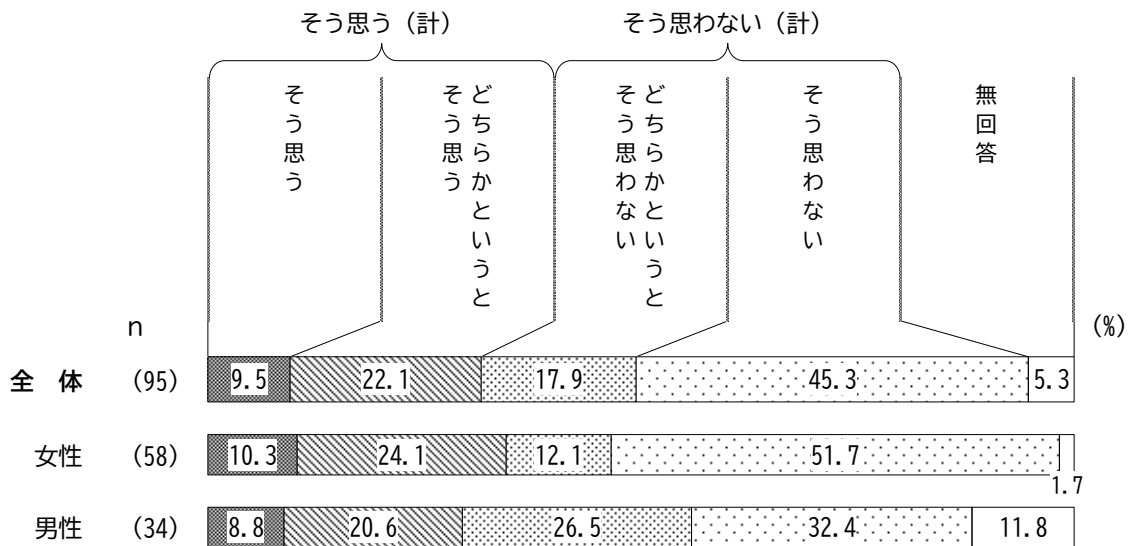
性別で見ると、女性では「どちらかというと思わない」(44.7%)、男性では「そう思わない」(53.8%)が最も高くなっている。「どちらかというと思わない」は女性(44.7%)が男性(33.3%)より11.4ポイント高くなっている。一方、「そう思わない」は男性(53.8%)が女性(39.5%)より14.3ポイント高くなっている。



< (4) 文系科目は女性の方が得意だと思う／性別 >

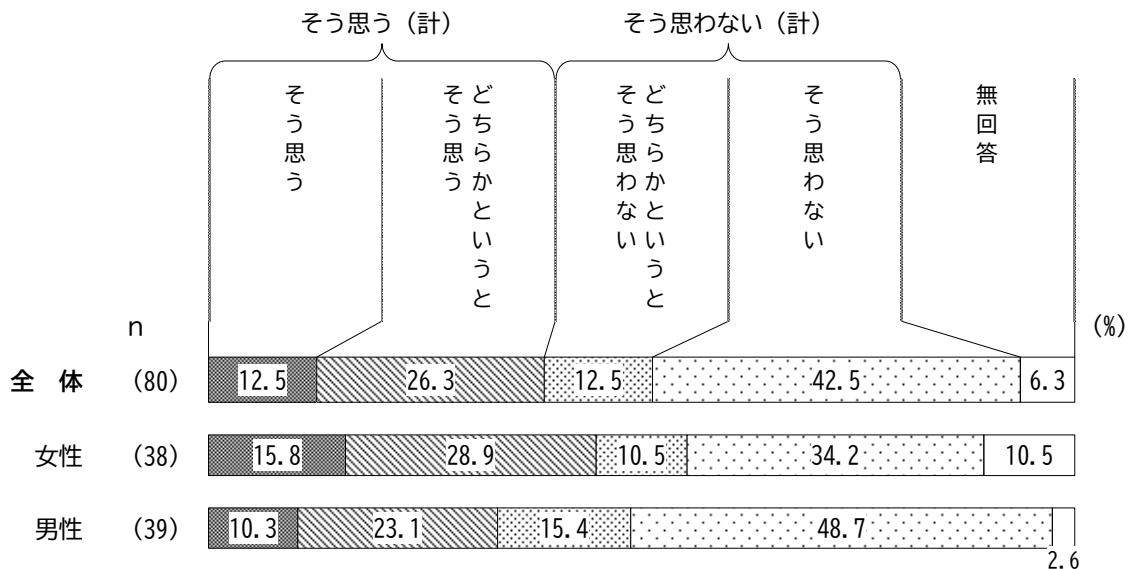
【中学生】

性別で見ると、男女ともに「そう思わない」が最も高くなっているが、女性（51.7%）が男性（32.4%）より19.3ポイント高くなっている。一方、「どちらかというと思わない」は男性（26.5%）が女性（12.1%）より14.4ポイント高くなっている。



【高校生】

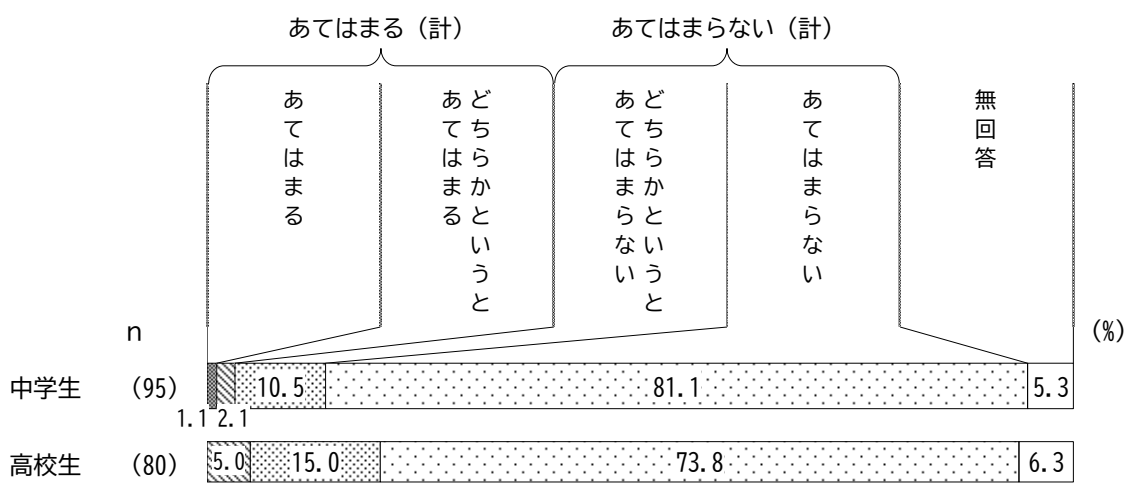
性別で見ると、女性では「そう思わない」が34.2%、男性では48.7%で最も高くなっている。《そう思う (計)》は女性（44.7%）が男性（33.4%）より11.3ポイント高くなっている。一方、《そう思わない (計)》は男性（64.1%）が女性（44.7%）より19.4ポイント高くなっている。



(2) 性別を理由とした進路への批判

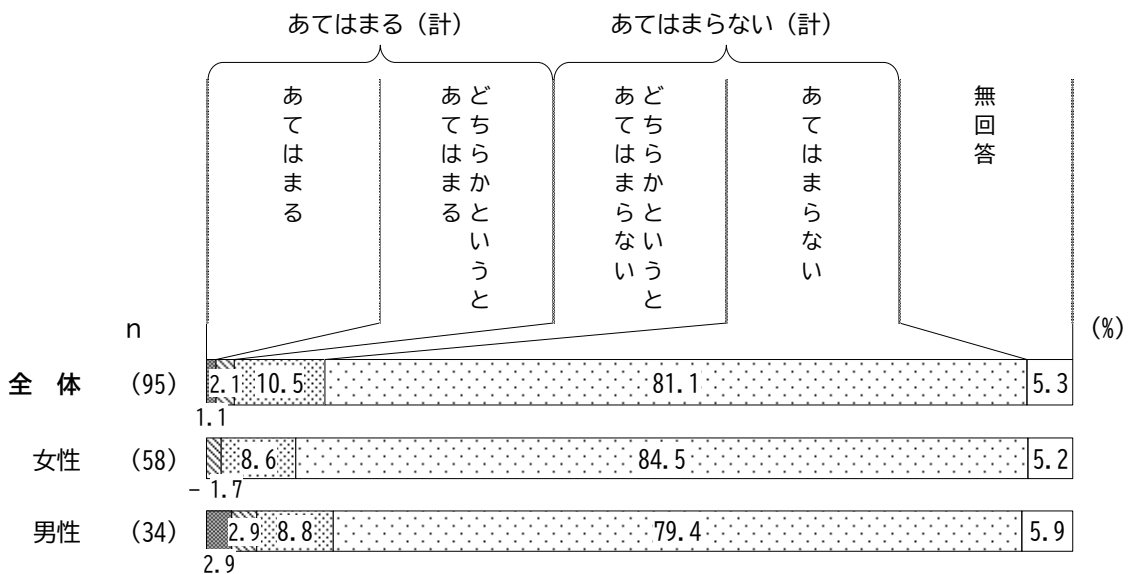
問3. 将来進みたい進路について、性別を理由に否定的な意見を受けたことがありますか。
 あてはまる番号に1つ○をつけてください。

性別を理由とした進路への批判については、中学生では「あてはまらない」が81.1%で最も高く、「どちらかというにあてはまらない」(10.5%)と合わせた《あてはまらない(計)》が91.6%となっている。また、高校生でも「あてはまらない」が73.8%で最も高く、「どちらかというにあてはまらない」(15.0%)と合わせた《あてはまらない(計)》は88.8%となっており、中学生と高校生ともに8割前後となっている。



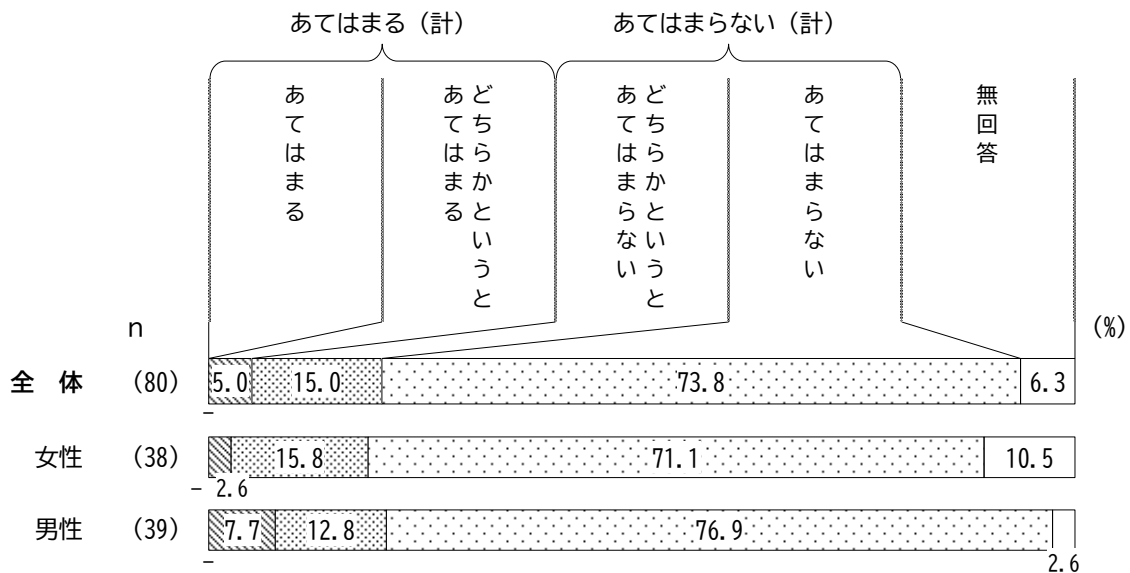
【中学生／性別】

性別でみると、男女ともに「あてはまらない」が最も高くなっているが、女性(84.5%)が男性(79.4%)より5.1ポイント高くなっている。



【高校生／性別】

性別で見ると、男女ともに「あてはまらない」が最も高くなっているが、男性（76.9%）が女性（71.1%）より5.8ポイント高くなっている。また、「どちらかというにあてはまる」は男性（7.7%）が女性（2.6%）より5.1ポイント高くなっている。



(3) 批判した人

問3-2. 【問3で「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した方におたずねします。誰に言われましたか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

進路を批判した人については、全体の回答者数が中学生で3人、高校生で4人ととどまるため、参考として掲載する。

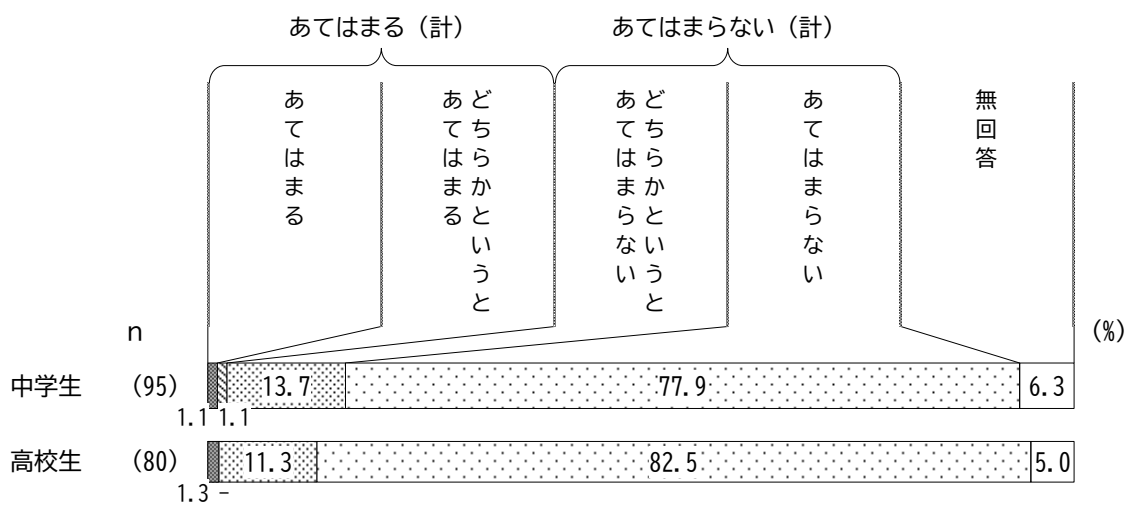
中学生では、「親（保護者）」、「兄弟姉妹」、「友人（先輩・後輩含む）」、「その他」がいずれも1人となっている。

高校生では、「親（保護者）」が3人、「友人（先輩・後輩含む）」が2人、「学校の先生」と「祖父母や親せき」が1人となっている。

(4) 性別を理由とした職業選択への批判

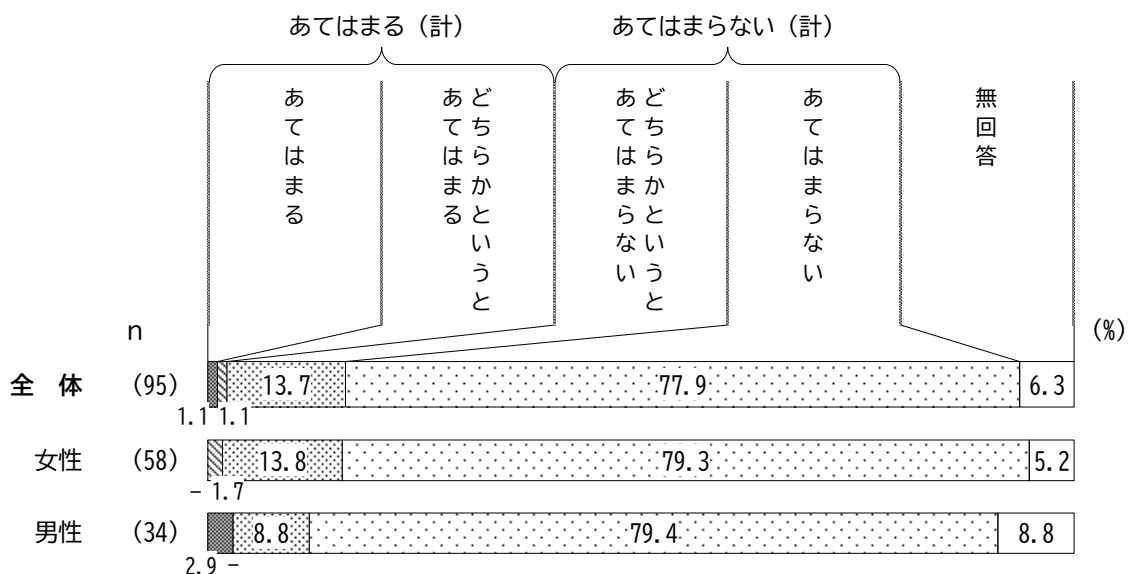
問4. 将来就きたい職業について、性別を理由に否定的な意見を受けたことがありますか。
あてはまる番号に1つ○をつけてください。

性別を理由とした職業選択への批判については、中学生では「あてはまらない」が77.9%で最も高く、「どちらかというにあてはまらない」(13.7%)と合わせた《あてはまらない(計)》が91.6%となっている。また、高校生でも「あてはまらない」が82.5%で最も高く、「どちらかというにあてはまらない」(11.3%)と合わせた《あてはまらない(計)》は93.8%となっており、中学生と高校生ともに9割となっている。



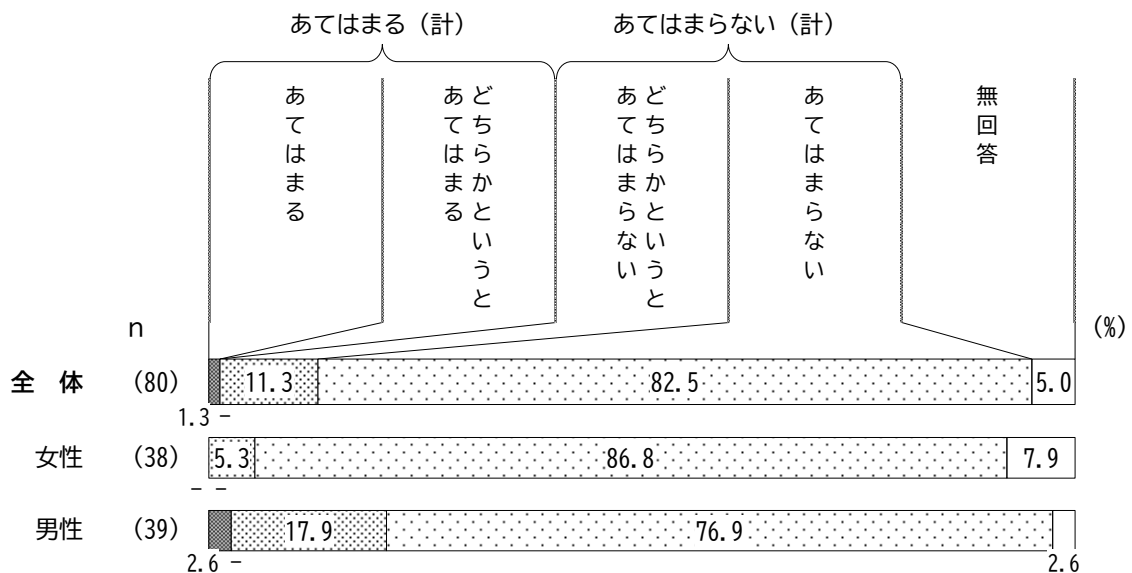
【中学生／性別】

性別でみると、男女ともに「あてはまらない」が約8割で最も高くなっている。「どちらかというにあてはまらない」は女性(13.8%)が男性(8.8%)より5.0ポイント高くなっている。



【高校生／性別】

性別で見ると、男女ともに「あてはまらない」が最も高くなっているが、女性（86.8%）が男性（76.9%）より9.9ポイント高くなっている。一方、「どちらかというにあてはまらない」は男性（17.9%）が女性（5.3%）より12.6ポイント高くなっている。



(5) 批判した人

問4-2. 【問4で「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した方におたずねします。】
誰に言われましたか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

職業選択を批判した人については、全体の回答者数が中学生で2人、高校生で1人とどまるため、参考として掲載する。

中学生では、「親（保護者）」、「祖父母や親せき」、「友人（先輩・後輩含む）」、「その他」がいずれも1人となっている。

高校生では、「親（保護者）」が1人となっている。

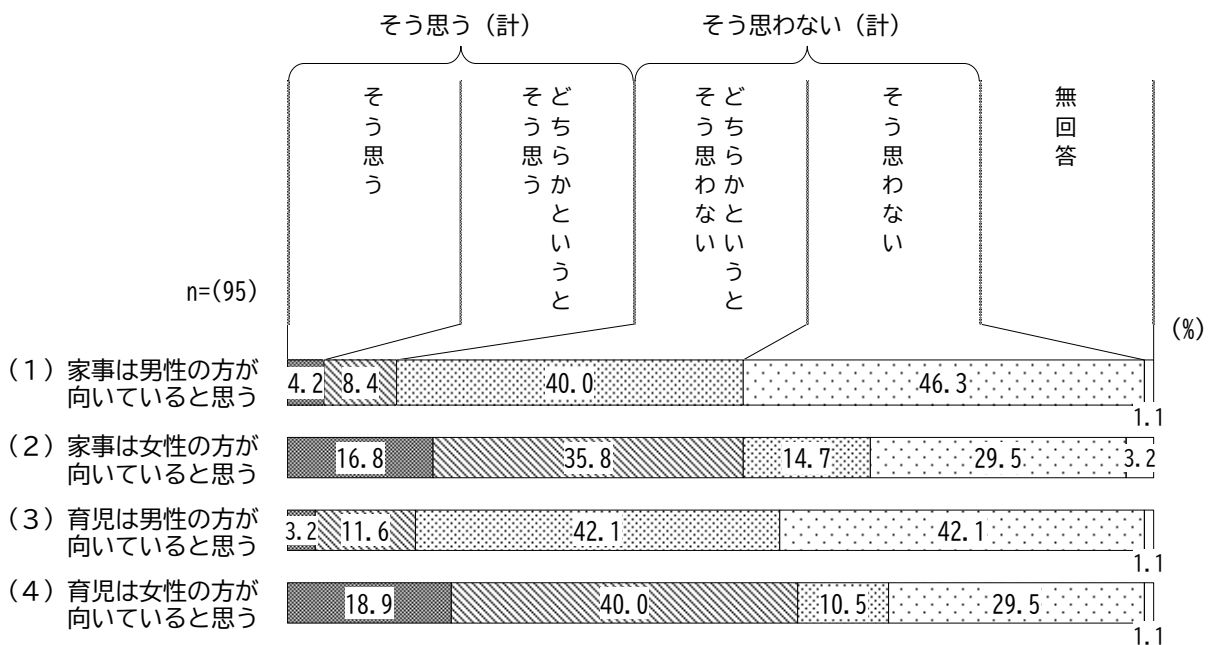
(6) 性別による家事・育児の適正についての考え方

問5. (1) から (4) のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

性別による家事・育児の適正についての考え方の賛否を4項目においてたずねた。

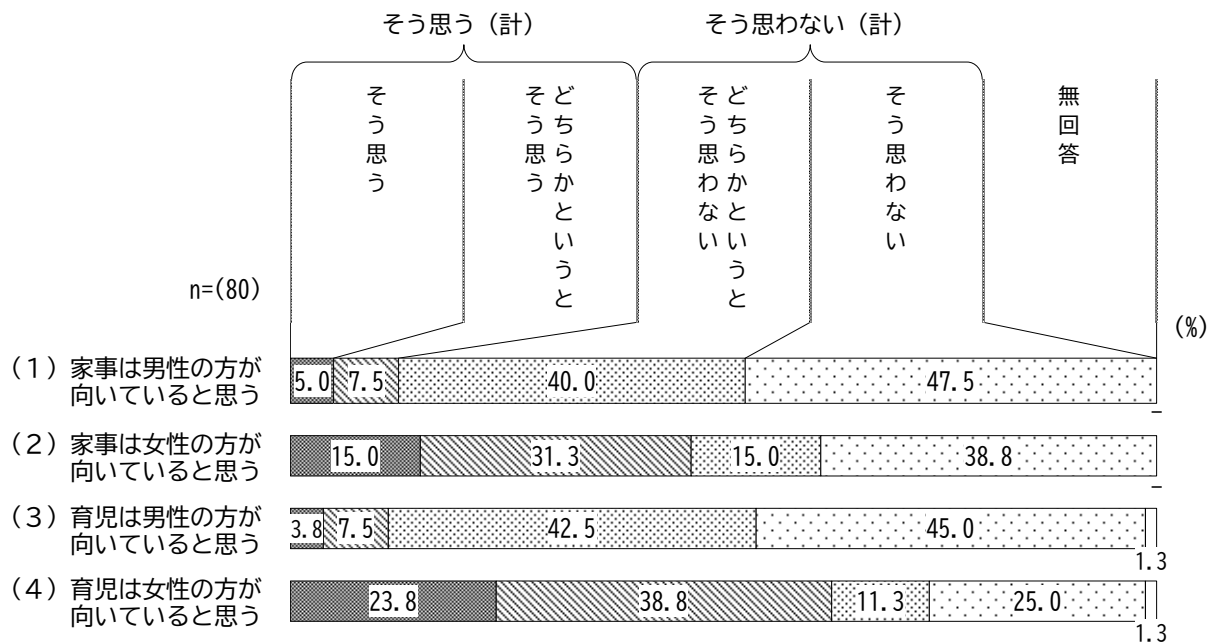
【中学生／全体】

中学生では『(2) 家事は女性の方が向いていると思う』(52.6%)と『(4) 育児は女性の方が向いていると思う』(58.9%)で《そう思う(計)》の割合が半数以上となっているが、《そう思わない(計)》の割合も4割を超えている。一方、『(1) 家事は男性の方が向いていると思う』(86.3%)と『(3) 育児は男性の方が向いていると思う』(84.2%)は《そう思わない(計)》の割合がともに8割以上となっている。



【高校生／全体】

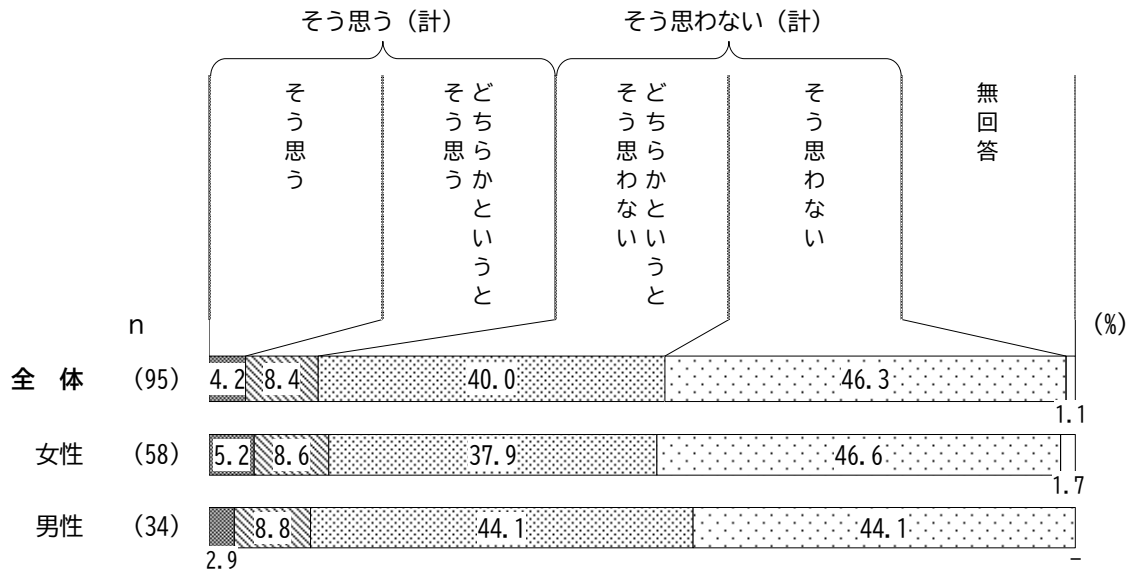
高校生では『(4) 育児は女性の方が向いていると思う』で《そう思う (計)》(62.6%)の割合が6割を超えている。『(2) 家事は女性の方が向いていると思う』は《そう思わない (計)》(53.8%)の割合が半数を超えるが、《そう思う (計)》の割合も4割台半ばとなっている。一方、『(1) 家事は男性の方が向いていると思う』(87.5%)と『(3) 育児は男性の方が向いていると思う』(87.5%)は《そう思わない (計)》の割合がともに9割近くになっている。



< (1) 家事は男性の方が向いていると思う／性別 >

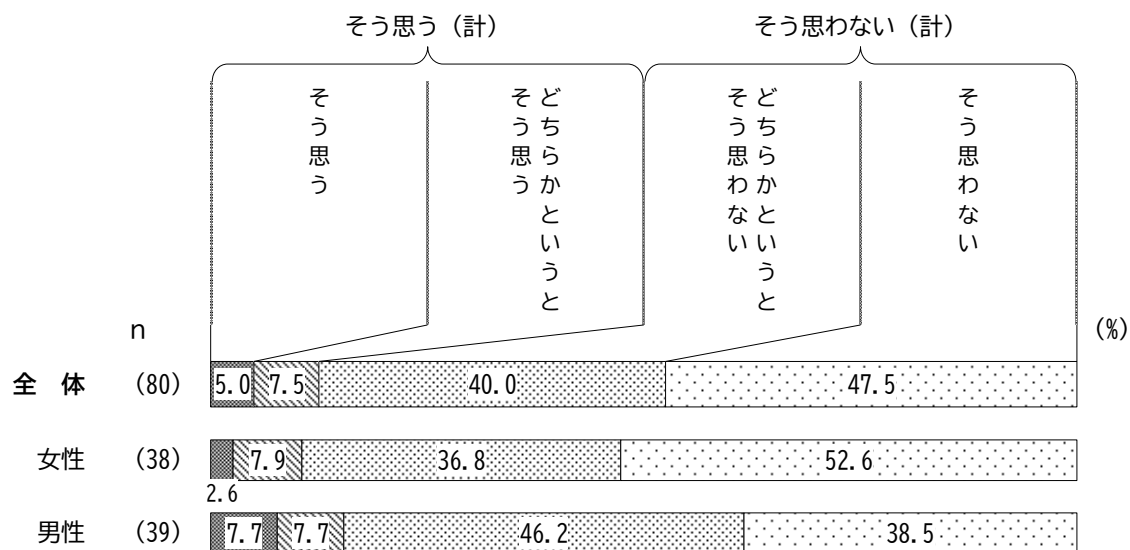
【中学生】

性別で見ると、女性では「そう思わない」が46.6%で最も高く、男性では「どちらかというと思わない」と「そう思わない」が44.1%で最も高くなっている。「どちらかというと思わない」は男性（44.1%）が女性（37.9%）より6.2ポイント高くなっている。



【高校生】

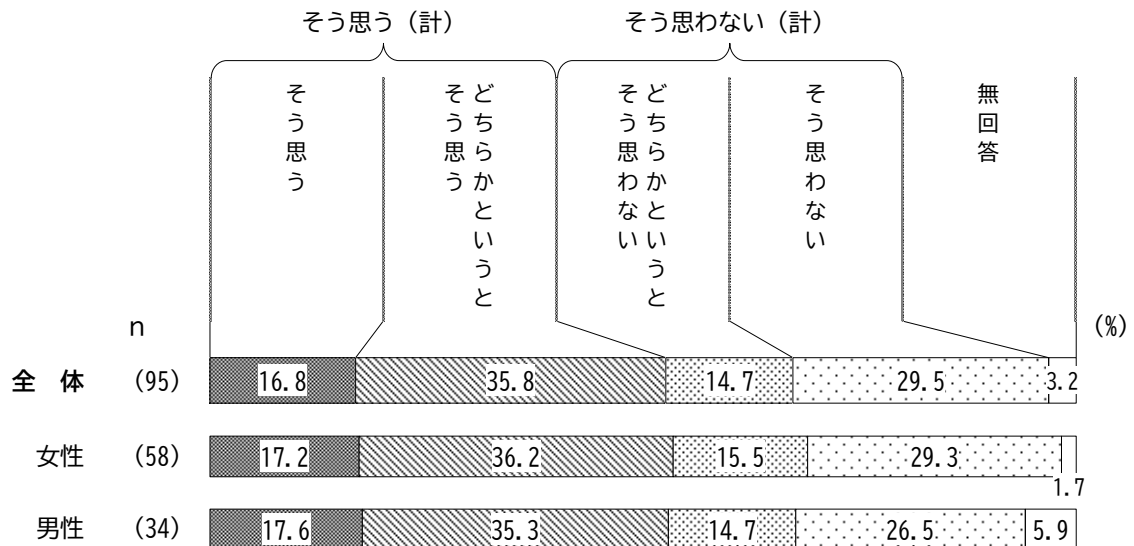
性別で見ると、女性では「そう思わない」(52.6%)、男性では「どちらかというと思わない」(46.2%)が最も高くなっている。「そう思わない」は女性(52.6%)が男性(38.5%)より14.1ポイント高くなっている。一方、「どちらかというと思わない」は男性(46.2%)が女性(36.8%)より9.4ポイント高くなっている。



< (2) 家事は女性の方が向いていると思う／性別 >

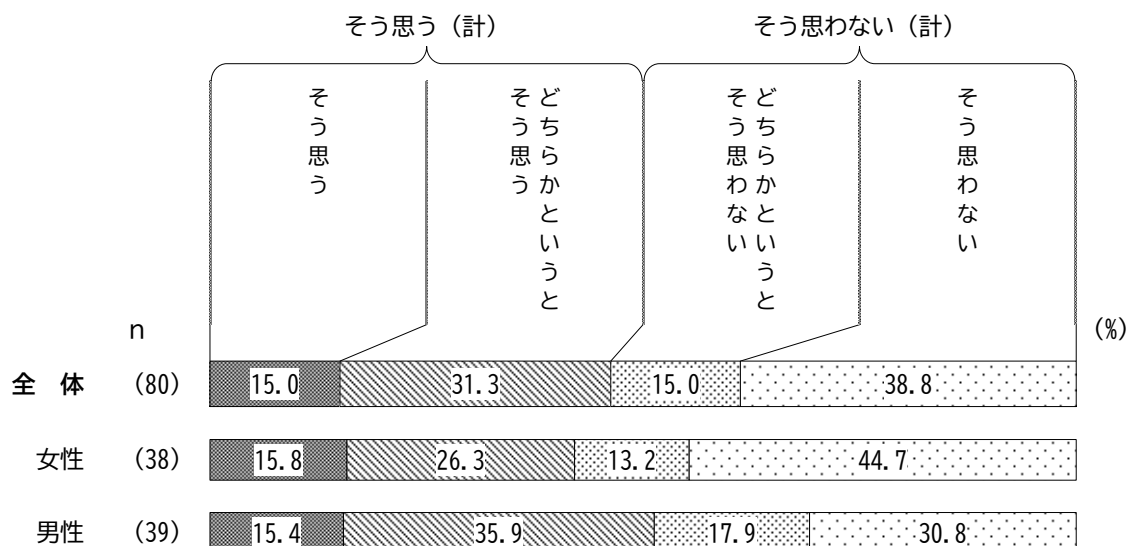
【中学生】

性別で見ると、《そう思う (計)》が男女ともに5割台で最も高くなっており、大きな差は見られなかった。



【高校生】

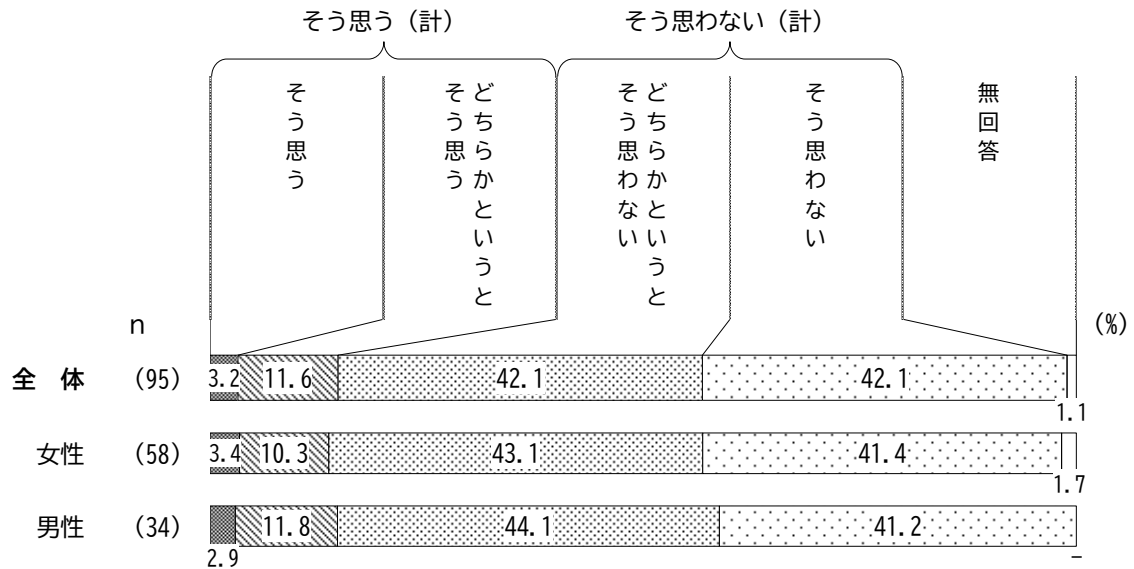
性別で見ると、女性では「そう思わない」(44.7%)、男性では「どちらかというと思う」(35.9%)が最も高くなっている。《そう思わない (計)》は女性(57.9%)が男性(48.7%)より9.2ポイント高くなっている。



< (3) 育児は男性の方が向いていると思う／性別 >

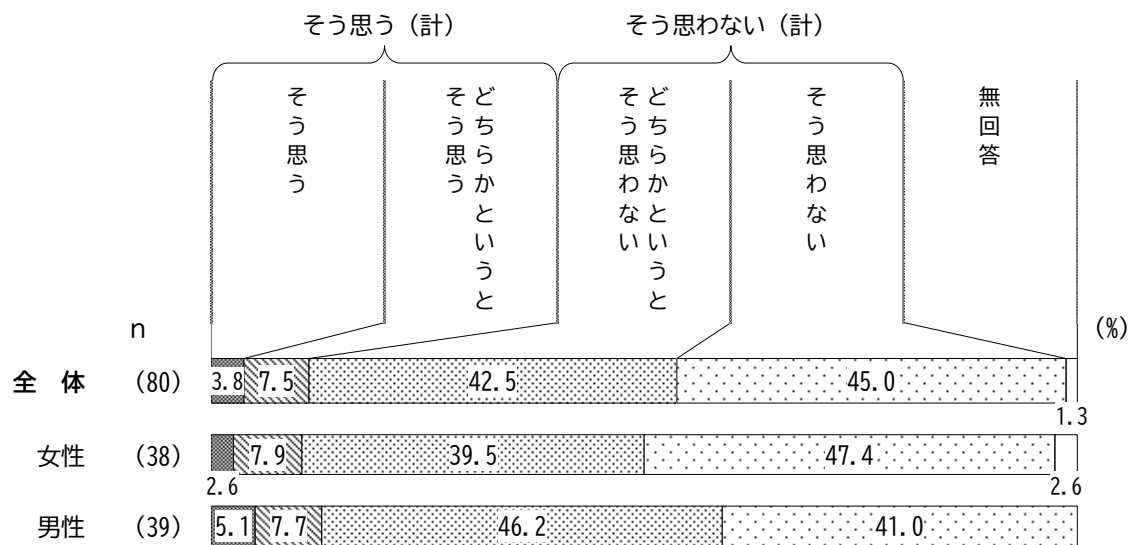
【中学生】

性別で見ると、《そう思わない（計）》が男女ともに8割台で最も高くなっており、大きな差は見られなかった。



【高校生】

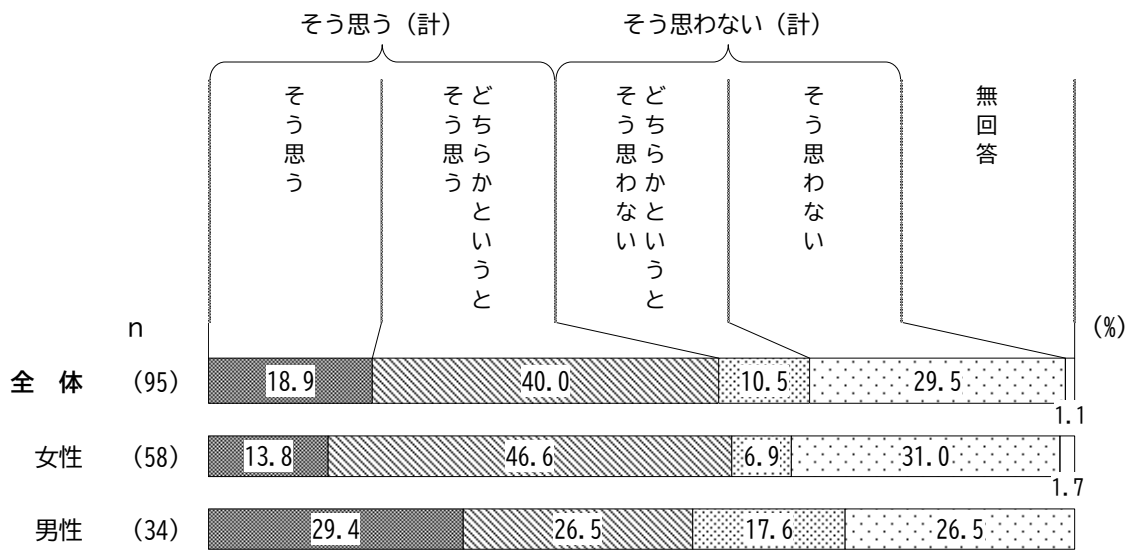
性別で見ると、女性では「そう思わない」(47.4%)、男性では「どちらかというと思わない」(46.2%)が最も高くなっている。「そう思わない」は女性(47.4%)が男性(41.0%)より6.4ポイント高くなっている。一方、「どちらかというと思わない」は男性(46.2%)が女性(39.5%)より6.7ポイント高くなっている。



< (4) 育児は女性の方が向いていると思う／性別 >

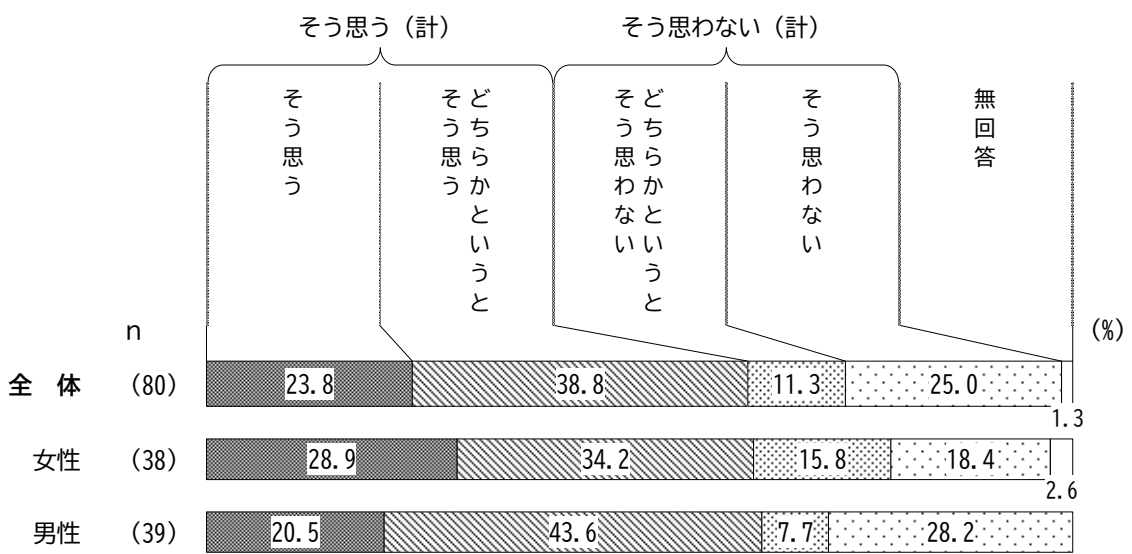
【中学生】

性別で見ると、女性では「どちらかというと思う」（46.6%）、男性では「そう思う」（29.4%）が最も高くなっている。「どちらかというと思う」は女性（46.6%）が男性（26.5%）より20.1ポイント高くなっている。一方、「そう思わない（計）」は男性（44.1%）が女性（37.9%）より6.2ポイント高くなっている。



【高校生】

性別で見ると、女性では「どちらかというと思う」が34.2%、男性では43.6%で最も高くなっている。「そう思う」は女性（28.9%）が男性（20.5%）より8.4ポイント高くなっている。一方、「そう思わない」は男性（28.2%）が女性（18.4%）より9.8ポイント高くなっている。



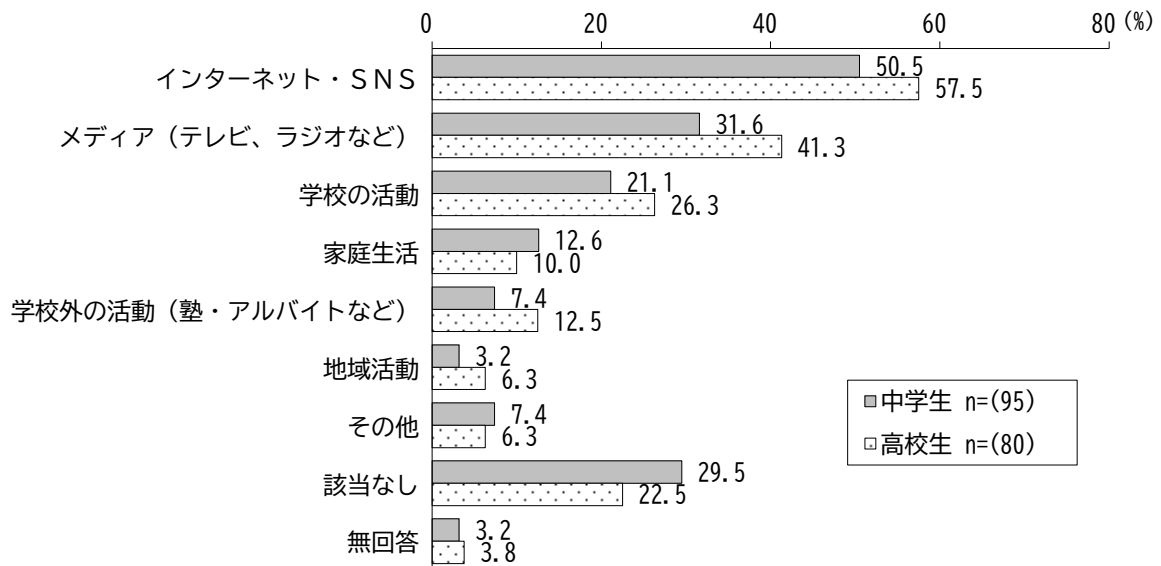
(7)「男(女)らしさ」を感じた情報発信

問6. (直近1年間のことを思い浮かべながらご回答ください)

次の中から「男らしい」「女らしい」という情報発信を感じたことがあるものについて、あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

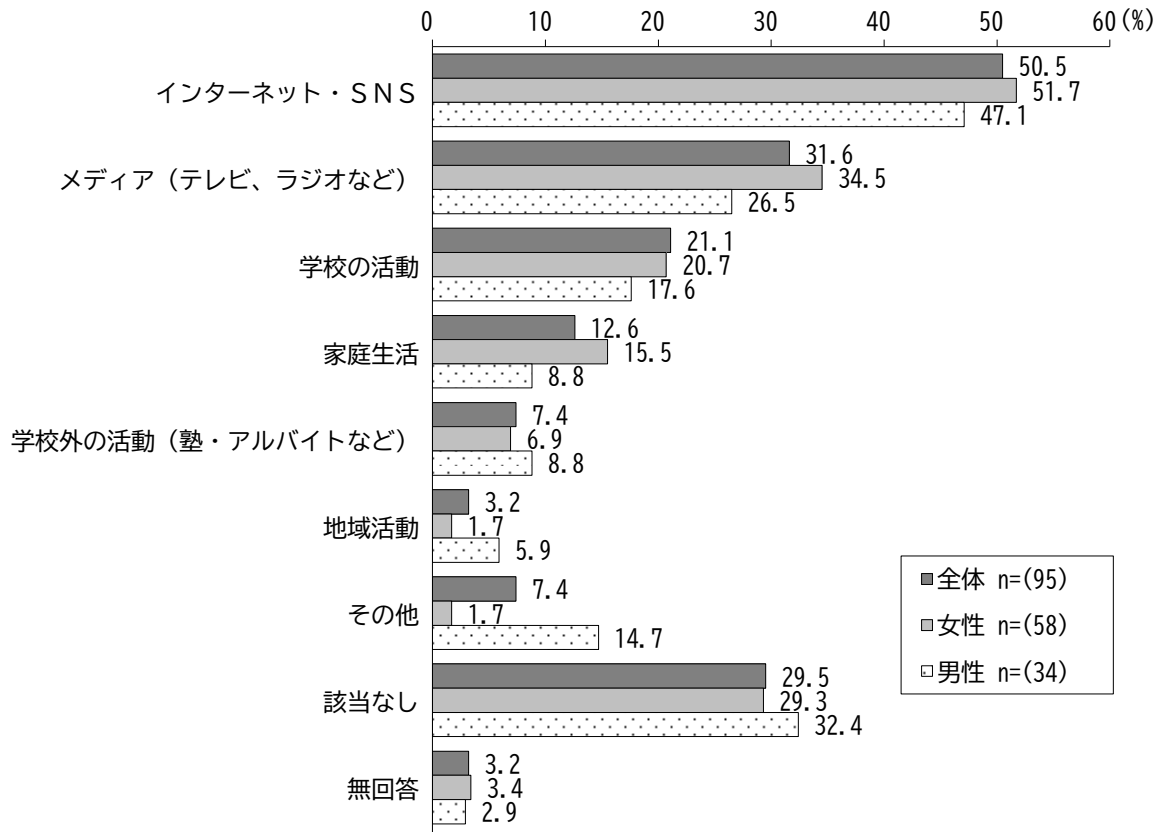
「男(女)らしさ」を感じた情報発信については、中学生では「インターネット・SNS」が50.5%で最も高く、次いで、「メディア(テレビ、ラジオなど)」(31.6%)、「学校の活動」(21.1%)、「家庭生活」(12.6%)が続いている。一方、「該当なし」は29.5%となっている。

高校生では「インターネット・SNS」が57.5%で最も高く、次いで、「メディア(テレビ、ラジオなど)」(41.3%)、「学校の活動」(26.3%)は中学生同様であるが、「学校外の活動(塾・アルバイトなど)」が12.5%と中学生より高くなっている。



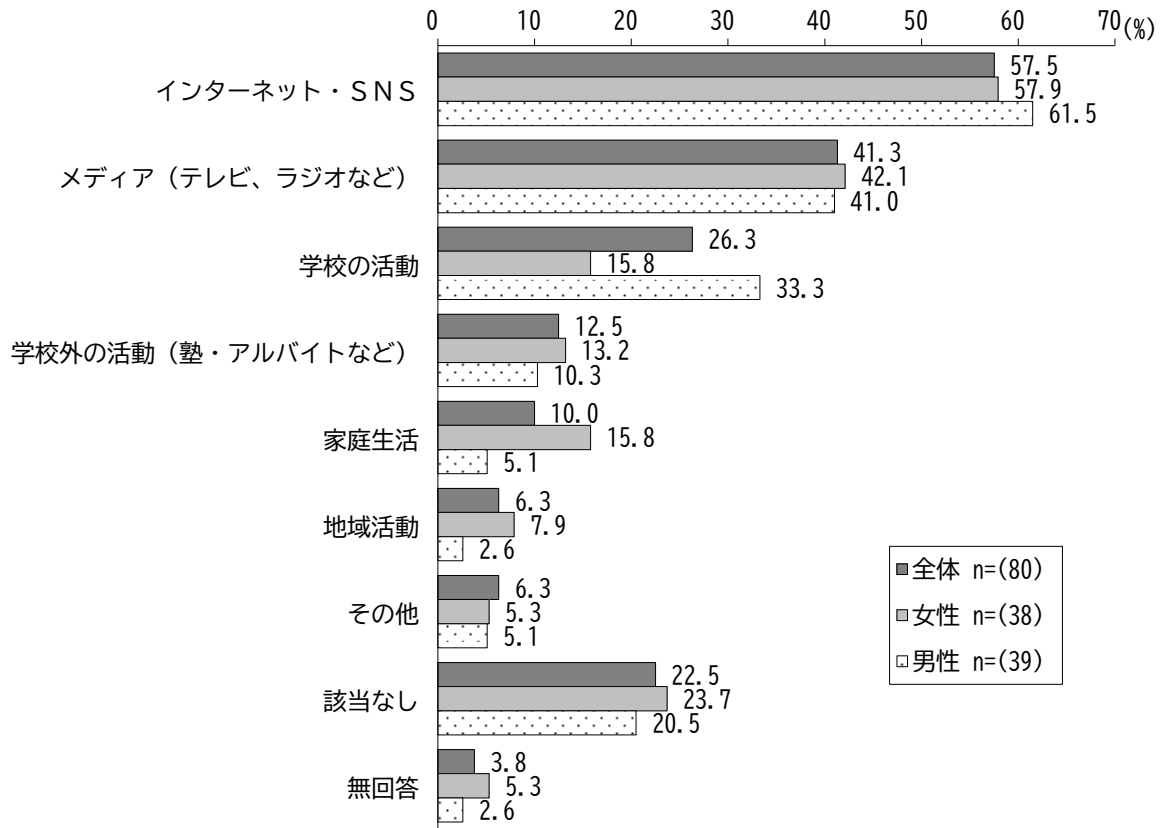
【中学生／性別】

性別で見ると、男女ともに「インターネット・SNS」が5割前後で最も高くなっている。「メディア（テレビ、ラジオなど）」は女性（34.5%）が男性（26.5%）より8.0ポイント、「家庭生活」は女性（15.5%）が男性（8.8%）より6.7ポイント高くなっている。



【高校生／性別】

性別で見ると、男女ともに「インターネット・SNS」が6割前後で最も高くなっている。「家庭生活」は女性（15.8%）が男性（5.1%）より10.7ポイント、「地域活動」は女性（7.9%）が男性（2.6%）より5.3ポイント高くなっている。一方、「学校の活動」は男性（33.3%）が女性（15.8%）より17.5ポイント高くなっている。



3. 無意識の思い込みについて（中学生以上）

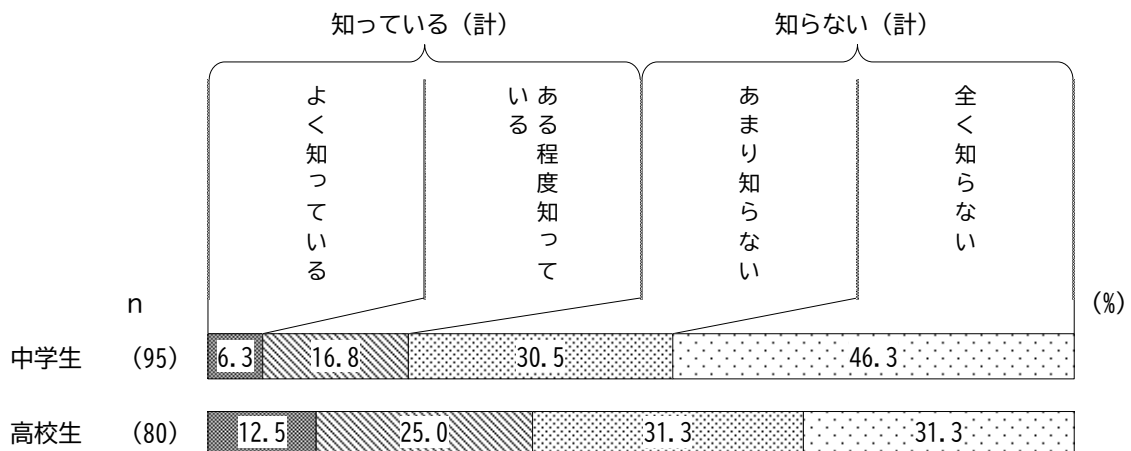
(1) 無意識の思い込みに関する認知度

問7. 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）※について知っていますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

※ 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）とは、「家事・育児は女性がすべきだ」、「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ」というような、自分自身は気づいていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」をいいます。

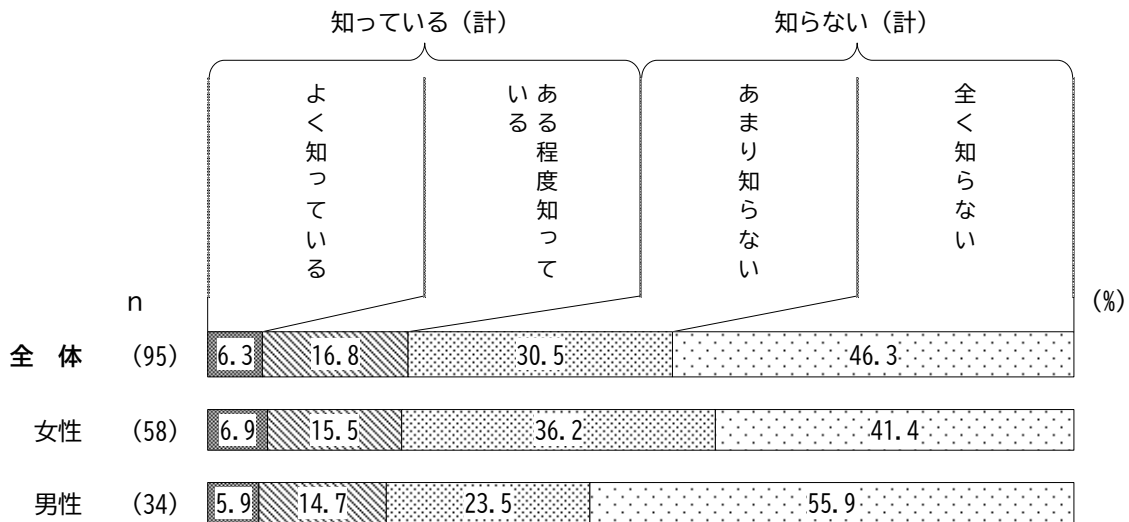
無意識の思い込みに関する認知度については、中学生では「全く知らない」が46.3%で最も高く、「あまり知らない」(30.5%)と合わせた《知らない(計)》が76.8%となっている。一方、「ある程度知っている」(16.8%)、「よく知っている」(6.3%)を合わせた《知っている(計)》は23.1%となっている。

高校生でも「あまり知らない」と「全く知らない」はともに31.3%と高く、《知らない(計)》が62.6%となっている。一方、「ある程度知っている」(25.0%)、「よく知っている」(12.5%)を合わせた《知っている(計)》は37.5%と中学生を14.4ポイント上回っている。



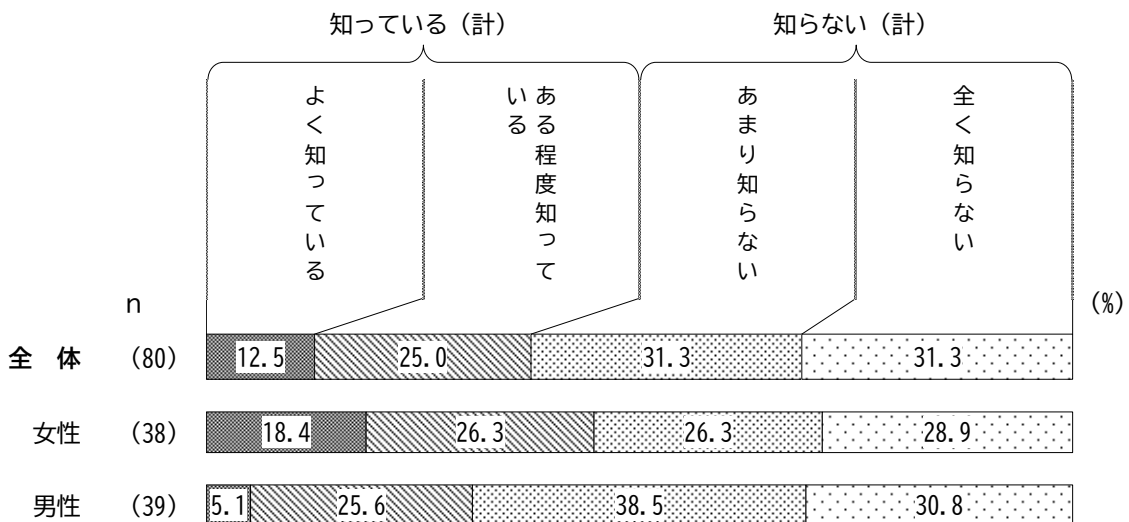
【中学生／性別】

性別で見ると、女性では「全く知らない」が41.4%、男性では55.9%で最も高くなっている。「あまり知らない」は女性（36.2%）が男性（23.5%）より12.7ポイント高くなっている。一方、「全く知らない」は男性（55.9%）が女性（41.4%）より14.5ポイント高くなっている。



【高校生／性別】

性別で見ると、女性では「全く知らない」(28.9%)、男性では「あまり知らない」(38.5%)が最も高くなっている。《知っている (計)》は女性(44.7%)が男性(30.7%)より14.0ポイント高くなっている。

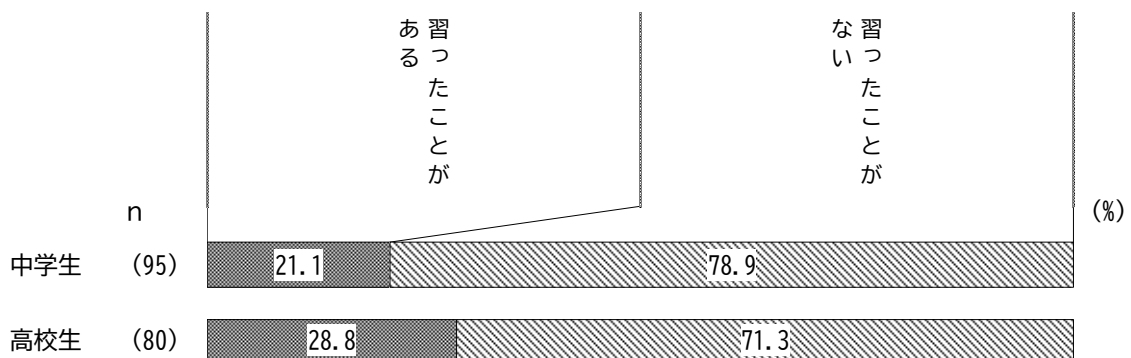


(2) 無意識の思い込みに関する教育の有無

問8. 無意識の思い込みについて、学校で習ったことはありますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

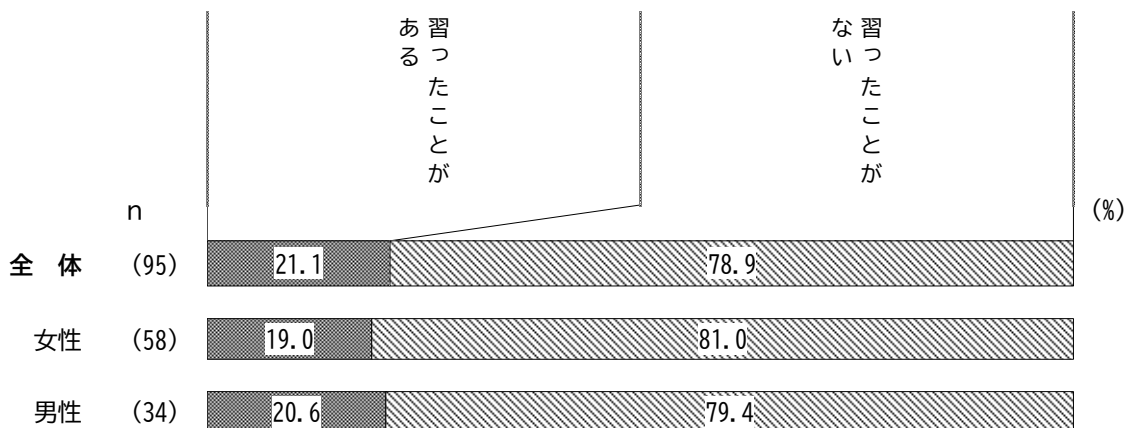
無意識の思い込みに関する教育の有無については、中学生では「習ったことがない」が78.9%、「習ったことがある」が21.1%となっている。

高校生では「習ったことがない」が71.3%、「習ったことがある」が28.8%となっている。



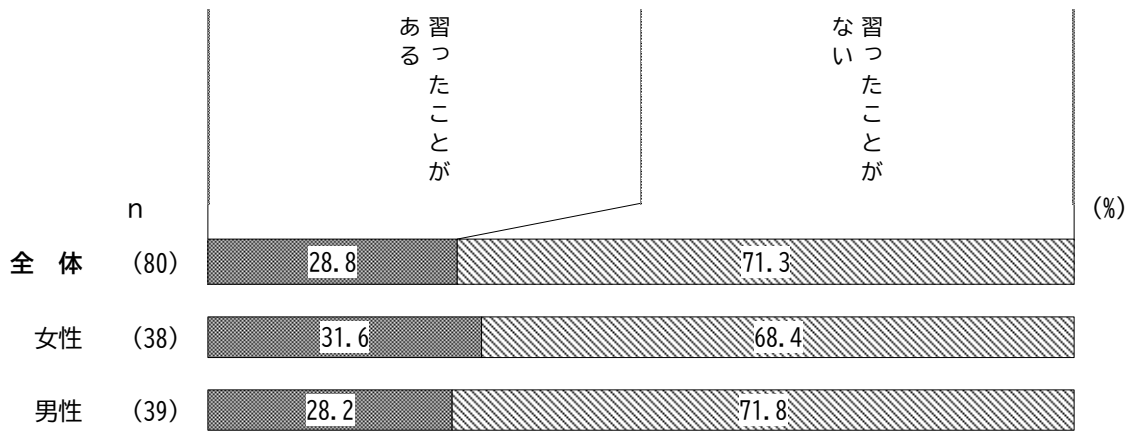
【中学生／性別】

性別で見ると、男女ともに「習ったことがない」が8割前後で最も高くなっており、大きな差は見られなかった。



【高校生／性別】

性別で見ると、男女ともに「習ったことがない」が7割前後で最も高くなっており、大きな差は見られなかった。



第4章 資料

大人向け調査票

江戸川区性の平等と多様性を尊重する社会づくりに関する意識調査

■記入上のお願

- ①このアンケート調査は、すべての質問について、女性に関する質問も、男性に関する質問も全ての方がお答えください。
- ②回答は、あてはまる番号に○をつけるか、数字を記入してください。各設問によって○をつける数や数字を記入する数が異なりますので、そのつと書いてある記入方法に沿ってご記入ください。

まず、日ごろの生活で感じていることをおたずねします

問1 現在、つぎのような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(1) から (8) のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

男性の地位が尊重されている	この男性の地位が優れている	平等にしている	この女性の地位が優れている	女性の地位が尊重されている	わからない
→	→	→	→	→	→
1	2	3	4	5	6
《記入例》					
(1) 家庭生活で	→	→	→	→	→
		3			
(1) 家庭生活で	→	→	→	→	→
(2) 職場で	→	→	→	→	→
(3) 学校教育の場で	→	→	→	→	→
(4) 地域社会で	→	→	→	→	→
(5) 政治の場で	→	→	→	→	→
(6) 法律や制度の上で	→	→	→	→	→
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで	→	→	→	→	→
(8) 全体として	→	→	→	→	→

(1) 調査票／おとな向け

問2 つぎのような家庭・結婚・離婚に対する考え方について、あなたのご意見に最も近いものを選んでください。(1) から (7) のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

よく思っています	この意見が正しいと思います	この意見が少し正しいと思います	この意見が少し正しいとは思いません	この意見が正しいとは思いません
→	→	→	→	→
1	2	3	4	4
(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方はよい				
→	→	→	→	→
1	2	3	4	4
(2) 結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい				
→	→	→	→	→
1	2	3	4	4
(3) 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい				
→	→	→	→	→
1	2	3	4	4
(4) 男性は結婚したら、自分自身のことより妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい				
→	→	→	→	→
1	2	3	4	4
(5) 結婚しても必ずしも子どもをもちつ必要はない				
→	→	→	→	→
1	2	3	4	4
(6) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい				
→	→	→	→	→
1	2	3	4	4
(7) 一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である				
→	→	→	→	→
1	2	3	4	4

女性の就労・活躍推進についておたずねします

問4 「女性の働き方」についておたずねします。つぎの(ア)～(イ)について、下の選択肢の中からそれぞれ1つずつ、「回答欄」に番号を記入してください。

(ア) 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのはどれですか。

(イ) あなた自身の働き方は、つぎの中のどれにあたりますか。男性の方は、配偶者やパートナーのことについてお答えください。

* 配偶者やパートナーのいない方は、問5にお進みください。

1. 結婚や出産をしても、同じ仕事を続ける「就業継続型」
2. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をすることを「中断再就職型」
3. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をすることを「中断再就職型（パートタイム）」
4. 学校卒業後は仕事を持たず、結婚後は子育て終了後から仕事を持つ
5. 子どもができるまでは仕事を持ち、子どもができれば家事や子育てに専念する
6. 結婚するまでは仕事を持つが、結婚後は家事に専念する
7. 仕事は持たない
8. その他（具体的に：_____）
9. わからない・選べない

《回答欄》 (ア) (イ)

全員の方が【資料1】を読んでからお答えください。

【資料1】

総務省の「令和3年社会生活基本調査」によると、夫婦共働き世帯において、1日の中で、育児や介護、家事などに費やす時間を男女別に比較すると、男性は53分、女性は4時間18分となっています。同様に、仕事に費やす時間を男女別に比較すると、男性は6時間54分、女性は4時間16分となっています。育児や介護、家事などに費やす時間は女性の方が長く、仕事に費やす時間は男性の方が長い現状となっています。

問5 育児や介護、家事などに女性の方がより多くの時間を費やしていることが、職業生活における女性の活躍が進まない要因の一つだという意見がありますが、あなたはこの意見について、どう思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそうは思わない
4. そうは思わない

問3 結婚している方（事実婚の方もお答えください）におたずねします。家庭生活での、夫婦の役割分担はどのようになっていますか。

(1) から (11) のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。(7) から (9) について、子育てを終えた方は、当時の役割分担に○をつけてください。

*本調査では、婚姻届は出していないが、パートナーと共同生活をしていることを「事実婚」と呼びます。

	夫の役割	夫の役割 かといえは	夫と妻の 同程度	妻の役割 かといえは	妻の役割
(1) 家庭の重大問題の決定	→ 1	2	3	4	5
(2) 家計の管理（やりくり）	→ 1	2	3	4	5
(3) 食事のしたく	→ 1	2	3	4	5
(4) 食事のあとかたづけ	→ 1	2	3	4	5
(5) 掃除・洗濯	→ 1	2	3	4	5
(6) 買い物	→ 1	2	3	4	5
(7) 育児（乳幼児の世話）	→ 1	2	3	4	5
(8) 子どものしつけ	→ 1	2	3	4	5
(9) 子どもの教育	→ 1	2	3	4	5
(10) 老親の介護・看護	→ 1	2	3	4	5
(11) 自治会等地域でのつきあい	→ 1	2	3	4	5

問5-2 問5で「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」と回答した方へおたずねします。
育児や介護、家事などに費やす時間を男女間でバランスのとれたものとし、職業生活における女性の活躍を更に推進するためには、特にどのような支援が必要だと思いますか。あなたのご意見に最も近いものに、あてはまる番号に1-10をつけてください。

1. 長時間労働の是正やフレックスタイムの推進など、育児や介護、家事などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備
2. 育児や介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事の両立を支援するための施策の整備
3. 保育施設や介護施設の整備など、育児や介護をサポートする設備やサービスの整備

子育てに関するお考えをおたずねします

問6 あなたは、男性が育児に参加することについてどのようなお考えですか。
あてはまる番号に1-10をつけてください。

1. 男性の育児参加は是非必要である
2. 男性の育児参加はある程度必要である
3. 男性の育児参加はあまり必要でない
4. 男性の育児参加は全く必要でない
5. どちらともいえない
6. わからない

問6-2 問6で「1. 男性の育児参加は是非必要である」「2. 男性の育児参加はある程度必要である」と回答した方におたずねします。
男性の育児参加を促していくためには、どのようなことが重要になるとお考えですか。
あてはまる番号に3-10をつけてください。

1. 男性が育児休暇制度を利用しやすくなること
2. 労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむこと
3. 男性のための育児講座を充実すること
4. 男性自身が育児に取り組み意識をもつこと
5. 子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること
6. 家族間で育児について十分に話し合うこと
7. 男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること
8. その他（具体的に： _____）
9. わからない

問6-3 問6で「3. 男性の育児参加はあまり必要でない」「4. 男性の育児参加は全く必要でない」と回答した方におたずねします。

男性の育児参加は必要ないと思う理由はつぎのどれにあたりますか。
あてはまる番号に2-10をつけてください。

1. 女性の方が子育てに向いているから
2. 男性は育児よりも職業や商売を優先した方がよいから
3. 男性は育児に対する自信がないから
4. 男性が育児をすることに周囲の理解が得られないから
5. その他（具体的に： _____）

教育についておたずねします

問7 これから、男女が平等な社会をつくるために、学校教育ではどのようなことが重要になるとお考えですか。あてはまる番号に3-10までOをつけてください。

1. 名簿や整列などを男女で分ける習慣をなくすること
2. 学校生活の中で、児童・生徒の男女による役割分担をなくすること
3. 生活指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにすること
4. 教師自身が男女平等教育の意識をよく理解すること
5. 日ごろの学習の中で、男女平等意識を育てていくこと
6. 校長や教頭（副校長）など役職のある立場に女性を増やしていくこと
7. PTAなどを通じ、保護者等地域の大人が男女平等教育の理解と協力を深めること
8. その他（具体的に： _____）
9. とくにない
10. わからない

介護についておたずねします

問8 あなたは、51歳から高齢者の介護をする場合に、家庭内の分担はどのようにするとよいと思いますか。あてはまる番号に1-10をつけてください。

1. 主として女性が受けもつ方がよい
2. 男女が共同して受けもつ方がよい
3. 主として男性が受けもつ方がよい
4. その他（具体的に： _____）
5. わからない

問9 今後、男性が介護に参加していくためには、どのようなことが重要になると思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1. 男性が介護休暇制度を利用しやすくなること
2. 労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム*の導入などがすすむこと
3. 男性のための介護講座を充実すること
4. 男性自身が介護に取り組む意識をもつこと
5. 男性が気軽に介護の問題について相談できる窓口を設けること
6. 家族の間で介護について十分に話し合うこと
7. 男性の介護参加を妨げるような社会通念が変わること
8. その他（具体的に：)
9. わからない

*業務の期間や、職種などによって出勤や退社の時刻、休日など働く時間帯を柔軟にできる制度です。

職業、ワーク・ライフ・バランスについておたずねします

問10 現在のあなたの職業はつぎのうちどれに当てはまりますか。

1～13のうち、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

*パートタイムやアルバイトで働いている方も4～8の中からお答えください。

1. 農業・商工サービス自営業（卸・小売店、飲食店、理髪店、工作所等の自営業主など）
2. 自由業（開業医、書店業、芸術家など）
3. 家業の手伝い
4. 経営・管理職（企業経営者、企業・官庁の管理職など）
5. 専門・技術職（教員、研究者、勤務医、看護師など）
6. 事務・営業職（事務、営業従事者など）
7. 技能・労務職（技能工、製造・建設作業員、運転手など）
8. 販売サービス職（店員、外交員などの販売従事者や美容師、調理師、守衛等のサービス従事者など）
9. 内職
10. その他の職業（具体的に：)
11. 学生（専門学校、大学生など）
12. 主婦・主夫（ご自分で経済的な収入を得ていない方）
13. 無職

問10-2に
お進みください

問11に
お進みください

問10-2 勤め人の方（問10で4～8と回答した方）におたずねします。

あなたの主たる働き方はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

パートタイム、アルバイトの方はあなたのお勤め先の呼称でお答えください。

1. 正社員・正職員
2. パートタイム
3. アルバイト
4. 派遣・登録社員
5. その他（具体的に：)

問10-3 勤め人の方（問10で4～8と回答した方）におたずねします。
あなたの職場では、男女間でつぎのような格差がありますか、
思いあたるものの番号にいくつでも○をつけてください。

1. 募集や採用の面で格差がある
2. 賃金・昇給の面で格差がある
3. 昇進・昇格の機会に格差がある
4. 女性の仕事は補助的業務や雑務が多い
5. 入社研修や業務研修などの機会に格差がある
6. 女性には結婚退職や出産退職の慣習がある
7. 女性の定年が男性より早い
8. その他（具体的に：)
9. とくに男女の格差はない
10. わからない

問11 問10で「12. 主婦・主夫」または「13. 無職」と回答した方におたずねします。

あなたが、現在働いていない理由はつぎのどれに当てはまりますか。

あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1. やりたい仕事や条件の合う仕事が見つからないから
2. 働きたくてもなかなか採用してもらえないから
3. 働かなくても経済的に困らないから
4. 家事・育児に専念したいから
5. 高齢者や病人の世話があるから
6. 健康・体力に自信がないから
7. 職業能力に自信がないから
8. 趣味や社会活動などにやりたいことがあるから
9. 家族が反対するから
10. 家族の転勤や転居があるから
11. 扶養家族でいる方が経済的に有利だから
12. 働きたくないから
13. その他（具体的に：)

問11-2 問10で「12.主婦・主夫」または「13.無職」と回答した方におたずねします。
 あなたは今後働きたいと思いませんか。また、どのようなかたちで働きたいと思いませんか。
 あてはまる番号に1-10をつけてください。

1. 働くつもりはない
2. 正社員・正職員として働きたい
3. パート・アルバイトとして働きたい
4. 派遣・登録社員として働きたい
5. 自分で事業を起こしたい
6. 在宅勤務*をしたい
7. その他（具体的に： ）

*ふだんは在宅でパソコン等を使って仕事をし、必要に応じて出勤することをいいます。

問12 全ての方に、生活と仕事の調和（ワーク・ライフ・バランス）についておたずねします。
 生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味、学習等）の優先度について
 お伺いします。

(1)「希望」としての優先度

あなたの「希望」に最も近いものを下の①～⑧の中から
 1つだけ選び、右枠内に数字を記入してください。

(2)「現実」としての優先度

あなたの「現実」に最も近いものを下の①～⑧の中から
 1つだけ選び、右枠内に数字を記入してください。

(1) 希望
(2) 現実

- | |
|--|
| ① 仕事を優先
② 家庭生活を優先
③ 個人の生活を優先
④ 仕事と家庭生活を優先
⑤ 仕事と個人の生活を優先
⑥ 家庭生活と個人の生活を優先
⑦ 仕事、家庭生活、個人の生活全て
⑧ わからない |
|--|

問13 全ての方におたずねします。これから男女ともに働きやすい社会環境をつくるためには、ど
 のようなことが重要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1. 男女ともに労働時間の短縮をはかること
2. 男性の家事・育児・介護への参加を進めること
3. 男女の雇用機会を均等にすること
4. 職場での男女の昇進、待遇の格差をなくすること
5. パートタイムなどの女性の労働条件を向上させること
6. 再就職を希望する人のための講座、セミナーを充実させること
7. 出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実させること
8. 保育園、学童保育などの育児環境を充実させること
9. 育児・介護休暇制度などの普及をはかること
10. ホームヘルパーや福祉施設を充実させること
11. その他（具体的に： ）
12. とくにない
13. わからない

ここから、男女の「人権」に関連したことがらをおたずねします

問14 セクシュアル・ハラスメント*（性的いやがらせ）についておたずねします。
 あなた自身に対するつぎのようなことで、セクシュアル・ハラスメントだと感じた経験はあり
 ますか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

*セクシュアル・ハラスメントとは、職場や家庭、学校、地域社会において、相手方の趣に反して性的な行為を強要
 したり、性的な言動により生活環境を侵害することです。

1. 結婚すること、しないことなどを話題にされたこと
2. 年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと
3. 卑わいなことばをかけられたり、わい談をされたこと
4. スーツ写真やポスターなどを見せられたこと
5. シロジロと見られたり、触られたりしたこと
6. 宴会でお酌やテュエットなどを強要されたこと
7. 意図的に性的なうわさを流されたこと
8. つきあいなどをしつこく誘われたこと
9. 性的関係をもつよう強要されたこと
10. その他（具体的に： ）
11. とくにない
12. わからない

問15 家庭内・家族間で起こる暴力、とりわけパートナー（夫・妻・恋人）といった親密な関係での暴力が問題になっています。あなたは、パートナー（夫・妻・恋人）から、つぎの(1)から(13)のようなことをされた経験がありますか。あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

* 現在/パートナーのいない方は過去の経験をお答えください。該当しない方は、問17にお答えください。

	何度もあった	1度あった	まったくない
(1) 命の危険を感じるくらいに暴力をうけた	→	1	2 3
(2) 医師の治療が必要となる程度の暴力をうけた	→	1	2 3
(3) 医師の治療が必要とされない程度の暴力をうけた	→	1	2 3
(4) 何を言っても無視され続けた	→	1	2 3
(5) 交友関係や電話を細かく監視された	→	1	2 3
(6) 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性（かいしょう）がない」など言われた	→	1	2 3
(7) 大声でとられた	→	1	2 3
(8) 見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見られた	→	1	2 3
(9) 避妊に協力しない	→	1	2 3
(10) いやがっているのに性的な行為を強要された	→	1	2 3
(11) 生活費を渡されない、または制限される	→	1	2 3
(12) 給料や貯金を勝手に使われる	→	1	2 3
(13) 外で働くことを妨害される	→	1	2 3

問16 問15で「何度もあった」または「1、2度あった」と回答した方におたずねします。あなたはこれまでに、問15であげたような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 相談した
2. 相談したかったが、相談しなかった
3. 相談しようとは思わなかった

問16-2 問16で「1. 相談した」と回答した方におたずねします。

相談した相手はどなたですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 親族
2. 友人・知人
3. 同じような経験をした人
4. 東京都の窓口・電話相談
5. 区の「DV相談室」・「配偶者暴力相談支援センター」
6. 区役所の窓口・電話相談（5以外）
7. 家庭裁判所、弁護士、警察など
8. 医師、カウンセラーなど
9. その他（具体的に：_____）

問17 あなたは、パートナー（夫・妻・恋人）間の暴力をなくすために、どのような対策が必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1. 家庭・学校における男女平等や性についての教育を充実させる
2. 被害者のための相談を充実させる
3. 行政や警察が啓発活動を積極的に行う
4. テレビ・週刊誌などのメディアにおける暴力や性の表現について規制を進める
5. 過激なビデオソフト、ゲームソフト、映画などの販売や貸し出しを禁止する
6. 法律による規制の強化や見直しを行う
7. 犯罪に対する取り締まりを強化する
8. 捜査や裁判の担当官に女性を増やす
9. 被害者の避難場所（シェルター）を充実させる
10. その他（具体的に：_____）
11. とくに対応の必要はない
12. わからない

職場におけるハラスメントについておたずねします

問18 あなたは職場で何らかのハラスメント等を経験したことがありますか。あてはまる番号に1つでも○をつけてください。

1. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
2. マタニティ・ハラスメント（妊娠・出産をしたり、育児休業を取得したりした女性社員へのいやがらせ・不当な扱い）
3. パタニティ・ハラスメント（育児休業制度などを利用しようとする男性社員へのいやがらせ・不当な扱い）
4. ハワー・ハラスメント（職場内での優位性を元にして苦痛を与えること）
5. 性的マイノリティ（LGBT等）に関するハラスメント
6. カスタマー・ハラスメント
7. モラル・ハラスメント（身体的ではなく、言葉や態度等によって行われる精神的な暴力）
8. 就活セクシュアル・ハラスメント
9. ストーカー（つきまとい）行為
10. その他（_____）
11. とくにない

社会参画などについておたずねします

問19 あなたはこの1年間に、仕事や学校以外でどのような活動に参加しましたか。また、今後、どのような活動に参加したいと思いますか。

(1)、(2)のそれぞれについて、あてはまる番号をすべて記入してください。

- (1) この1年間に参加したことがある活動
 〆→ あてはまる番号をすべて記入
- (2) 現在参加しているものも含めて、今後参加したいと思う活動
 〆→ あてはまる番号をすべて記入

1. 自治会や町内会、商店会などの地域活動
2. 保育園・幼稚園の父母会、学校のPTA活動
3. 子ども会や少年スポーツチームの指導や世話
4. 趣味やスポーツの活動
5. 地域の仲間同士集まって行う勉強会や研究会
6. 環境問題、消費者問題、リサイクルなどの市民活動
7. 高齢者や障害者の介護・介助などのボランティア活動
8. 審議会、委員会などの政策決定にかかわる活動
9. その他の活動（具体的に： _____）
10. どれも参加していない/どれも参加したいとは思わない

問20 議員や附属機関等（審議会・行政委員会等）の委員など政策や方針を決定する過程で女性の参画が少しずつ進んでいます。

江戸川区では、女性議員は36.4%（令和6年4月1日時点）、附属機関等の女性委員は29.8%（同時点）を占めています。

あなたは、この数字をどのように思いますか。あてはまる番号に1-3をつけてください。

1. 少ないと思う
2. 妥当だと思う
3. 多いと思う
4. わからない

問21 問20の回答を踏まえて、あなたは、今後、行政や企業、社会的活動などの方針決定の場に、女性の割合をどの程度増やす必要があると思いますか。

1. もっと増やす必要がある
2. 現状のままでよい
3. これ以上増やす必要はない
4. わからない

問21-2 問21で「1. もっと増やす必要がある」と回答した方におたずねします。
 あなたは、今後、女性がより方針決定の過程に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1. 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識をなくすること
2. 男性優位の組織運営を変えること
3. 家族の支援・協力を得ること
4. 女性の能力開発の機会を増やすこと
5. 女性があまり進出していない分野で男女の格差を是正する措置をとること
6. 女性が積極的に意識を改めること
7. 女性の参画を進めようとして意識している人を増やすこと
8. その他（具体的に： _____）

性の多様性の尊重と人権についておたずねします

問22 あなたは、つぎの言葉について知っていますか。あてはまる番号に1-3をつけてください。

項目	知っている	聞いたことはあるが詳しい内容まではわからない	知らない
LGBT（※1）	1	2	3
SOGI（※2）	1	2	3

※1 LGBTとは、自分と同じ性別の人を好きになる人（レスビアン（Lesbian）・ゲイ（Gay）、同性・異性双方を好きになる人（バイセクシュアル（Bisexual））、体の性と心の性が一致しない人（トランスジェンダー（Transgender））の頭文字をつないだ言葉の意味しています。性のあり方は多様で、こうしたLGBTの枠に当てはまらない人もいます。

※2 SOGIとは、自分自身がどの性に恋愛感情を抱くのかということと意味する「性的指向」(Sexual Orientation)と自分自身がどのような性だと思っているかということと意味する「性自認」(Gender Identity)の頭文字をつないだ言葉の意味しています。

問23 あなたの身近な人にLGBT等の人はいますか。あてはまる番号に1-3をつけてください。

1. いる
2. いない（わからない）

問24 身近な人から、LGBT等であることを打ち明けられたとき、どうしますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

理解する	1.はい	2.いいえ	3.わからぬ
悩みを聞く	1.はい	2.いいえ	3.わからぬ
相手との距離	1.今までどおり	2.距離を置く	3.わからぬ

男女共同参画の視点の防災についておたずねします

問25 あなたは性別にとられない防災対策や避難所の運営について、どのようなことが特に重要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1. 災害対策マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる
2. 災害対応において、男女両方のリーダーを育成する
3. 避難所の管理責任者を、男女両方配置する
4. 防災会議等に女性委員を増やす
5. プライバシーに配慮した、避難所設備（トイレや更衣室、休憩スペース等）を配置する
6. 避難所での悩みに対応する相談窓口やプライバシーに配慮した相談窓口の設置
7. 女性や子どもに対する暴力を防ぐ対策を講じる
8. ホテルなどの民間設備の活用
9. その他（ ）

生涯を通じた健康支援についておたずねします

問26 あなたは、誰もが生涯を通じたところからの健康を維持するために、どのような施策や支援が必要だと思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 各年代における健康に関する意識啓発
2. 健康診査や各種検診などの予防対策の推進
3. 妊娠・出産等に関する支援
4. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）※の普及・啓発
5. ところからこれに関する相談支援
6. 精神疾患や依存症への支援
7. 自殺予防対策の推進
8. その他（ ）
9. とくにない

※リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは

- ・「性と生殖に関する健康と権利」と訳されます。
- ・平成6（1994）年にカイロで開催された「国際人口・開発会議」において提唱された概念で、生涯を通じて、自らのからだについて自己決定を行い、健康を享受する権利をいいます。
- ・男女がともに持つ権利ですが、とりわけ女性の重要な人権とされており、いつ何人の子どもを産むか産まないかを自ら判断し決定する自由・権利、安全で満足のいく性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなどが中心課題とされています。
- ・思春期や更年期における健康上の問題、不妊、性感染症の予防など、妊娠・出産に限定されない、生涯を通じてのからだの問題が広く議論の対象とされています。

困難な問題を抱える女性への支援策についておたずねします

令和6年4月1日に、性的な被害や、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活、社会生活を円滑に営むことが困難な女性の福祉の増進を図ることを目的として、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」※が施行されました。

※「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」とは

- 女性が日常生活又は社会生活を営むに当たり女性であることにより様々な困難な問題に直面することが多いことに鑑み、困難な問題を抱える女性の福祉の増進を図るため、困難な問題を抱える女性への支援に関する必要な事項を定めることにより、困難な問題を抱える女性への支援のための施策を推進し、もって人権が尊重され、及び女性が安心して、かつ、自立して暮らせる社会の実現に寄与することを目的とするものです。
- この法律上の「困難な問題を抱える女性」とは、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性（そのおそれのある女性を含む。）をいいます。

問27 あなたは、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」をご存知でしたか。

あてはまる番号に1-3をつけてください。

1. 法律も、その内容も知っていた
2. 法律があることは知っているが、内容はよく知らなかった
3. 法律があることを知らなかった

問28 あなたは、性的な被害や、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活、社会生活を円滑に営むことが困難な女性を支援するために、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまる番号に3-9まで○をつけてください。

1. 相談体制の整備等による対象者の早期の把握
2. 気軽に立ち寄れる居場所の整備や、多様な一時保護先の確保
3. 専門職や性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター等と連携した心身の健康回復及び法的課題の解決
4. 自立に向けた総合的な生活・就労・居住支援の提供や、地域での安心な生活を支えるアプターケア
5. 予期せぬ妊娠や、貧困、DV等により子どもを育てることが難しい人への支援
6. 本人の意向を踏まえた個別支援計画の作成、支援会議への本人の参加
7. DV等により一時避難をしている人及び同伴児童への支援体制の強化
8. 関係団体（女性支援を行うNPO法人等）と協働した若年女性等支援の推進
9. 公的な女性支援施設（女性相談支援センターや女性自立支援施設等）の体制強化・機能強化
10. 施策の周知・啓発・広報の強化
11. その他（ ）
12. わからない
13. 取組をする必要はない

さいごに、あなたのことについてもう少しおたずねします

F1 あなたの性別について、あてはまる番号に1-3○をつけてください。

1. 女性
2. 男性
3. その他
4. 回答しない

F2 あなたの年齢はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1-3○をつけてください。

1. 18～19歳
2. 20～24歳
3. 25～29歳
4. 30～34歳
5. 35～39歳
6. 40～44歳
7. 45～49歳
8. 50～54歳
9. 55～59歳
10. 60～64歳
11. 65～69歳
12. 70歳以上

F3 あなたの家族構成はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1-3○をつけてください。

1. 一人暮らし
2. 夫婦のみ（事実婚を含む）
3. 二世帯同居（親と未婚の子が同居）
4. 二世帯同居（親と子ども夫婦が同居）
5. 三世帯同居（親と子どもと孫が同居）
6. その他（具体的に： ）

F4 あなたは結婚の経験がありますか。あてはまる番号に1-3○をつけてください。

1. 結婚している（配偶者と同居している）
 2. 結婚している（配偶者と別居している）
 3. 結婚していないが同居しているパートナーがいる
 4. 結婚したが死別した
 5. 結婚したが離別した
 6. 結婚していない
- F4-2にお進みください
- F5にお進みください

F4-2 F4で1～3と回答した方におたずねします。

あなたの方針またはパートナーの働き方はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1-3○をつけてください。

1. 夫、妻またはパートナーだけが働いている
2. 共働きである
3. その他（具体的に： ）

F5 あなたにお子さんはいますか。別居の方も含めてお答えください。
つぎのうち、あてはまる番号に120をつけてください。

- | | | |
|---------------|---|--------------|
| 1. 女の子だけいる | → | F5-2にお進みください |
| 2. 男の子だけいる | → | F5-2にお進みください |
| 3. 女の子も男の子もいる | → | F5-2にお進みください |
| 4. いない | → | F6にお進みください |

F5-2 F.5で1～3と回答した方におたずねします。
一番下のお子さんはつぎのうちどれにあたりますか。
あてはまる番号に120をつけてください。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 1歳未満 | 5. 小学校4～6年 |
| 2. 1～3歳未満 | 6. 中学生 |
| 3. 3歳以上の未就学児 | 7. 高校生以上の学生 |
| 4. 小学校1～3年 | 8. 社会人 |

F6 あなたは江戸川区に何年お住まいですか。あてはまる番号に120をつけてください。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 1年未満 | 4. 5～10年未満 |
| 2. 1～3年未満 | 5. 10～20年未満 |
| 3. 3～5年未満 | 6. 20年以上 |

質問は以上です。長時間にわたりご協力ありがとうございました。

(2) 調査票／子ども向け

子ども向け調査票

えどがわくせい ひょうどう たよようせい そんちよう 江戸川区性の平等と多様性を尊重する社会づくりに関する意識調査



女性に関する質問も、男性に関する質問も、すべて、あてはまる番号に○をつけてください。

ご自身について、お答えください。

問1 全ての方におたずねします。

(1) から (7) のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

番号	質問	1	2	3	4
1	「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある		○		
2	「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある	1	2	3	4
3	性別で教科の得意、不得意があると思う	1	2	3	4
4	(将来の仕事について)性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う	1	2	3	4
5	「男の子なんだから」「女の子なんだから」と親(保護者)に言われたことがある	1	2	3	4
6	「男の子なんだから」「女の子なんだから」と祖父母や親せきなど周りの大人に言われたことがある	1	2	3	4
7	性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある	1	2	3	4

《記入例》

(1) 「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある

(1) 「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある

(2) 性別で教科の得意、不得意があると思う

(3) (将来の仕事について)性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う

(4) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と先生に言われたことがある

(5) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と親(保護者)に言われたことがある

(6) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と祖父母や親せきなど周りの大人に言われたことがある

(7) 性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある

小学5、6年生の方へおたずねします。

ご自身のことについて

F1 あなたの性別について、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

- 1. 女性
- 2. 男性
- 3. 回答しない

F2 あなたの学年はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

- 1. 5年生
- 2. 6年生

小学5、6年生の方の質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

中学生以上の方は、次のページの質問についてもお答えねがいます。

ここからは、中学生以上の方におたずねします。

問2 (1) から (4) のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

ここでは、理系科目：「数学・理科」、文系科目：「国語・社会」とします。

番号	質問	1	2	3	4
1	理系科目は男性の方が得意だと思う		○		
2	理系科目は男性の方が得意だと思う	1	2	3	4
3	文系科目は男性の方が得意だと思う	1	2	3	4
4	文系科目は女性の方が得意だと思う	1	2	3	4

《記入例》

(1) 理系科目は男性の方が得意だと思う

(1) 理系科目は男性の方が得意だと思う

(2) 理系科目は女性の方が得意だと思う

(3) 文系科目は男性の方が得意だと思う

(4) 文系科目は女性の方が得意だと思う

問3 将来進みたい進路について、性別を理由に否定的な意見を受けたことがありますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

- 1. あてはまる 2. どちらかというあてはまる 3. どちらかというあてはまらない 4. あてはまらない

問3-2 前問で「1.あてはまる」「2.どちらかというあてはまる」と回答した方におたずねします。誰に言われましたか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- 1. 学校の先生 2. 親(保護者) 3. 兄弟姉妹 4. 祖父母や親せき 5. 友人(先輩・後輩含む)
- 6. 塾の先生 7. アルバイト先の上司・同僚等 8. その他

問4 将来就きたい職業について、性別を理由に否定的な意見を受けたことがありますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

- 1. あてはまる 2. どちらかというあてはまる 3. どちらかというあてはまらない 4. あてはまらない

問4-2 前問で「1.あてはまる」「2.どちらかというあてはまる」と回答した方におたずねします。誰に言われましたか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- 1. 学校の先生 2. 親(保護者) 3. 兄弟姉妹 4. 祖父母や親せき 5. 友人(先輩・後輩含む)
- 6. 塾の先生 7. アルバイト先の上司・同僚等 8. その他

問5 (1) から (4) のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ〇をつけてください。

	そう思う	どちらかと思う	どちらか知らない	そう思わない
<<記入例>> (1) 家事は男性の方が向いていると思う	1	2	3	4
(1) 家事は男性の方が向いていると思う	1	2	3	4
(2) 家事は女性の方が向いていると思う	1	2	3	4
(3) 育児は男性の方が向いていると思う	1	2	3	4
(4) 育児は女性の方が向いていると思う	1	2	3	4

問6 (直近1年間のことを思い浮かべながらご回答ください)

次の中から「男らしい」「女らしい」という情報発信を感じたことがあるものについて、あてはまる番号に1つでも〇をつけてください。

- 1.メディア (テレビ、ラジオなど)
- 2.インターネット・SNS
- 3.学校の活動
- 4.学校外の活動 (塾・アルバイトなど)
- 5.家庭生活
- 6.地域活動
- 7.その他
- 8.該当なし

無意識の思い込み (アンコンジャス・バイアス) の認知度・その他について

問7 無意識の思い込み (アンコンジャス・バイアス) について知っていますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

- 1.よく知っている
- 2.ある程度知っている
- 3.あまり知らない
- 4.全く知らない

問8 無意識の思い込みについて、学校で習ったことはありませんか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

- 1.習ったことがある
- 2.習ったことがない

ご自身のことについて

F1 あなたの性別について、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

1. 女性
2. 男性
3. その他
4. 回答しない

F2 あなたの学年 (年齢) はつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

1. 中学1年生
2. 中学2年生
3. 中学3年生
4. 高校1年生相当
5. 高校2年生相当
6. 高校3年生相当

——質問は以上です。長時間にわたりご協力ありがとうございました。——

江戸川区性の平等と多様性を尊重する社会づくり
に関する意識調査

報告書

令和8年5月発行

発行 江戸川区
編集 江戸川区総務部人権・男女共同参画推進センター
東京都江戸川区瑞江二丁目9番15号
電話 03-6638-8089（直通）